I·O DATA

ET-MPS

取扱説明書

29583-01

【ご注意】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、株式会社アイ・オー・データ機器PLANTコールセンターまでご連絡ください。
4) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
5) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。
国外に持ち出す場合には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
6) 本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
7) 本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
8) 書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
9) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関る設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
10) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is only suitable for use in Japan.　We shall have no liability for any damages arising from the use or inability to use this product in other countries.　We neither provide any technical support and/or after-service for the use of this product abroad.)
11) 弊社は、お客様が［ご注意］の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。
12) お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。

● この度は、ET-MPSをお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

本製品を正しくお使いいただくために、ご使用の前に本書を良くお読みください。

また、このマニュアルは保証書とともに大切に保管しておいてください。ご使用中に分からないことがあったとき等、きっとお役に立ちます。

本製品の故障、誤動作、不具合あるいは停電などの外的要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害などの純粋経済損失につきましては、弊社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

本マニュアル中の表記について

■以下の文字は非常に間違いやすいので注意してください。

◆全角文字アルファベット大文字「Ｏ」（オー）と全角数字「０」（ゼロ）

◆半角数字「1」（イチ）と半角アルファベット小文字「l」（エル）、半角アルファベット大文字「I」（アイ）

■本マニュアルでは、キーボード入力、画面表示に一般的な表記を用いています。このため、お使いのパソコン機種においてはキーボード、画面表示が異なることがあります。

本マニュアルでの表記	各パソコン機種での表記
↲	<Enter>、改行　等
＼　又は　￥	￥　又は　＼

■本マニュアルでは一部の語句について、略語表記しているところがあります。

本マニュアルでの略語表記	正式な呼称
ISP	インターネット･サービス･プロバイダ
PC	パソコン、コンピュータ、端末等
RAS	リモートアクセスサービス
TA	ターミナルアダプタ
Windows98	Microsoft® Windows®98 Operating System
Windows95	Microsoft® Windows®95 Operating System
Windows98/95	Windows98 及び Windows95 の総称
WindowsNT4.0	Microsoft® WindowsNT® Operating System Version4.0
Windows	Windows98/95 及び WindowsNT4.0 の総称
PLUS!	Microsoft® PLUS! For Windows®95

■本製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や財産への損害を防ぐために、下記マークの記されている項目を必ずお守りください。

⚠警　告	本表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡あるいは重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
⚠注　意	本表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を追う可能性が想定される内容、および物的損害の発生が想定される内容を示します。

■以下のマークが付いている箇所は、本製品をお使いいただく上で必ず確認･注意していただきたい項目です。

確 認	ここに記載されている内容を必ず確認･注意してください。

本マニュアルの構成について

第1～3章を必ずご参照ください。

第1章　はじめに

本製品の特長や付属品の確認について説明しています。

第2章　準備

本製品を使用するために必要なシステム構成や各ケーブルとの接続、パソコンの設定について説明しています。

第3章　基本設定（必須）

本製品の設定を行うために必要な設定ツールのインストール作業や、本製品の各機能を使う上での共通設定項目について説明しています。

※ 実際に使用する接続方法に応じて以下のように進んでください。

第4章　ダイヤルアップIP接続の設定

ISPへダイヤルアップIP接続（端末型またはLAN型）を行う際の設定について説明しています。

第5章　RAS接続の設定

RAS接続（サーバーまたはクライアント）する際の設定について説明しています。

第6章　専用線接続の設定

ISP専用線やローカル専用線へ接続する際の設定について説明しています。

第7章　高度な設定

ファイアウォールやSYSLOG、スタティックルーティング、IPマスカレードの詳細設定、電子メール共有機能について説明しています。必要に応じてお読みください。

第8章　設定の終了

設定内容の保存方法や、設定内容を工場出荷値に戻す方法について説明しています。

第9章　回線の接続/切断

各ソフトウェアを使用する際に必要な設定や回線の接続/切断方法について説明しています。

第10章　応用

本製品の各接続機能を使用した応用例です。必要に応じてお読みください。

第11章　資料

本製品の仕様や、本マニュアルに記載されている語句の説明（用語集）です。
必要に応じてお読みください。

第12章　付録

正しく動作しない場合等のトラブルシューティング（Q&A）　及びユーザーサポートについて説明しています。必要に応じてお読みください。

もくじ

第1章　はじめに

1．1　特長

本製品 ET－MPS は、［4 ポート HUB + IP ルーター +リモートアクセスサーバ］を 1 台に融合した製品です。高速シリアルインタフェースを備えモデムや TA 等の回線接続機器を自由に選択し使用できる、SOHO（SmallOffice、HomeOffice）や小規模 LAN 間接続に最適なネットワーク製品で、次のような特長があります。

●10BASE-T　4ポートHUB（RJ-45 4ポート搭載）

Ethernet 10BASE-T HUB（4ポート）を搭載しております。

●高速シリアルインタフェース（RS-232C×2ポート搭載）

最大転送速度460.8Kbpsの高速シリアルインタフェースを2ポート搭載しております。

●RASサーバ専用機としても利用可能

最大2ポートをRASサーバとして利用できます。またWindowsのコールバックにも対応し快適モバイル環境構築にも役立ちます

※RAS・・・・Remote Access Service。リモート・アクセス・サービスの略称です。一般公衆回線等を利用して、遠隔地からコンピュータネットワークを使用することです。

●RASクライアントIP接続

RASクライアントとしてRASサーバーへダイヤルアップ接続が出来ます。

●RASサーバーIP機能

RASサーバーとして、RASクライアントからのダイヤルアップ接続受付が出来ます。

●ISP・端末型ダイヤルアップIP接続対応

ISPへダイヤルアップIP接続が出来ます。

※ ISP・・・・Internet Service Provider。インターネット・サービス・プロバイダの略称です。（一般的にプロバイダと呼ばれています。）
企業や個人に対しインターネット接続サービスを提供する、回線業者のことです。

●ISP・LAN型ダイヤルアップIP接続対応

LANとインターネットを接続して、双方向のダイヤルアップIP接続が出来ます。

●ISP･専用線型IP接続対応

ISP専用線にIP接続が出来ます。OCNエコノミー、ODNエコノミーにも接続が出来ます。

※ 専用線型IP接続･･･専用線とは一般公衆回線と異なり、通信時間や接続距離とは無関係に固定料金で通信出来る通信回線のことです。(通信相手は1対1固定)。ダイヤルアップIP接続がインターネットへ接続する際モデムやTA等でISPへ電話をかけるのに対し、専用線型IP接続はISPとの通信回線に専用線を用いてインターネットへ常時接続する方法です。

※ OCNエコノミー･････Open Computer Network。NTT社が提供するインターネット専用線接続サービスの一つです。

※ ODNエコノミー････Open Data Network。日本テレコム社が提供するインターネット専用線接続サービスの一つです

●ローカル専用線接続対応

事業所間等を結ぶローカル専用線に接続が出来ます。
デジタルアクセス64/128にも接続が出来ます。

※デジタルアクセス64/128･･･NTT社が提供するデジタル専用線サービスで30km以下の近距離がサービス対象となります。通信速度はそれぞれ64Kbps、128Kbpsです。

※専用線接続するとき使用するTAの機能によってはISP専用線、ローカル専用線接続が出来ない場合があります。必ず専用線接続に対応しているTAを使用してください。

●複数台のパソコンからインターネット同時使用が可能

NATやIPマスカレード(NATエクステンション)機能を装備。IPアドレス変換を行うことで、複数台のLAN内接続パソコンから同時にインターネットへ接続することが出来ます。
(最大256セッションの同時使用が可能)

※NAT(Network Address Translator)、IPマスカレード
NATとIPマスカレードは複数台のパソコンからインターネットへ同時に接続するための機能です。NATはLANで使用しているプライベートIPアドレスをインターネットで使用出来るグローバルIPアドレスへ変換することにより、プライベートIPアドレスしか持たないLAN内のパソコンからインターネットへ接続出来るようにする機能です。NATの場合、プライベートIPアドレスとグローバルIPアドレスは1対1で対応していなければなりません。よって、同時にインターネットへ接続出来るパソコンの台数は、ISPやRASサーバーから提供されたグローバルIPアドレスの数に依存します。
IPマスカレードはISPまたはRASサーバーから提供された一つのグローバルIPアドレスを複数のプライベートIPアドレスへ変換し、同時に複数台のパソコンでインターネットへ接続出来るようにする機能です。NATとは異なり、同時にインターネットへ接続出来るパソコンの台数は、ISPやRASサーバーから提供されたグローバルIPアドレスの数には依存しません。ただし、IPマスカレードでは正しく動作しないアプリケーションもありますので、この場合はNATを使用します。

■プライベートIPアドレス････インターネットと接続しないネットワークでのみ使用可能なIPアドレスです。本製品では出荷時にこのアドレスが割り当てられています。(192.168.0.1など)

■グローバルIPアドレス････インターネットで使用可能なIPアドレスです。重複防止等、全世界で一括管理されています。

●簡易Ｅメールシェアリング

１つのＥメールアカウントを最大８人で共有利用可能

●簡易ファイヤウォール

"IPフィルタリング"により簡易ファイヤウォールとしても利用可能

●簡易DHCPサーバ

パソコンに自動的にIPアドレスを割当てる簡易DHCPサーバ機能を搭載

●運用管理に便利なsyslog機能搭載

ダイヤルアップ接続状況等のログ（履歴）管理に便利なsyslog機能を搭載

●ISP自動接続／切断（ダイヤルアップIP接続時）

インターネット利用ソフトウェア（WWWブラウザ等）を起動すると、あらかじめユーザーが登録したISPへ自動でダイヤルアップIP接続します。また、設定した一定時間内に通信が無かった時は、自動的に回線を切断します。

●テレホーダイ対応

ＮＴＴ社の夜間限定定額サービス「テレホーダイ」の時間帯（11:00PM～8:00AM）は無通信による回線自動切断を行わないように設定できます。テレホーダイサービス時間が終了すると自動的に回線を切断します。

※テレホーダイ････夜間（11:00PM～8:00AM）に限り、なおかつあらかじめ登録された電話番号先に限り、通話（通信）時間に関係無く一定料金で通話出来るようにするNTT社のサービスです。

●ATコマンドによる外付けモデム/TA（TA）の制御

各社各種のモデム/TAの制御（初期化やダイヤル）を自動で行います。ユーザーがATコマンドを制御する必要が無く、自動的に回線の接続／切断を行います。

●初期セットアップも、LANポートから可能

設定変更はもちろんのこと、初期セットアップもLAN経由で行えます。

●Windows98／95※／NT4.0対応専用設定ツールを用意

※ Windows95の場合は、OEM Service Release (OSR2) 以降が必要です。

初心者の方でも簡単にセットアップが行えるよう、専用設定ツールを添付しております。

●弊社製”スリムスタックハブシリーズ”とスタック可能

弊社製「スリムスタックハブシリーズ」 ET-ST8, ET-DST8BR, ET-DST8等に積み上げ（スタック）可能です。（最上段にのみスタック可能です。）

[1.1 特長　以上]

1．2　付属品について

・同梱構成品

No.	内容物	個数	備考
1	ET-MPS本体	1台	
2	ACアダプタ	1個	
3	10BASE-Tストレートケーブル（カテゴリ3）	1本	3m
4	ET-MPSサポートソフト	1枚	3.5インチ2HD（1.44MB）
5	取扱説明書	1冊	本書（ユーザー登録カード付き）
6	ハードウェア保証書	1枚	
7	Verシール	1枚	
8	ハードウェアシリアルNo.シール	1枚	
9	『安全で快適にお使いいただくために』	1冊	

万が一、不足品がございましたら弊社PLANTコールセンターまでご連絡ください。

お願い：箱・梱包材は大切に保管し、修理などで輸送の際にご使用ください。

・ ユーザー登録について

オンラインによる登録と、ハガキによる登録の2通りがあります。
いずれかの方法で登録を行ってください。

《オンラインによる登録》（ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ http://www.iodata.co.jp/support/）

I-O DATA ホームページのサポートコーナーに「オンライン・ユーザー登録」ボタンが用意されています。このボタンをクリックするとオンライン登録の案内が表示されますので、画面の表示にしたがって必要事項を記入することにより、即座にユーザー登録が行えます。

オンライン・ユーザー登録を行えば、抽選で賞品が当たる等のお楽しみ企画をご用意しております。
オンライン・ユーザー登録後、お手元のユーザー登録カードは、ユーザー登録番号を記入して大切に保管してください。

《ハガキによる登録》

1)添付のVerシールを、ユーザー登録カード、サポートソフトウェアディスクの「Verシール」と書かれている欄、本書の巻末に貼ってください。
2)ユーザー登録カードに添付のハードウェアシリアルNo.シールを貼り、必要な事項をご記入のうえ、弊社まで必ずご返送ください。

⚠注　意	1)弊社では、PLANTコールセンターでのソフトウェアのバージョンアップサービスなどを行っていますが、これらのサービスはユーザー登録を行った方のみが対象となります。お買い上げいただいた製品ごとに必ず登録してください。 2)ユーザー登録の際、必要事項のご記入もれ(ユーザー登録カードの場合は、必要なシールの貼り忘れなど)があった場合は、ユーザー登録できませんので、必ずご確認ください。

1．3　取り扱い及び使用上の注意

- 本製品は非常に精密にできておりますので、以下の注意事項を守ってお使いください。
  - ● 高温、多湿、低温の場所に放置しないでください。
  - ● コネクタ部分に金属を差し込まないでください。
  - ● 無理な加重をかけないでください。
  - ● 濡らさないでください。
  - ● 落とさないでください。
  - ● 分解や改造などをしないでください。
  - ● 電源コードを無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。また、重いものを上に載せないでください。

- 本製品の内部の点検・調整・修理は弊社 PLANT コールセンターにご依頼ください。

- 保証について

◎保証期間

・保証期間は、お買い上げの日より1年間です。保証期間を過ぎたものや、保証書に販売店印とお買い上げ日の記述のないものは、有料修理となります。また、修理を受ける場合には保証書が必要になりますので、大切に保管してください。

・弊社が販売中止を決定してから、一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。

詳細は、ハードウェア保証書をご覧ください。

◎保証範囲

次のような場合は、保証の責任を負いかねます。予めご了承ください。

・本製品の使用によって生じた、データの消失及び破損。

・本製品の使用によって生じた、いかなる結果やその他の異常。

・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障。

・本体内部に液体、金属などの異物が入らないようにしてください。また、本体についた汚れなどを落とす場合は、柔らかい布で乾拭きしてください。
洗剤で汚れを落とす場合は、必ず中性洗剤を水で薄めてご使用ください。
ベンジン、アルコール、シンナー系の溶剤を含んでいるものは使用しないでください。

１．４　実行用ディスクの作り方

本製品に添付されているサポートソフトウェアディスクは必ずバックアップを取り、バックアップディスクの方を実行用ディスクとしてご使用ください。
ここでは、フロッピーディスクドライブがAドライブの場合の例を示します。

1 1.44MBでフォーマット済みの空きフロッピーディスク(3.5インチ2HD)を用意します。

2 サポートソフトウェアディスクを書き込み禁止にします。

3 Windows98/95,WindowsNT4.0の場合は、『マイ　コンピュータ』の「3.5インチ　FD(A:)」を右クリックし『ディスクのコピー』を選択します。

(Windows98/95/NT4.0の例)



4 サポートソフトウェアディスクと空きフロッピーディスクをメッセージにしたがって入れ替えながら、バックアップを取ります。

⚠注　意	サポートソフトウェアディスクを破損した場合の修理は有償です。 必ずバックアップを取り、サポートソフトウェアディスクは大切に保管してください。

＜MEMO＞

第2章　準備

2．1　必要なシステム構成

●本製品の他に必要なもの（別途ご用意ください）

1)回線接続機器

◆モデム、又は TA 及び DSU
→接続する回線に応じてモデムか TA を選択してください。
なお、TA によっては DSU 内蔵のものあります。

◆シリアルケーブル（RS-232C ケーブル）
→必要に応じて、モデム/TA に付属のケーブルまたは市販のケーブルをご用意ください。

2)LAN 機材

◆10BASE-T 対応イーサネットボード（ネットワーク･インターフェース･カード）
→LAN へ接続するパソコンの台数分ご用意ください。

◆10BASE-T ストレートケーブル（1 本は本製品に付属）
→LAN へ接続するパソコンの台数分ご用意ください。

※本製品に接続するパソコンが 5 台以上のとき

◆HUB
→LAN ポート増設のために HUB が必要となります。
なお、HUB にカスケード（極性反転）スイッチ又はポートが無い場合は 10BASE-T クロスケーブルも別途ご用意ください。

◆弊社製「スリムスタックハブシリーズ」とスタックする場合
→弊社製「スリムスタックハブシリーズ」 ET-ST8, ET-DST8BR, ET-DST8 等に積み上げ（スタック）可能です。（最上段にのみスタック可能です。）
本製品と接続する際には、「スリムスタックハブシリーズ」の左側面スイッチを ”MDI” 側にし、8 番ポート（カスケード用ポート）から、10BASE-T ケーブルでつなげてください。

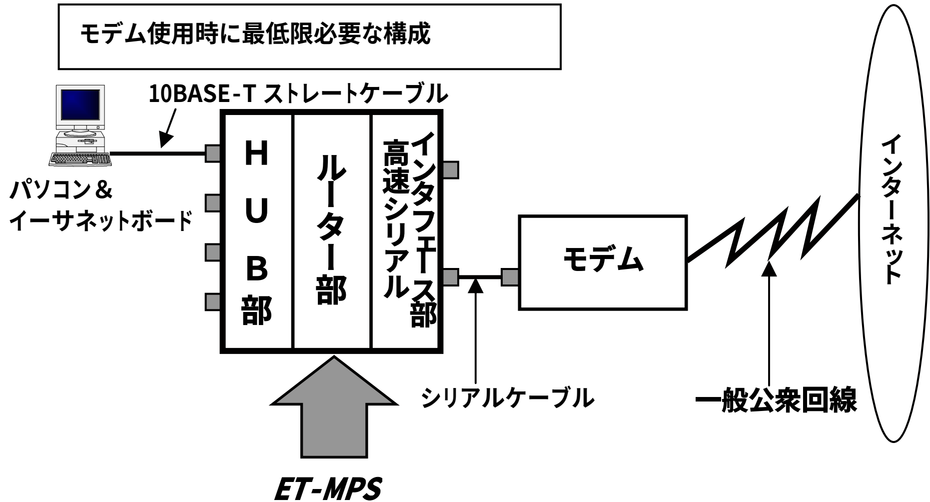
●ISP（インターネット･サービス･プロバイダ）との契約（インターネットへ接続する場合）

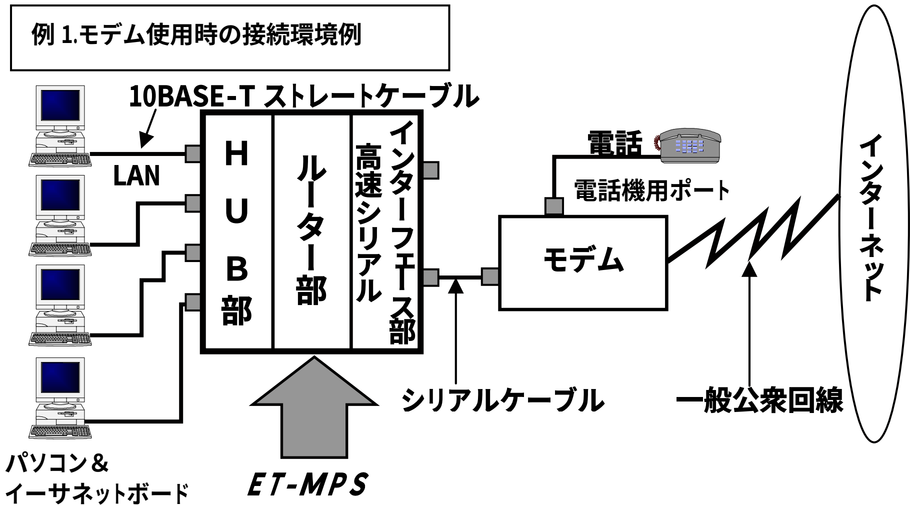
ISP へ加入されていない場合、加入手続きを行ってください。

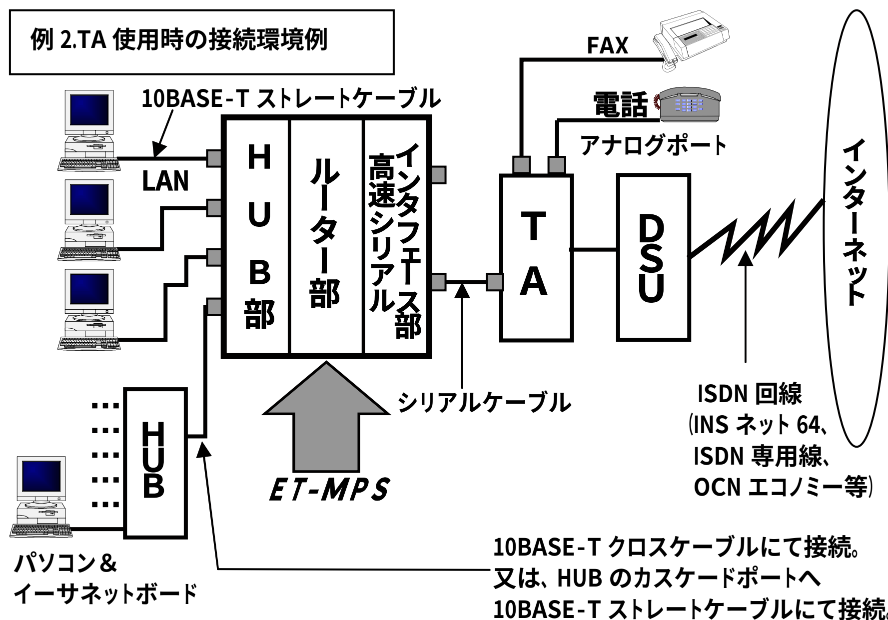
※パソコンやインターネット関係の雑誌等を参考にしてください。

また、ISP への加入に伴い、新規に回線（一般公衆回線、ISDN 回線、専用線等）を増設される場合は、それぞれ関係業者へお問い合わせください。

以下は本製品 ET-MPS を利用していただくためのシステム構成例です。






例 2.TA 使用時の接続環境例
10BASE-T ストレートケーブル
LAN
HUB部
ルーター部
高速シリアルインタフェース部
FAX
電話
アナログポート
TA
DSU
インターネット
シリアルケーブル
ISDN 回線
(INS ネット 64、
ISDN 専用線、
OCN エコノミー等)
HUB
ET-MPS
パソコン＆
イーサネットボード
10BASE-T クロスケーブルにて接続。
又は、HUB のカスケードポートへ
10BASE-T ストレートケーブルにて接続。

≪システム構成での注意≫

確 認	**◆同じLAN内に複数台のET-MPSを接続する場合** 工場出荷状態の ET-MPS を複数台、同じ LAN 内に接続しないようにしてください。また、DHCP サーバー機能は、1台でのみ使用してください。 上記を行わない場合、ET-MPS 同士で IP アドレスが衝突してしまい、動作不良の原因となります。 同じ LAN 内に複数台の ET-MPS を接続するときは、下記の手順で行ってください。 ①DHCP サーバー機能をオフにします。 ②ET-MPS を 1 台だけ LAN に接続してください。 ET-MPS の工場出荷時 IP アドレスは、192.168.0.1 です。他の機器と IP アドレスが重ならない事を確認してから接続してください。 ③ET-MPS の IP アドレスを工場出荷値から変更してください。 （詳しくは第 3 章 P43 以降を参照ください） ④2 台目の ET-MPS を LAN に接続してください。 3 台目以降の ET-MPS を LAN に接続するときも上記の手順を行ってください。DHCP サーバー機能を使用する場合は最後にどれか 1 台のみ設定してください。

確 認	**◆専用線接続する場合** 使用する TA の機能によっては ISP 専用線、ローカル専用線接続が出来ない場合があります。 必ず専用線接続に対応している TA を使用してください。

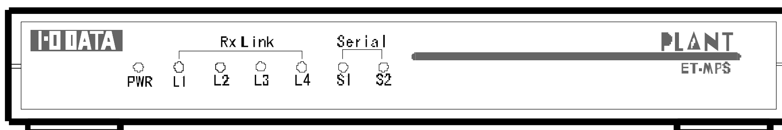
確 認	**◆既存LAN内にDHCPサーバーが既に稼動している場合** 工場出荷時には、本製品は DHCP オンとなっています。（IP アドレスの割り当て：192.168.0.2～192.168.0.33） よって、同じ LAN 内に既に DHCP サーバーが稼動している場合は、DHCP 機能をオフにしてご使用ください。（オフにするには、［3.3.5 DHCP サーバーの設定］(P58)で「DHCP サーバー機能をオフにする」のチェックを外してください。） また、設定に際しては、既存 LAN につながず、単独の LAN で行ってください。既存 LAN への接続は、DHCP 機能をオフにした後、行ってください。

［2.1　必要なシステム構成　　以上］

2．2　各部の名称

●正面

モニターランプ ： ET-MPS の動作状態を表示するランプです。

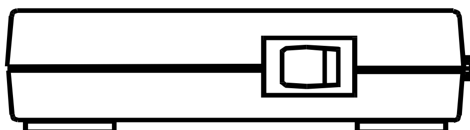


◆PWR ： ET-MPS の電源が ON のときに点灯します。
◆L1 ： 10BASE-T ポート 1 (T1) のリンクが確立中に点灯、受信中に点滅します。
◆L2 ： 10BASE-T ポート 2 (T2) のリンクが確立中に点灯、受信中に点滅します。
◆L3 ： 10BASE-T ポート 3 (T3) のリンクが確立中に点灯、受信中に点滅します。
◆L4 ： 10BASE-T ポート 4 (T4) のリンクが確立中に点灯、受信中に点滅します。
◆S1 ： シリアルポート 1 が送信/受信中のときに点灯します。
◆S2 ： シリアルポート 2 が送信/受信中のときに点灯します。

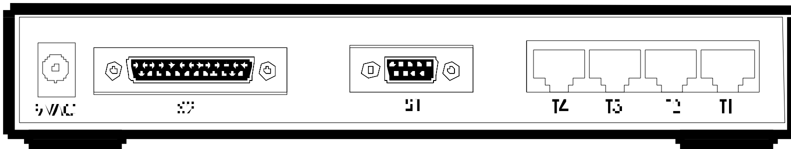
＜語句の説明＞	
■リンク	各機器間を接続することです。

●右側面

Power スイッチ ： ET-MPS の電源を ON/OFF するスイッチです。



●背面 （コネクタ類）



◆T1　：10BASE-T ポート 1 です。10BASE-T ケーブルを使用して、パソコンのイーサネットボードや HUB に接続します。

◆T2　：10BASE-T ポート 2 です。10BASE-T ケーブルを使用して、パソコンのイーサネットボードや HUB に接続します。

◆T3　：10BASE-T ポート 3 です。10BASE-T ケーブルを使用して、パソコンのイーサネットボードや HUB に接続します。

◆T4　：10BASE-T ポート 4 です。10BASE-T ケーブルを使用して、パソコンのイーサネットボードや HUB に接続します。

◆S1　：シリアルポート 1 です。TA やモデム等に接続します。

◆S2　：シリアルポート 2 です。TA やモデム等に接続します。

◆9VAC　：AC アダプタ用コネクタです。付属の AC アダプタを接続します。

[2.2 各部の名称　以上]

2．3　準備の進め方

●ET-MPS のセットアップを行う前に

ET-MPS のセットアップを行う前に、ET-MPS へ接続する全てのパソコンにイーサネットボード（ネットワーク･インターフェース･カード）をセットアップしてください。
また、イーサネットボードは必ず 10BASE-T をサポートしているものをご用意ください。
ET-MPS は、10BASE-T ポートをサポートしていないイーサーネットボードとそのまま接続することが出来ません。

イーサネットボードをパソコンにセットアップする方法は、イーサネットボードのマニュアルを参照してください。

次項目以降において説明している項目は、以下のように読み進んでください。

●添付の設定ツールで設定を行うパソコンの場合

ET-MPS の各設定を行うためには、添付の設定ツールを LAN 内のパソコンにインストールしなければなりません。
設定ツールをインストールするパソコンの場合、以下の順番で読み進んでください。

※添付の設定ツールは Windows98、Windows95（OSR2 以降）又は WindowsNT4.0 上で動作します。

「2.4　設定用パソコンへモデム/TA をセットアップ」（P19）

↓

「2.5　各ケーブルの接続」（P21）

↓

「2.6　LAN へ接続するパソコンの設定-Windows98/95」（P25）
「2.7　LAN へ接続するパソコンの設定-WindowsNT4.0」（P35）

●ET-MPS へ接続するパソコンの場合（HUB 経由も含む）

ET-MPS へ接続するパソコンで、添付の設定ツールをインストールしない全てのパソコンについては、以下の項目を必ず参照してください。
なお、ET-MPS へ HUB 経由で接続するパソコンについても同様です。

「2.5.3　10BASE-T ケーブルの接続（パソコンとの接続）」（P23）

↓

「2.6　LAN へ接続するパソコンの設定-Windows98/95」（P25）
「2.7　LAN へ接続するパソコンの設定-WindowsNT4.0」（P35）

※「2.4　設定用パソコンへモデム/TA をセットアップ」～「2.5.2　AC アダプタの接続」（次～P22）は特に参照する必要はありません。

[2.3　準備の進め方　　以上]

2．4　設定用パソコンへモデム/TAをセットアップ

ET-MPS に接続するモデム/TA の設定情報ファイル（inf ファイル）を、設定ツールをインストールするパソコンにセットアップしておく必要があります。
（ET-MPS 設定ツールはパソコンにセットアップされているモデム/TA の設定情報ファイルを読み込みます。）

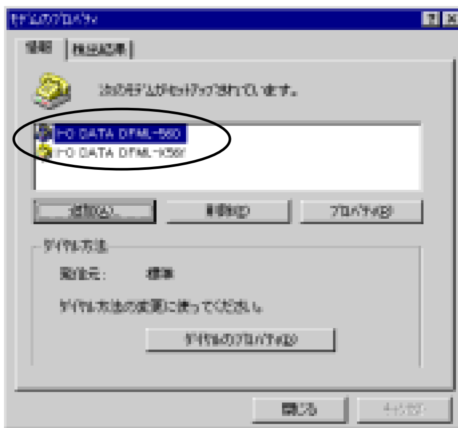
設定ツールをインストールしないパソコンには、本設定は不要です。

2．4．1　モデム/TAのセットアップ

使用するモデム/TA のマニュアルに従いセットアップを行ってください。

モデム/TA を直接パソコンに接続して、ISP へダイヤルアップ IP 接続が出来るか確認してください。（モデム/TA が正しく動作することを確認してください。）
確認が終わりましたら、モデム/TA の設定（コントロールパネルのモデムの情報）はそのまま残しておいてください。ET-MPS の設定ツールが使用します。

既にパソコンの「*モデムのプロパティ*」に ET-MPS と接続するモデム/TA がセットアップされている場合（今まで使用していたモデム/TA とパソコンを流用する場合等）、本設定は不要です。



「*マイコンピュータ*」
↓
「*コントロールパネル*」
↓
「*モデム*」
の順番にダブルクリックしたときに
左記のような画面が表示された場合、
モデム/TA はセットアップ済みです。
（Windows95 の「*モデムのプロパティ*」画面例です。）

・モデム/TA のセットアップが終わりましたら、「2.4.2　モデム/TA 設定の注意」（次ページ）へ進んでください。

確 認	**◆TA（ターミナルアダプタ）を使用する場合** TA に付属している設定ユーティリティーを使用して TA の各機能設定を行う場合、TA を本製品背面のシリアルポートと接続する前（P21～P23 の内容を行う前）に行ってください。（パソコンのシリアルポートと TA のシリアルポートを接続した状態で行ってください。） ET-MPS 背面のシリアルポートはパソコン側から認識されません。

<次ページへ続く>

2．4．2　モデム/TA設定の注意

モデム/TA の設定は、「通信中に CD 信号が ON になる」※ように設定してください。

「CD 信号を常に ON」にする設定には、しないでください。

※モデム/TA　のマニュアルには「相手モデムのキャリア信号に従う」や「キャリアが検出されると CD 信号が ON」等、記載されている内容が異なります。
なお、一般的に CD 信号の制御コマンドは「AT&C」コマンドです。

＜CD 信号の制御コマンド例＞

◆AT&C1 ： CD 信号はキャリアが検出されると（接続されている状態）ON します。

◆AT&C0 ： CD 信号を常に ON にします。 ← この設定にしないでください。

モデム/TA のマニュアルを参照して接続状態の時のみ CD 信号が ON になるよう設定してください。

モデム/TA　の設定方法・設定内容については、それぞれモデム/TA　のマニュアルを参照してください。

又は、本マニュアルの≪「●　追加 AT コマンド」の設定≫（P75）で、モデム/TA の CD 信号を制御する AT コマンドを入力してください。

<< 参考　～設定を「AT&C1」へ戻す手順例　Windows98/95 の場合～　>>

①モデム/TA を接続しているパソコンで Windows98/95 を起動します。

②「*スタート*」→「*アクセサリ*」→「*ハイパーターミナル*」の順番でクリックしていきます。

③「*Hypertrm*」をダブルクリックします。

④「*接続の設定*」画面で任意の名称を入力して「*次へ*」ボタンをクリックします。

⑤「*電話番号*」画面の「*接続方法*」のところで、モデム/TA を接続している COM ポートへのダイレクト接続を選択して「*次へ*」ボタンをクリックします。（例えば、COM1 へモデム/TA を接続している場合、「*COM1 へのダイレクト*」を選択します。）

⑥「*COMx のプロパティ*」画面（「x」は選択した COM ポートの番号）で「*ビット/秒*」が「*2400*」になっていることを確認して「*OK*」ボタンをクリックします。

⑦「*ハイパーターミナル*」が起動しますので、キーボードから直接「AT&C1&W」※と入力します。

※モデム/TA のコマンドは必ず半角文字で入力してください。

※モデム/TA に設定を記憶させるコマンド（下線部：&W）はモデム/TA の機種により異なる場合があります。詳しくはモデム/TA のマニュアルを参照してください。

セットアップが終わりましたら「2.5　各ケーブルの接続」（次ページ）へ進んでください。

[2.4　設定用パソコンへモデム／TA をセットアップ　　以上]

2．5　各ケーブルの接続

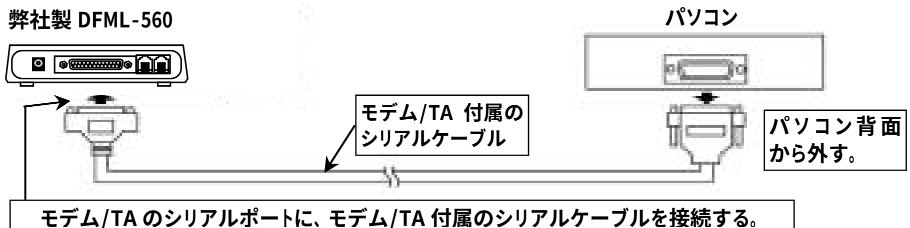
2．5．1　シリアルケーブル（モデム/TA）の接続

注　意	シリアルケーブルの接続をする際は、ET-MPS及びモデム/TAの電源がOFFになっていることを必ず確認してください。

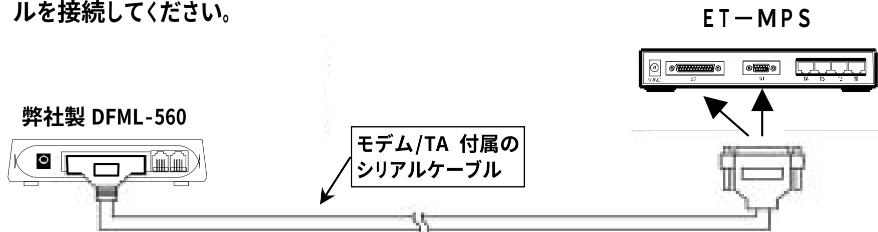
確 認	■接続する各シリアルケーブルは、モデム/TAに付属の専用ケーブルを使用してください。モデム/TAが正しく動作しない原因となりますので、ご注意ください。
	◆モデム/TAによってはケーブルコネクタのピン数や形状が合わず、以下の②のような接続が出来ない場合があります。必要に応じて変換コネクタ等を使用して接続してください。（変換コネクタ等は別途ご用意ください。）

ET-MPSを使用してインターネットやRAS接続を行うためには、ET-MPS背面のシリアルポート（S1又はS2）にモデム/TAを接続する必要があります。

①モデム/TAとパソコン背面を接続しているシリアルケーブル（モデム/TA付属のRS-232Cケーブル）のパソコン側を外してください。



②ET-MPS背面のシリアルポート（S1又はS2）に①でパソコンから外したシリアルケーブルを接続してください。



接続が終わりましたら、次の項目へ進んでください。

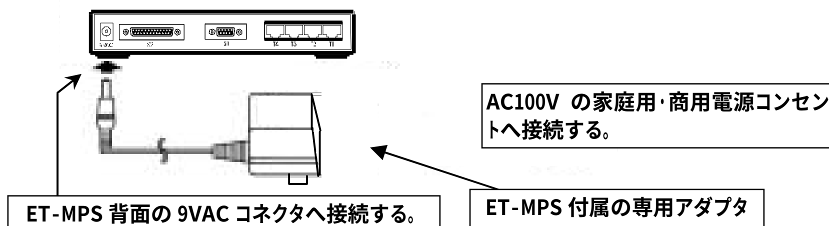
<次ページへ続く>

2．5．2　ACアダプタの接続

⚠警　告	◆濡れた手でACアダプタを抜き差ししないでください。 ◆ACアダプタのプラグにドライバ等の金属が触れないようにしてください。 ◆AC100V以外の家庭用･商用電源以外では使用しないでください。 ◆ACアダプタは必ず付属のものを使用してください。 ◆ACアダプタを抜き差しするときは、必ずACプラグを持って行ってください。 ◆ACアダプタのプラグとコンセントの間のほこりは、定期的（約半年に1回程度）に取り除いてください。 ◆ACアダプタのプラグを電源コンセントへ差し込む際は、必ず奥まできちんと差し込んでください。
⚠注　意	ACアダプタのコードを延長したり、テーブルタップや分岐コンセントを使用して、たこ足配線をしないでください。

ET-MPS 背面の 9VAC コネクタに付属の AC アダプタを差し込む前に、ET-MPS 右側面の POWER スイッチが OFF になっていることを必ず確認してください。

確認後、AC アダプタのコネクタ（丸ピン）を ET-MPS 背面の 9VAC コネクタに差し込み、AC アダプタのプラグを電源コンセントに差し込んでください。
（このとき、ET-MPS 右側面の POWER スイッチは ON にしないでください。）



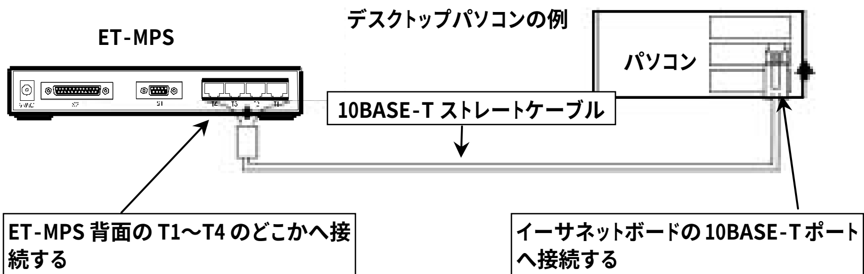
次の項目（次ページ）へ進んでください。

2．5．3　10BASE-Tケーブルの接続（パソコンとの接続）

確 認	**◆既ににLANを構築されている場合** ET-MPS と HUB を接続する場合で、HUB にカスケード（極性反転）スイッチ又はポートが無いときは、必ず 10BASE-T クロスケーブルを別途用意して ET-MPS と接続してください。 なお、同じ LAN 内に複数台の ET-MPS を接続するときは、≪システム構成での注意≫（P15）を必ず参照してください。

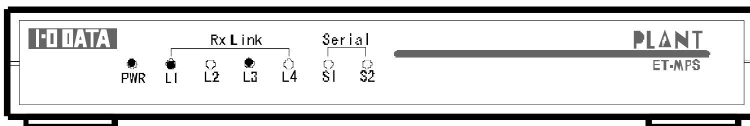
⚠注 意	◆10BASE-Tケーブルの接続をする際は、ET-MPS及びイーサネットボードがセットアップされているパソコンの電源がOFFになっていることを必ず確認してください。 ◆10BASE-Tケーブルをパソコンのイーサネットボード及び ET-MPS背面の10BASE-Tポート（T1～4端子）に挿入する際は、「カチッ」と音がするまでしっかりと挿入してください。 不完全な接続は動作不良を起こす原因となります。

①イーサーネットボードと ET-MPS の 10BASE-T ポート（T1～4）を、10BASE-T ストレートケーブルで接続してください。



②ET-MPS とパソコンの電源を入れ、ET-MPS 正面の「Rx Link」モニターランプが、接続したポートに合わせ点灯していることを確認してください。
（例えば「T1」と「T3」に接続した場合は「L1」と「L3」が点灯します。）

以上で ET-MPS と各ケーブルとの接続は完了です。



■Windows98/95 を使用している方は、
「2.6　LAN へ接続するパソコンの設定-Windows98/95」（P25）へ進んでください。

■WindowsNT4.0 を使用している方は、
「2.7　LAN へ接続するパソコンの設定-WindowsNT4.0」（P35）へ進んでください。

■「Rx Link」のモニターランプが点灯しないときは次ページを参照してください。

●「Rx Link」モニターランプが点灯しないとき

◆ET-MPS とパソコンの両方の電源が ON になっていますか？

◆パソコンと ET-MPS を接続している 10BASE-T ケーブルは、ストレートケーブルで正しく接続されていますか？

◆パソコンにイーサネットボードが正しくセットアップされていますか？

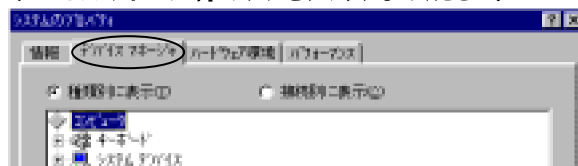
<参考>

～Windows98/95 でイーサネットボードが正しくセットアップされているかの確認方法～

①「マイコンピュータ」をダブルクリックし、「コントロールパネル」をダブルクリックしてください。

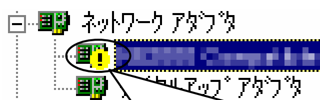
②「システム」をダブルクリックしてください。

③「デバイスマネージャ」のタブをクリックしてください。



＜一部画面省略＞

④デバイス一覧の中から「ネットワークアダプタ」を選択して左側の「+」をクリックしてください。このとき、セットアップしてあるイーサネットボード名の先頭に「!」マークが付いていないか、確認してください。



ここに「!」マークが付いていないか、確認してください。

「!」マークがついている場合、イーサネットボードのセットアップが正しく行われていません。
イーサネットボードのマニュアルを参照して正しくセットアップを行ってください。

2．6　LANへ接続するパソコンの設定-Windows98/95

本項目の内容はET-MPSへ接続する全てのパソコンで必要です。
必ず参照してください。

ET-MPSを使用する場合、ネットワークプロトコルとして「*TCP/IP*」が必要となります。本項目では、Windows98/95での「*TCP/IP*」プロトコルのセットアップ及び設定の手順を説明します。

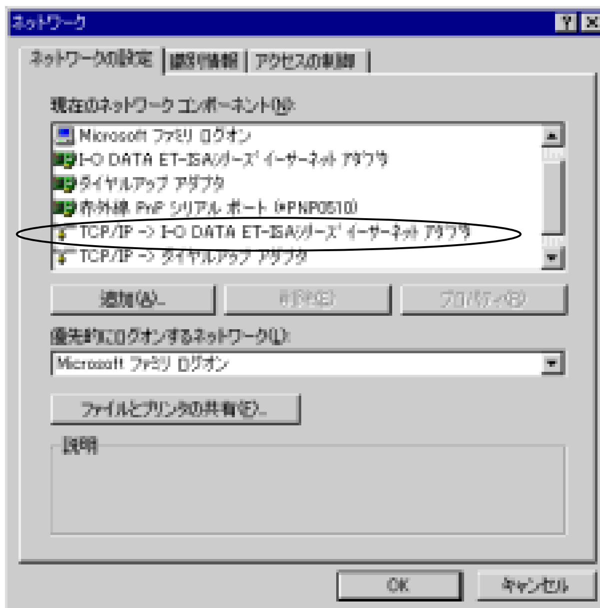
<語句の説明>	
■TCP/IP Transmission Control Protocol / Internet Protocol	インターネットで使用されている通信手順です。米国で開発され、現在では数多くのコンピュータネットワークで採用されています。

2．6．1　TCP/IPプロトコルの確認

「*TCP/IP*」プロトコルがセットアップされているか、下記の手順で確認してください。

①「*マイコンピュータ*」→「*コントロールパネル*」→「*ネットワーク*」の順でダブルクリックしてください。

②下記のような画面が表示されますので「*TCP/IP*」プロトコルがセットアップされているか、確認してください。（下記画面例では「*TCP/IP*」プロトコルがセットアップ済みです。）



<次ページへ続く>

③前ページ②画面の表示内容により、下記を参照してください。

◆「*TCP/IP*」プロトコルがセットアップされている場合。
→「2.6.3　TCP/IPプロトコルの設定」（P29）へ進んでください。

◆「*TCP/IP*」プロトコルがセットアップされていない場合。
→次項目へ進んでTCP/IPプロトコルのセットアップを行ってください。

2．6．2　TCP/IPプロトコルのセットアップ

●Windows98/95のセットアップディスクについて

「*TCP/IP*」プロトコルのセットアップを行うと、Windows98/95のセットアップディスクやCD-ROMが必要となる場合がありますので、あらかじめ用意しておいてください。（Windows98/95のファイルが必要となるため）

■パソコン購入時にWindows98/95が導入されていたパソコンの場合は、下記のフォルダ名を「*ファイルのコピー元*」へ入力していただいても構いません。（ただし、ハードディスクをフォーマットし、Windows98/95の再セットアップを行った場合は除きます。）

◆DOS/VマシンやPC98-NXシリーズの場合 ：　C:\WINDOWS\OPTIONS\CABS

◆PC-9821シリーズの場合 ：　A:\WINDOWS\OPTIONS\CABS

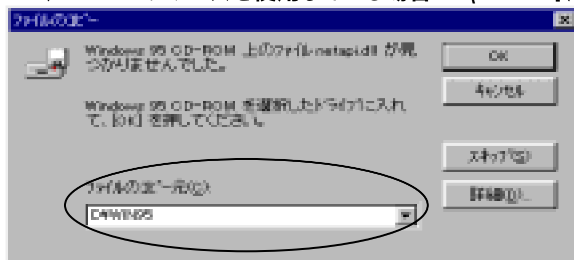
■お客様ご自身で Windows98/95 のセットアップを行った場合（ハードディスクをフォーマットした場合等）、パソコンの CD-ROM ドライブ等へ Windows98/95 の CD-ROM 等を挿入した後、下記を参考にフォルダ名を「*ファイルのコピー元*」へ入力してください。

■Windows95 から Windows98 へアップグレード（上書きセットアップ）した場合、パソコンの CD-ROM ドライブ等へ Windows98 の CD-ROM を挿入した後、下記を参考にフォルダ名を「*ファイルのコピー元*」へ入力してください。

<<参考例>>

Windows98/95 のセットアップディスクを挿入したドライブ名 ＋ \WIN95　又は　WIN98 と入力してください。

例）パソコンの CD-ROM ドライブが D ドライブの場合、「D:\WIN95」又は「D:\WIN98」（PC-9821 シリーズを使用している場合「D:\WIN98N」）と入力してください。



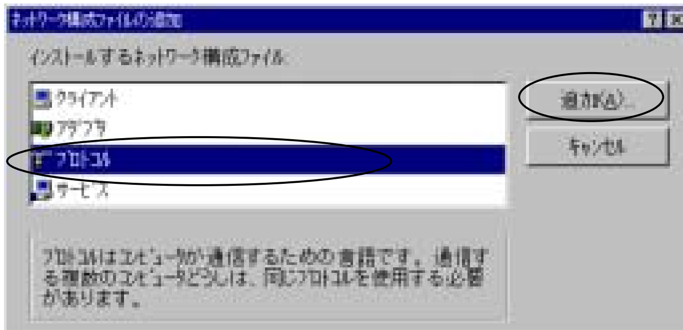
＜次ページへ続く＞

●TCP/IP プロトコルのセットアップ手順

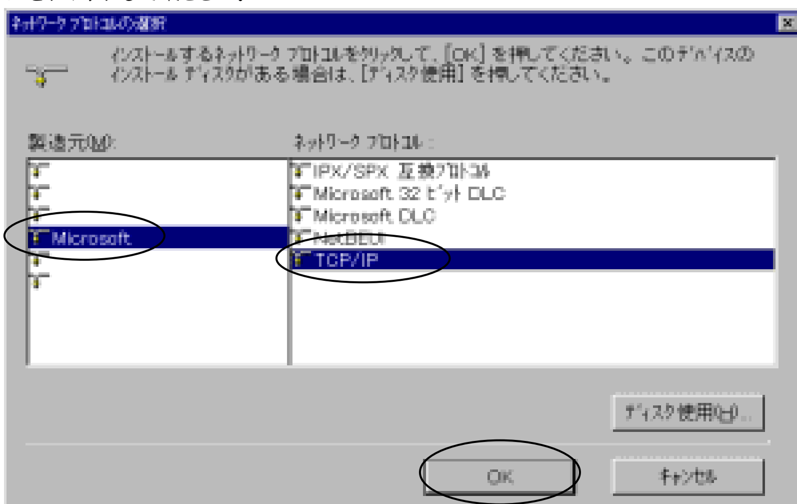
以降、画面はWindows95を例としています。

①25ページ②の画面で「*追加*」ボタンをクリックしてください。

②下記画面で、「*プロトコル*」を選択して「*追加*」ボタンをクリックしてください。

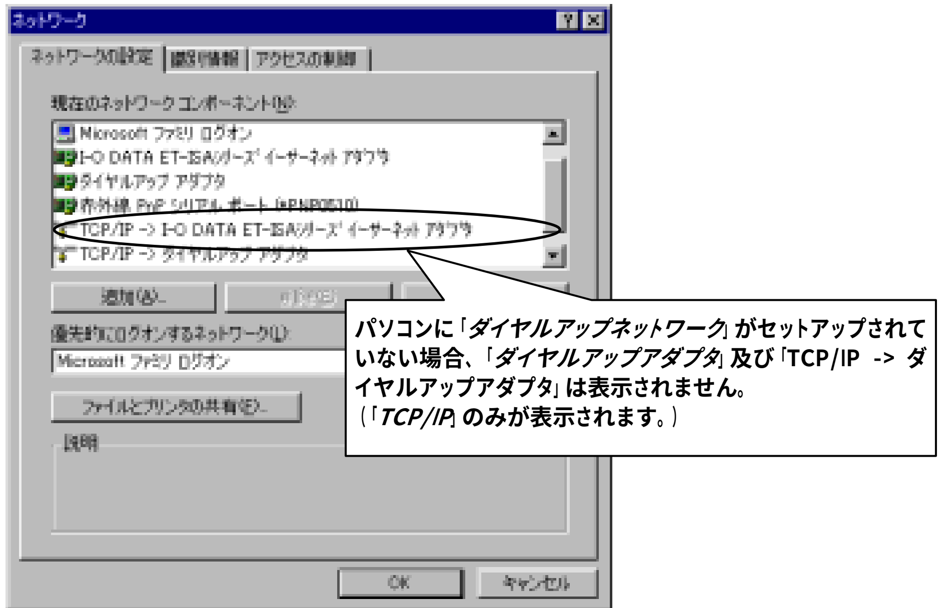


③下記画面で、「*製造元*」は「*Microsoft*」、「*プロトコル*」は「*TCP/IP*」を選択して「*OK*」ボタンをクリックしてください。



<次ページへ続く>

④25ページ②の画面（下記画面）に戻ります。セットアップされた「*TCP/IP*」プロトコルが、パソコンにセットアップされているイーサネットボード（ネットワーク・アダプタ・カード）と関連付けられているか、確認してください。



以上で「*TCP/IP*」プロトコルのセットアップは完了です。

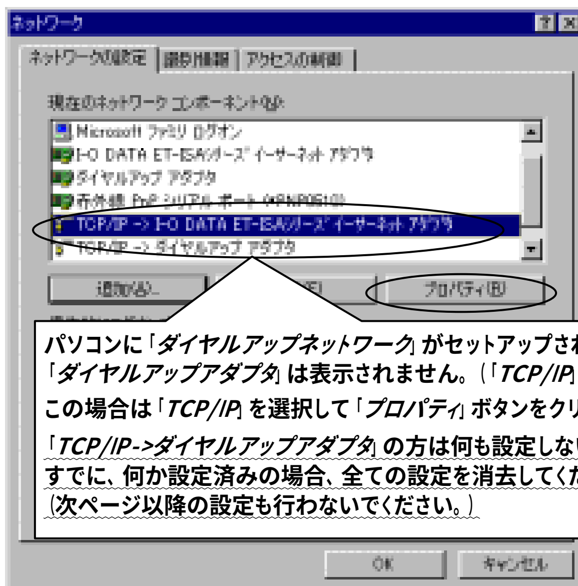
「2.6.3　TCP/IPプロトコルの設定」（次ページ）へ進んでください。

2．6．3　TCP/IPプロトコルの設定

確 認	既存の LAN に ET-MPS を追加する場合はネットワーク管理者と相談のうえ、各設定を行ってください。
	LAN 内に ET-MPS 以外の DHCP サーバーがある場合、31 ページ以降の設定が不要になる場合があります。DHCP サーバーのマニュアルを参照して31ページ以降の設定が必要か、必ず確認してください。

「*TCP/IP -> "イーサネットボード名"*」を選択し「*プロパティ*」ボタンをクリックしてください。

以降の設定はET-MPSのDHCPサーバー機能を使用する/しないにより設定内容が異なります。



DHCPサーバー機能はET-MPSに接続されている各パソコン等へ、ネットワークの設定を自動的に行う機能です。初めてLANを構築される場合、ET-MPSのDHCPサーバー機能を使用することを推奨します。

ET-MPSのDHCPサーバー機能を使用しない場合は各パソコンへそれぞれIPアドレス等を設定します。

◆ET-MPSのDHCPサーバー機能を使用する場合
　→「DHCPサーバー機能を使用する場合の設定」（次ページ）へ進んでください。

◆ET-MPSのDHCPサーバー機能を使用しない場合
　（DHCPサーバーが既にある場合も含む）
　→「DHCPサーバー機能を使用しない場合の設定」（P31）へ進んでください。

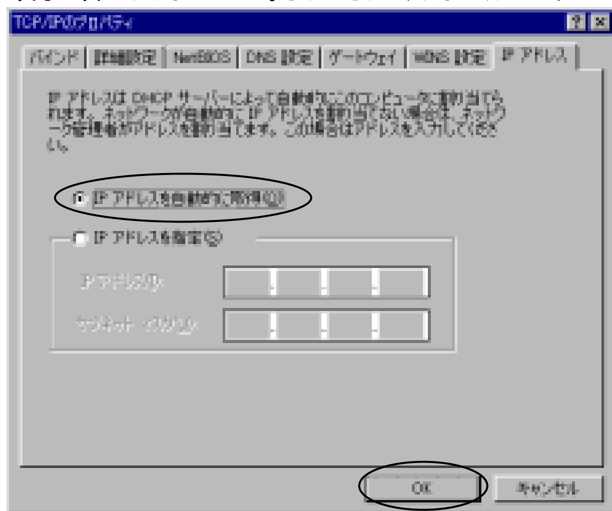
備考：ET-MPSは「DHCPサーバー機能を使用する」が工場出荷値です。

<次ページへ続く>

●DHCPサーバー機能を使用する場合の設定

①「*IPアドレス*」のタブをクリックし、「*IPアドレスを自動的に取得*」が選択されているか確認してください。

確認が終わりましたら「*OK*」ボタンをクリックしてください。



②前ページの「*ネットワーク*」画面に戻りますので「*OK*」ボタンをクリックしてください。「*TCP/IP*」プロトコルのセットアップを行った場合はWindows98/95の指示に従い、Windows98/95を再起動させてください。

「第3章　基本設定」(P43) へ進んでください。

●DHCPサーバー機能を使用しない場合の設定

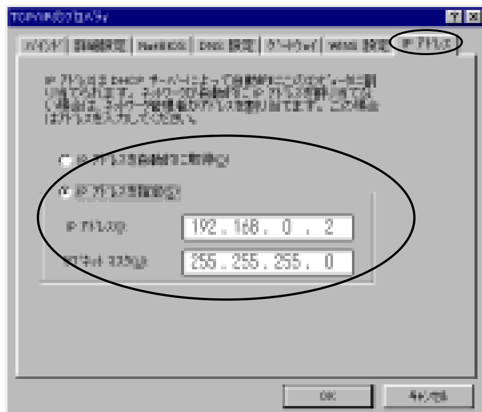
①「*IPアドレス*」のタブをクリックし、「*IPアドレスを指定*」のラジオボタンをクリックしてください。
ET-MPS本体の工場出荷値IPアドレスは下記のように設定されています。

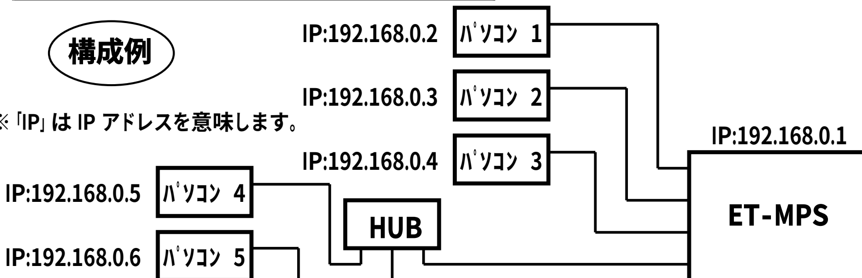
◆IPアドレス　：**192.168.0.1**
◆サブネットマスク　：**255.255.255.0**

この後の「3.3.4 ET-MPS本体のLAN設定-IPアドレスの設定」(P55)で、ET-MPSのIPアドレスを工場出荷値のまま(192.168.0.1)使用する場合、各パソコンのIPアドレスの設定は「192.168.0.2」〜「192.168.0.254」の間で重複しないように割り当て、半角数字で入力してください。
その場合、サブネットマスクはどのパソコンも「255.255.255.0」にしてください。
なお、下記の接続動作を設定する場合、ET-MPS は IP アドレス変換を行いません。
設定 IP アドレスは、必ず ISP 等から割り当てられた IP アドレスを設定してください。

◆ISP・LAN 型ダイヤルアップ IP 接続
◆LAN 型ダイヤルアップ IP 接続
◆ISP・専用線 IP 接続
◆専用線接続

工場出荷値以外の任意のIPアドレスを設定することも可能ですが、IPアドレスについて詳しくない場合、ET-MPSのIPアドレスは工場出荷値のままでお使いください。
(下記画面例、構成例を参考にしてください。)

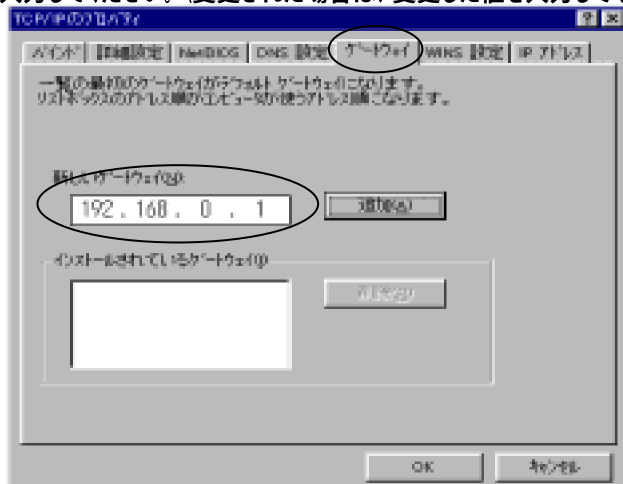




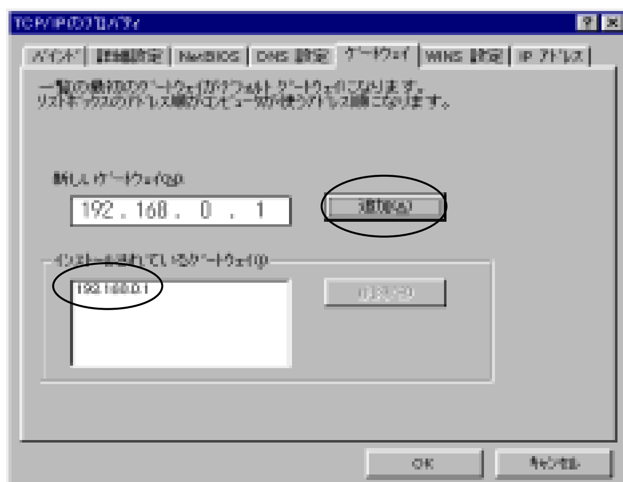
※「IP」は IP アドレスを意味します。

<次ページへ続く>

②「*ゲートウェイ*」のタブをクリックすると下記画面が開きます。「*新しいゲートウェイ*」にET-MPSのIPアドレスを入力してください。
ET-MPSのIPアドレスを工場出荷値のままで使用する場合は「192.168.0.1」と入力してください。（変更された場合は、変更した値を入力してください。）

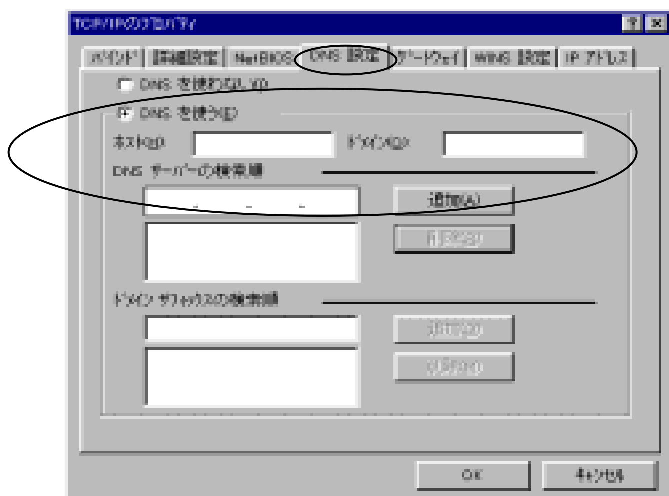


③「*追加*」ボタンをクリックしてください。「*インストールされているゲートウェイ*」に入力したゲートウェイ（ET-MPS本体のIPアドレス）がインストールされます。



＜次ページへ続く＞

④「*DNSの設定*」のタブをクリックすると下記画面が開きますので、「*DNSを使う*」のラジオボタンをクリックしてください。



⑤上記画面で以下の項目を入力してください。

◆「*ホスト*」
　→パソコンのホスト名（コンピュータ名）を入力してください。
　　他のパソコンと重複しない、任意の名称を半角文字で入力してください。

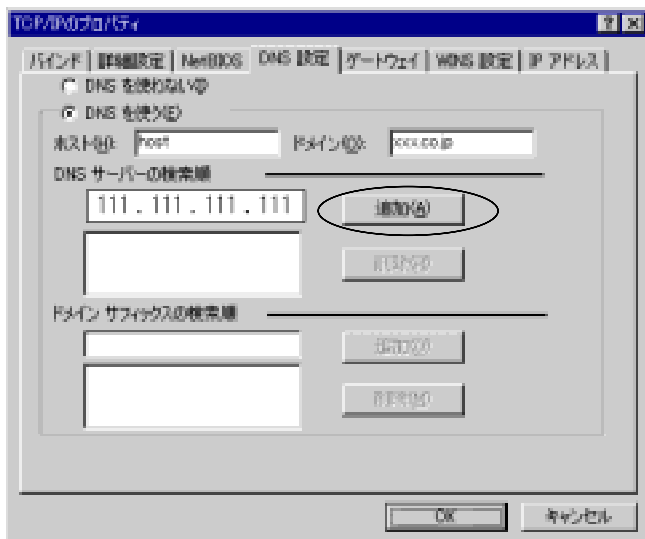
◆「*ドメイン*」
　→DNSサーバーのドメイン名（ISPのドメイン名等）を半角文字で入力してください。
　　分からない場合は空欄のままでかまいません。

◆「*DNSサーバーの検索順*」
　→DNSサーバーのIPアドレス（ISPのDNSサーバーのIPアドレス等）を半角数字で入力してください。

確 認	ISP へダイヤルアップ IP 接続で契約されている場合、自分で DNS サーバーを用意しない限り、ほとんどの場合が ISP の DNS サーバーを使用しています。ISP からの提供された接続情報等の資料を参照し、本設定を行ってください。不明な点がある場合は契約している ISP へお問い合わせください。
	LAN 内に DNS サーバーを設置している環境で使用する場合、その DNS サーバーの情報を入力してください。

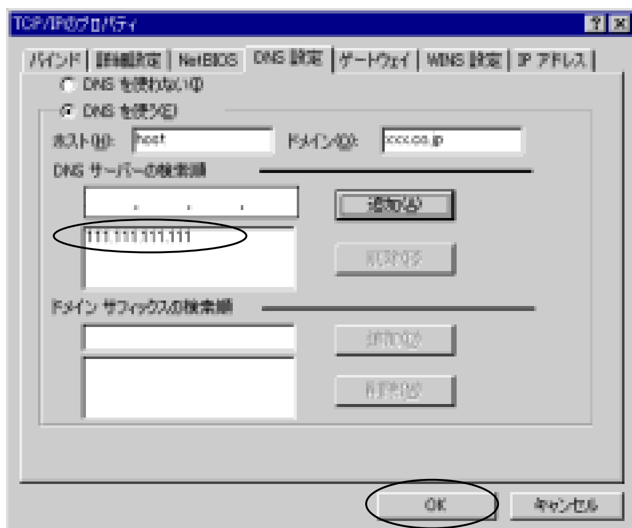
＜次ページへ続く＞

⑥DNSサーバーの情報を入力した後、「*追加*」ボタンをクリックしてください。



備考：上記画面例に入力されている情報は参考例です。 　　　画面例と同じ情報を入力してもDNSは使用できませんので注意してください。

⑦「*DNSサーバーの検索順*」入力欄の情報が、その下のリストにインストールされたことを確認後、「*OK*」ボタンをクリックしてください。



⑧29ページの「*ネットワーク*」画面に戻りますので、「*OK*」ボタンをクリックしてください。

Windows98/95の指示に従い、Windows98/95を再起動させてください。
Windows98/95再起動後、「第3章　基本設定」(P43)へ進んでください。

[2.6　LANへ接続するパソコンの設定-Windows98/95　　以上]

2．7　LANへ接続するパソコンの設定-WindowsNT4.0

本項目の内容はET-MPSへ接続する全てのパソコンで必要です。
必ず参照してください。

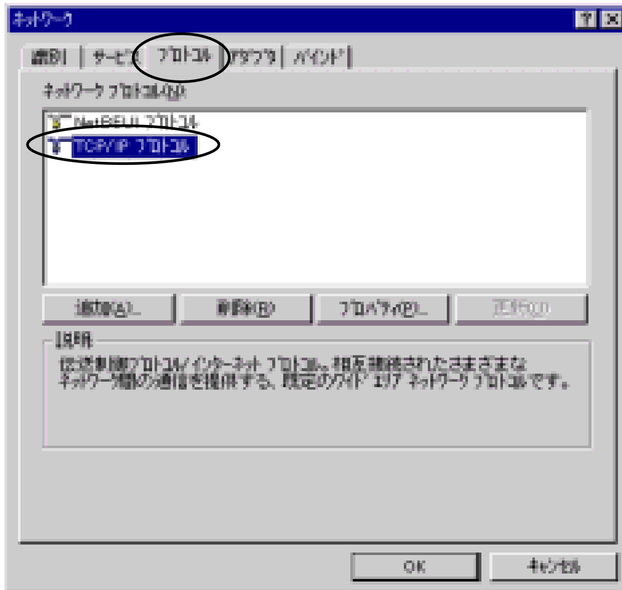
ET-MPSを使用する場合、ネットワークプロトコルとして「*TCP/IP*」が必要となります。本項目では、WindowsNT4.0での「*TCP/IP*」プロトコルのセットアップ及び設定の手順を説明します。

2．7．1　TCP/IPプロトコルの確認

「*TCP/IP*」プロトコルがセットアップされているか、下記の手順で確認してください。

①「*マイコンピュータ*」→「*コントロールパネル*」→「*ネットワーク*」の順でダブルクリックし、（「*ネットワーク*」画面が開きます）「*プロトコル*」のタブをクリックしてください。

②下記の画面が表示されますので「*TCP/IP　プロトコル*」がセットアップされているか、確認してください。（下記画面例では「*TCP/IP　プロトコル*」がセットアップ済みです。）



③上記画面の表示内容により、下記を参照してください。

◆「*TCP/IP　プロトコル*」がセットアップされている場合。
→「2.7.3　TCP/IPプロトコルの設定」（P37）へ進んでください。

◆「*TCP/IP　プロトコル*」がセットアップされていない場合。
→次ページへ進んでTCP/IPプロトコルのセットアップを行ってください。

2．7．2　TCP/IPプロトコルのセットアップ

●WindowsNT4.0のセットアップディスクについて

「*TCP/IP プロトコル*」のセットアップを行うと、WindowsNT4.0のセットアップディスクやCD-ROMが必要となる場合がありますので、あらかじめ用意しておいてください。
(WindowsNT4.0のファイルが必要となるため)

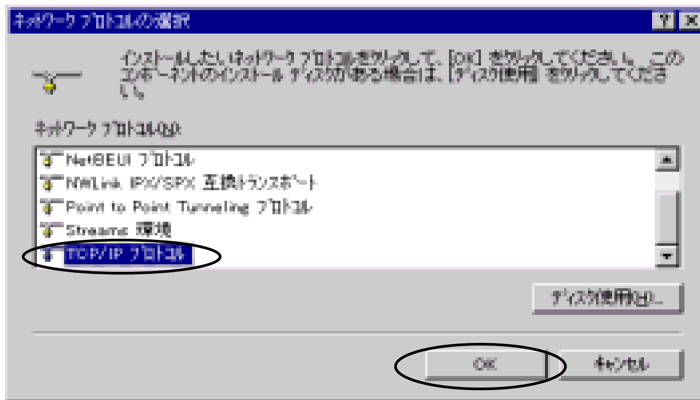
WindowsNT4.0 のセットアップディスクや CD-ROM が必要となったときは (WindowsNT 4.0 のファイルを要求されたとき) 、パソコンの CD-ROM ドライブ等へ WindowsNT4.0 の CD-ROM 等を挿入した後、下記を参考にフォルダ名を入力してください。

◆WindowsNT4.0 のセットアップディスクを挿入したドライブ名 + \i386\ 又は \pc98 \
例) パソコンの CD-ROM ドライブが D ドライブの場合、「D:\i386\」と入力してください。

●TCP/IP プロトコルのセットアップ手順

①前ページ②の画面で「*追加*」ボタンをクリックしてください。

②下記画面で、「*TCP/IPプロトコル*」を選択して「*OK*」ボタンをクリックしてください。



③前ページ②の画面に戻ります。

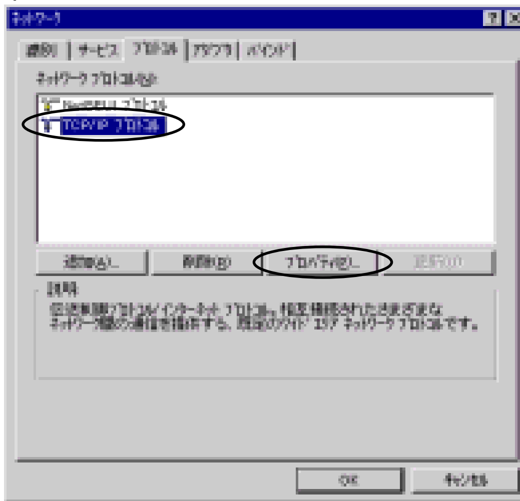
以上で「*TCP/IP*」プロトコルのセットアップは完了です。

「2.7.3　TCP/IPプロトコルの設定」(次ページ) へ進んでください。

2.7.3 TCP/IPプロトコルの設定

確 認	既存の LAN に ET-MPS を追加する場合はネットワーク管理者と相談のうえ、各設定を行ってください。
	LAN 内に ET-MPS 以外の DHCP サーバーがある場合、39 ページ以降の設定が不要になる場合があります。DHCP サーバーのマニュアルを参照して 39 ページ以降の設定が必要か、必ず確認してください。

「*TCP/IP プロトコル*」を選択し「*プロパティ*」ボタンをクリックしてください。



以降の設定はET-MPSのDHCPサーバー機能を使用する/しないにより設定内容が異なります。

DHCPサーバー機能はET-MPSに接続されている各パソコン等へ、ネットワークの設定を自動的に行う機能です。初めてLANを構築される場合、ET-MPSのDHCPサーバー機能を使用することを推奨します。

ET-MPSのDHCPサーバー機能を使用しない場合は各パソコンへそれぞれIPアドレス等を設定します。

◆ET-MPSのDHCPサーバー機能を使用する場合
→「DHCPサーバー機能を使用する場合の設定」(次ページ) へ進んでください。

◆ET-MPSのDHCPサーバー機能を使用しない場合
(DHCPサーバーが既にある場合も含む)
→「DHCPサーバー機能を使用しない場合の設定」(39ページ) へ進んでください。

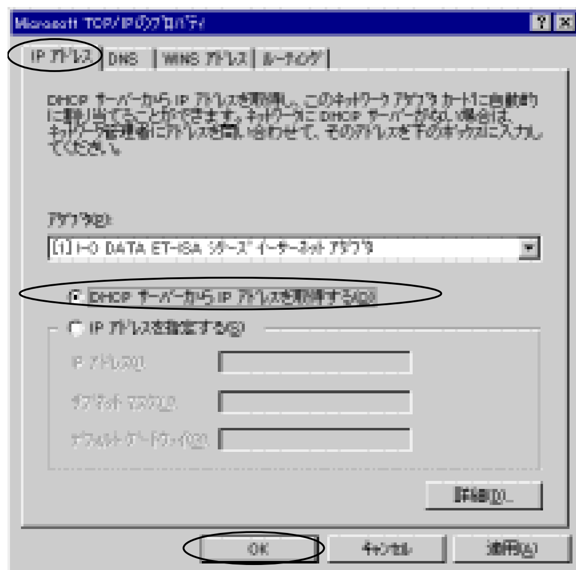
備考：ET-MPSは「DHCPサーバー機能を使用する」が工場出荷時設定です。

<次ページへ続く>

●DHCPサーバー機能を使用する場合の設定

①「*IPアドレス*」のタブをクリックし、「*DHCPサーバーからIPアドレスを取得する*」が選択されているか確認してください。

確認が終わりましたら「*OK*」ボタンをクリックしてください。



②前ページの「*ネットワーク*」画面に戻りますので「*OK*」ボタンをクリックしてください。
「*TCP/IP*」プロトコルのセットアップを行った場合はWindowsNT4.0の指示に従い、WindowsNT4.0を再起動させてください。

「第3章 基本設定」(P43) へ進んでください。

●DHCPサーバー機能を使用しない場合の設定

①「*IPアドレス*」のタブをクリックし、「*IPアドレスを指定する*」のラジオボタンをクリックしてください。

ET-MPS本体の工場出荷値 IPアドレスは下記のように設定されています。

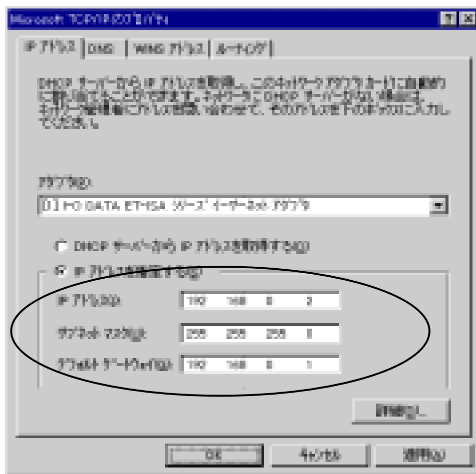
◆IPアドレス　：192.168.0.1
◆サブネットマスク　：255.255.255.0

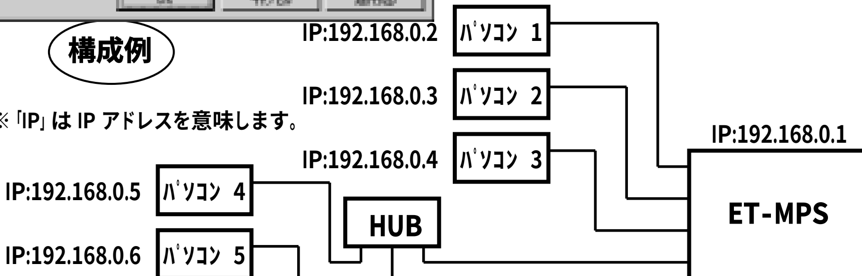
この後の「3.3.4 ET-MPS本体のLAN設定-IPアドレスの設定」(P55) で、ET-MPSのIPアドレスを工場出荷値のまま (192.168.0.1) で使用する場合、各パソコンのIPアドレスの設定は「192.168.0.2」～「192.168.0.254」の間で重複しないように割り当て、半角数字で入力してください。
その場合、サブネットマスクはどのパソコンも「255.255.255.0」にしてください。

なお、下記の接続動作を設定する場合、ET-MPS は IP アドレス変換を行いません。
設定する IP アドレスは、必ず ISP 等から割り当てられた IP アドレスを設定してください。

◆ISP･LAN型ダイヤルアップIP接続
◆LAN型ダイヤルアップIP接続
◆ISP･専用線IP接続
◆専用線接続

工場出荷値以外の任意のIPアドレスを設定することも可能ですが、IPアドレスについて詳しくない場合、ET-MPSのIPアドレスは工場出荷値のままでお使いください。
(下記画面例、構成例を参考にしてください)

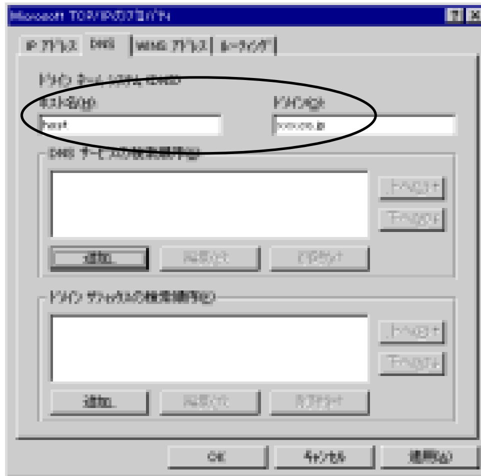




※「IP」は IP アドレスを意味します。

②前ページ①の画面の「*デフォルトゲートウェイ*」にET-MPSのIPアドレスを入力してください。
ET-MPSのIPアドレスを工場出荷値のままで使用する場合は「192.168.0.1」と入力してください。

③「*DNS*」のタブをクリックしてください。下記画面が開きます。

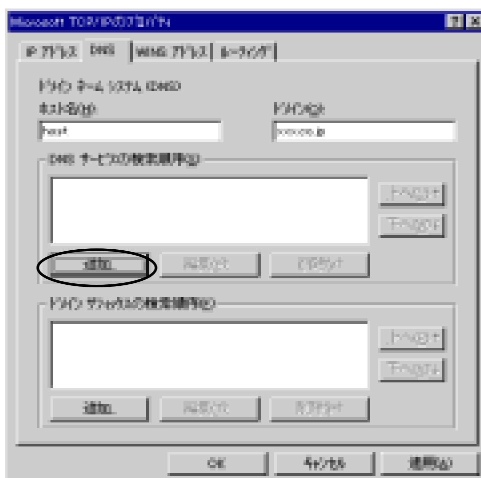


上記画面で以下の項目を入力してください。

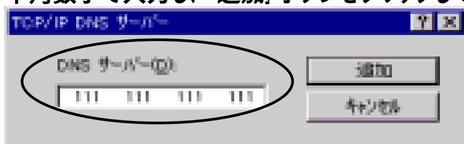
◆「*ホスト名*」
→パソコンのホスト名（コンピュータ名）を入力してください。
他のパソコンと重複しない、任意の名称を半角文字で入力してください。

◆「*ドメイン*」
→DNSサーバーのドメイン名（ISPのドメイン名等）を半角文字で入力してください。
分からない場合は空欄のままでかまいません。

④「*DNSサービスの検索順序*」の中の「*追加*」ボタンをクリックしてください。



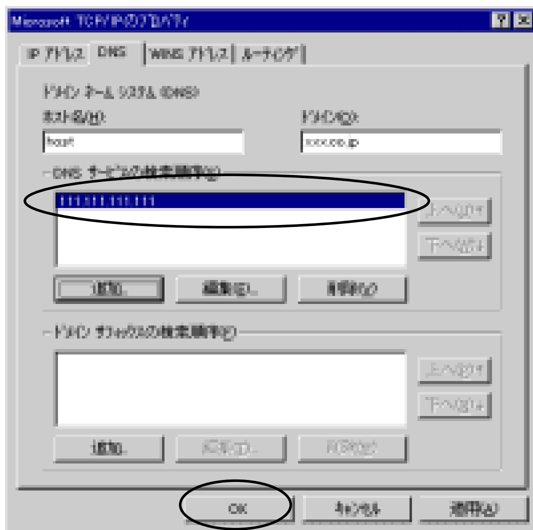
⑤「*DNSサーバー*」にDNSサーバーのIPアドレス（ISPのDNSサーバーのIPアドレス等）を半角数字で入力し、「*追加*」ボタンをクリックしてください。



備考：上記画面例に入力されている情報は参考例です。 画面例と同じ情報を入力してもDNSは使用できませんので注意してください。

確 認	ISP へダイヤルアップ IP 接続で契約されている場合、自分で DNS サーバーを用意しない限り、ほとんどの場合が ISP の DNS サーバーを使用しています。 ISP からの提供された接続情報等の資料を参照し、本設定を行ってください。 不明な点がある場合は契約している ISP へお問い合わせください。
	LAN 内に DNS サーバーを設置している環境で使用する場合、その DNS サーバーの情報を入力してください。

⑥「*DNSサービスの検索順序*」欄の情報に、DNSサーバーのIPアドレスがインストールされたことを確認した後、「*OK*」ボタンをクリックしてください。



⑦37ページの「*ネットワーク*」画面に戻りますので、「*OK*」ボタンをクリックしてください。

WindowsNT4.0の指示に従い、WindowsNT4.0を再起動させてください。
WindowsNT4.0再起動後、「第3章　基本設定」（P43）へ進んでください。

［2.7　LANへ接続するパソコンの設定-WindowsNT4.0　　以上］

＜MEMO＞

第3章　基本設定

3．1　設定ツールのインストール
　3．1．1　インストール前の確認
　3．1．2　インストールを行う

3．2　設定の進め方（概略）

3．3　共通設定
　3．3．1　設定ツールの起動
　3．3．2　ET-MPSの検索
　3．3．3　ニックネームの設定/ファームウェアバージョンの確認
　3．3．4　ET-MPS本体のLAN設定－IPアドレスの設定
　3．3．5　DHCPサーバーの設定
　3．3．6　パスワードの設定
　3．3．7　使用するシリアルポートの選択
　3．3．8　シリアルポートに接続するモデム/TAの設定
　3．3．9　通信速度の設定

3．1　設定ツールのインストール

3．1．1　インストール前の確認

ET-MPS の各設定を行うためには、添付の設定ツールをパソコンにインストールしなければなりません。

インストールを行う前に、下記の全項目を必ず確認してください。

◆設定ツールのインストールを行うためにはフロッピーディスクドライブが必要です。フロッピーディスクドライブが外付けタイプのパソコンを使用している場合、あらかじめパソコンにフロッピーディスクドライブを接続してください。
◆設定ツールは Windows98、Windows95（OSR2 以降）、又は WindowsNT4.0 がインストールされているパソコンでのみ起動することができます。 なお、ET-MPS と同じ LAN 内に接続しているパソコンは Windows98、Windows95 や WindowsNT4.0 がインストールされていなくても ET-MPS の機能を使用することができます。
◆設定ツールで ET-MPS の動作設定を行う場合、LAN 内の 1 台のパソコンのみで（ネットワーク LAN 管理者等が）行うようにしてください。 他のパソコンにインストールした設定ツールでは、手動接続・手動切断のみの操作を行うようにしてください。
◆設定ツールで ET-MPS の動作設定を行うパソコンの時計は必ず正確に合わせてください。ET-MPS は設定ツールを起動したパソコンの時計を読みとり、その時刻情報を ET-MPS の時計としてカウントアップを始めます。 時計が正確でないと ET-MPS の「*無切断時間を指定*」機能が正確な時間に機能しませんので注意してください。（ET-MPS は設定ツールを起動する度に起動したパソコンの時計を読みとります。）
◆Windows98、Windows95（OSR2 以降）、又は WindowsNT4.0 がインストールされているパソコン（特にノートパソコン）でレジューム機能（電源を OFF にした直前の状態が保存され、次回電源を ON にしたときに元の状態が再現される機能）を使用すると、レジューム機能を働かせた時間分、パソコンの時計が遅れることがあります。 レジューム機能を働かせた後に設定ツールを起動すると ET-MPS がパソコンの遅れた時間を読みとってしまいますので、このような場合にはレジューム機能は使用しないでください。

「3.1.2　インストールを行う」（次ページ）へ進んでください。

３．１．２　インストールを行う

下記の手順に従って設定ツールのインストール作業を行ってください。

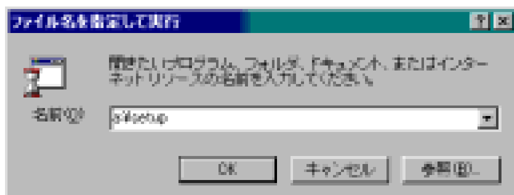
①「3.1.1　インストール前の確認」（前ページ）の内容を確認した後、Windows98、Windows95（OSR2以降）又はWindowsNT4.0を起動し、パソコンのフロッピーディスクドライブに添付の「設定ツール」フロッピーディスクを挿入してください。
（以降の画面はWindows98を例としています。）

②「*スタート*」ボタンをクリックし、「*ファイル名を指定して実行*」をクリックしてください。



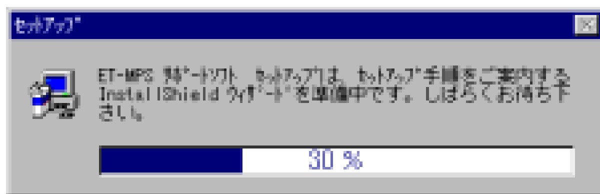
③「*ファイル名を指定して実行*」画面の「*名前*」欄に以下の下線部を入力して「*OK*」ボタンをクリックしてください。

◆PC98-NX シリーズ及び DOS/V マシンの場合　：A:\SETUP.EXE
◆PC-9821 シリーズの場合　：C:\SETUP.EXE　等



PC-9821 シリーズの場合、フロッピーディスクドライブはパソコンのハードディスクのドライブ構成により異なりますので注意してください。

④下記画面が表示されますので、しばらくお待ちください。

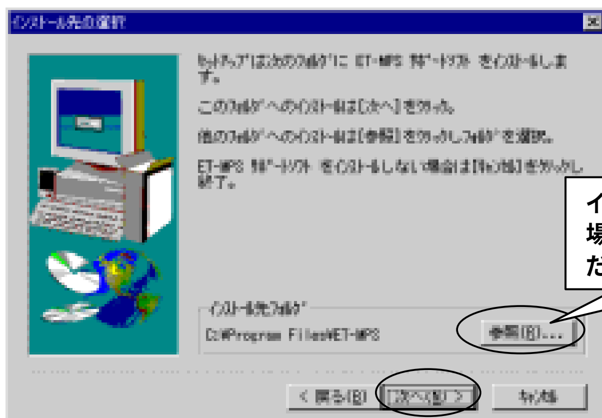


＜次ページへ続く＞

⑤画面に表示された内容を読み、設定ツールのインストール先フォルダを指定してください。

◆指定されたフォルダのままで良い場合は「*次へ*」ボタンをクリックしてください。

◆別のフォルダにインストールする場合は「*参照*」ボタンをクリックして任意のフォルダを指定した後、「*次へ*」ボタンをクリックしてください。

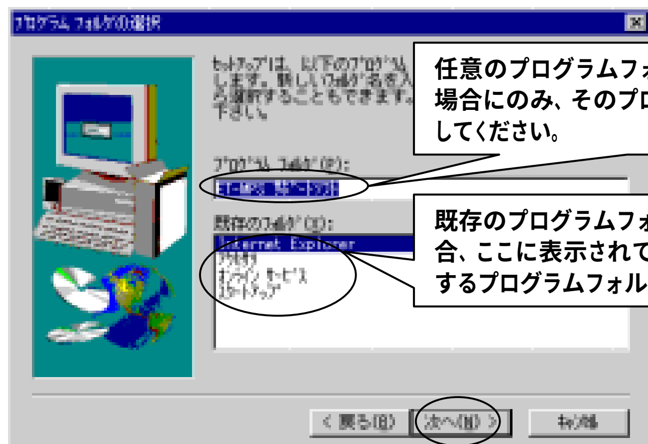


⑥表示された内容を読み、設定ツールのプログラムアイコンを追加するプログラムフォルダ名を指定します。

◆新たに「*ET-MPS*」というプログラムフォルダを作成する場合は、そのまま「*次へ*」ボタンをクリックしてください。

◆任意のプログラムフォルダ名にする場合、「*プログラムフォルダ*」欄に新しいフォルダ名を入力して「*次へ*」ボタンをクリックしてください。

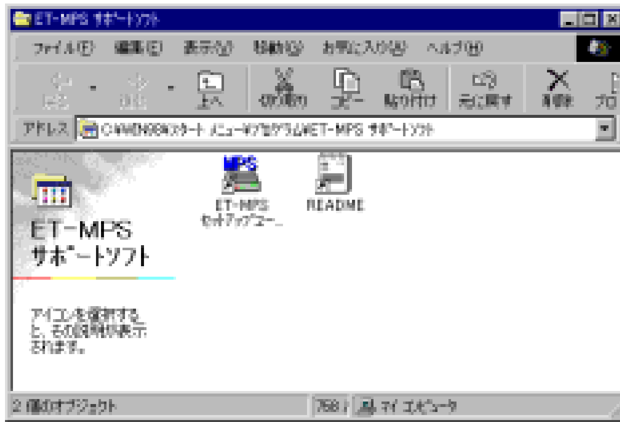
◆既存のプログラムフォルダにインストールする場合、「*既存のフォルダ*」欄に表示されているフォルダリストの中からインストールするフォルダを指定して「*次へ*」ボタンをクリックしてください。



＜次ページへ続く＞

⑦ファイルのコピーを開始します。

⑧下記の画面が表示されるとインストールは完了です。

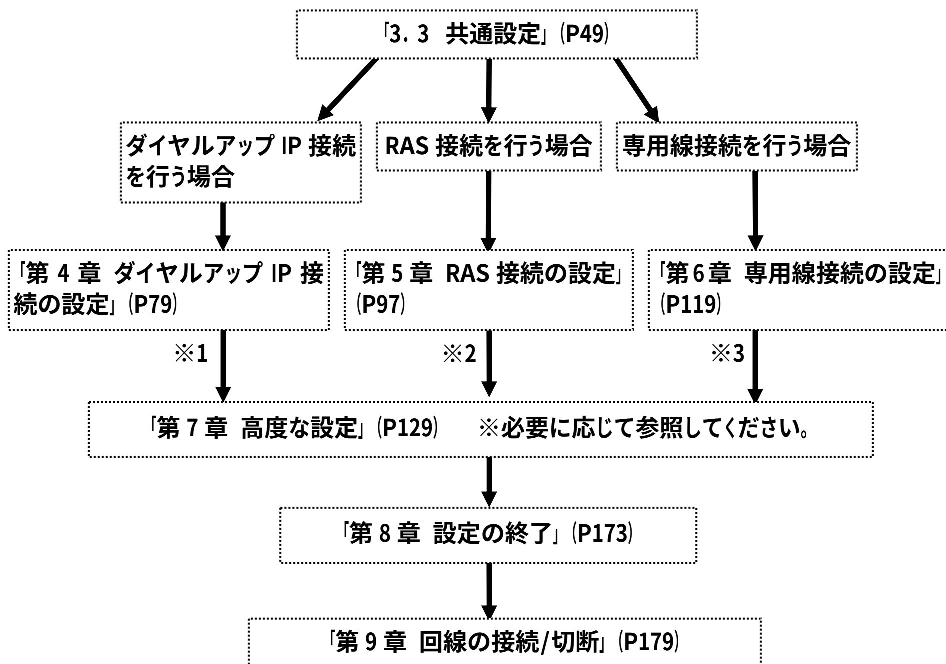


以上でインストールは完了です。

「3.2　設定の進め方」（次ページ）へ進んでください。

3．2　設定の進め方（概略）

以降の各章・項目において、ET-MPS で使用する接続機能の設定を行います。
それぞれ使用する接続機能により、参照する章が一部異なります。
下記はその設定の進め方の概略です。



※1　：■「ISP・端末型ダイヤルアップIP接続」を行う場合
　　→「4.1　ISP・端末型ダイヤルアップIP接続の設定」（P80）を参照してください。

■「ISP・LAN型ダイヤルアップIP接続」を行う場合
■「LAN型ダイヤルアップIP接続」を行う場合
　　→「4.2　ISP・LAN型/LAN型ダイヤルアップIP接続の設定」（P85）へ進んでください。

※2　：■「RASクライアントIP接続」を行う場合
　　→「5.1　RASクライアントIP接続の設定」（P98）へ進んでください。

■「RASサーバーIP接続」を行う場合
　　→「5.2　RASサーバーIP接続の設定」（P106）へ進んでください。

※3　：■「ISP・専用線IP接続」を行う場合
　　→「6.1　ISP・専用線IP接続の設定」（P120）へ進んでください。

■「専用線IP接続」を行う場合
　　→「6.2　専用線IP接続の設定」（P122）へ進んでください。

［3.2　設定の進め方（概略）　以上］

3．3　共通設定

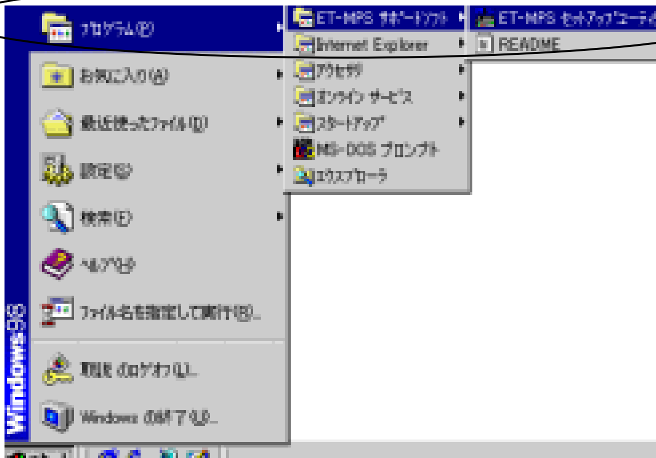
ET-MPS の各機能を使用する上で共通な設定について説明します。

3．3．1　設定ツールの起動

下記の手順で設定ツールを起動してください。

①「*スタート*」ボタンをクリックし、「*プログラム*」→「*ET-MPS サポートソフト*」と順番にクリックしてください。
設定ツールのインストール時にプログラムフォルダを任意のフォルダへ変更した場合、そのプログラムフォルダをクリックして「*その任意のフォルダ*」をクリックしてください。

②プログラムフォルダの中の「*ET-MPSｾｯﾄｱｯﾌﾟﾕｰﾃｨﾘﾃｨ*」をクリックしてください。



設定ツールを起動するとLAN内にあるET-MPSの検索が開始されます。

「3.3.2　ET-MPSの検索」（P51）へ進んでください。

●注意 ～同じLAN内に複数台のET-MPSを起動するとき～

工場出荷状態のET-MPSを複数台、同じLAN内に接続しないでください。
また、DHCPサーバー機能は、1 台でのみ使用してください。

上記を行わない場合、ET-MPS同士でIPアドレスが衝突し、正しく動作しません。

同じLAN内に複数台のET-MPSを接続する場合、下記の手順で行ってください。

1. DHCPサーバー機能をオフにします。
2. ET-MPSを1台だけLANに接続してください。
   ET-MPSの工場出荷時IPアドレスは、192.168.0.1です。他の機器とIPアドレスが重ならない事を確認してから接続してください。
3. ET-MPSのIPアドレスを工場出荷値から変更してください。
   変更手順については、「3.3.2　ET-MPSの検索」(P51) を参照した後、「3.3.4　ET-MPS本体のLAN設定-IPアドレスの設定」(P55) を参照してください。
4. 2台目のET-MPSをLANに接続してください。

3台目以降のET-MPSをLANに接続するときも上記の手順を行ってください。

DHCPサーバー機能を使用する場合は最後にどれか1台のみ設定してください。

3．3．2　ET-MPSの検索

本項目では、設定ツールを起動してET-MPSの検索作業を行い、ET-MPSが正しく検出されるかを確認します。

①設定ツールを起動すると、LAN内にあるET-MPSの検索が開始されます。検索が終了するまで、しばらくお待ちください。
検索中に、「*検索中止*」ボタンをクリックすると、検索作業を中止します。

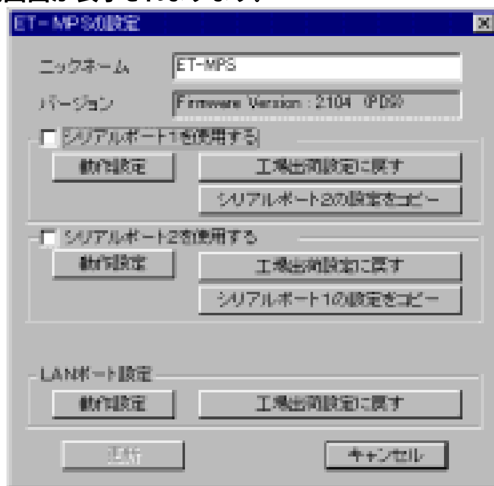


②LAN 内に接続されている ET-MPS 全てが、検索結果としてリスト内に表示されます。
◆表示されなかった場合は「ET-MPS が見つからないとき」（P53）へ進んでください。
リスト内に表示された ET-MPS の中から設定を行う ET-MPS を選択して
「*動作設定*」ボタンをクリックしてください。設定画面に進みます。



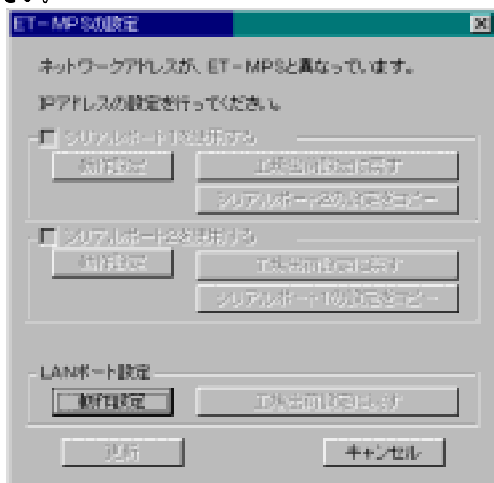
<次ページへ続く>

③下記画面が表示されますます。



「3.3.3　ニックネームの設定/ファームウェアバージョンの確認」（P54）へ進んでください。

※ET-MPS 本体の IP アドレスとパソコン本体の IP アドレスが異なるネットワークになっている場合は下記画面が表示されますので、「3.3.4　ET-MPS 本体の LAN 設定 -IP アドレスの設定」（P55）へ進み、まずは ET-MPS 本体の IP アドレスを変更してください。



●ET-MPSが見つからないとき

「*ET-MPS が見つかりません*」と表示された場合は「*再検索*」ボタンをクリックし、再度 LAN 内の ET-MPS の検索を行ってください。



ET-MPSが見つかると51ページ②の画面が表示されます。

「*再検索*」ボタンをクリックしても ET-MPS が見つからない場合、下記の項目を確認してください。

◆ET-MPS とセットアップ用パソコン（又は LAN）は、正しく接続されていますか？
→正しく接続した後、「*再検索*」ボタンをクリックしてください。

◆ET-MPS の電源は ON になっていますか？
→電源を ON にして「*再検索*」ボタンをクリックしてください。

◆ET-MPS の 10BASE-T ポートのステータス LED は点灯又は点滅していますか？
→「「Rx Link」モニターランプが点灯しないとき」（P24）を参照してください。

◆TCP/IP プロトコルの設定又はセットアップが正しく行われていますか？
→・Windows98/95 の TCP/IP 設定については「2.6　LAN へ接続するパソコンの設定-Windows98/95」（P25）を参照してください。
・WindowsNT4.0 の TCP/IP 設定については「2.7　LAN へ接続するパソコンの設定-WindowsNT4.0」（P35）を参照してください。

◆LAN内にET-MPSと同じIPアドレス（工場出荷値：192.168.0.1）の機器が存在していませんか？
→同じIPアドレスの機器をLANから外してください。

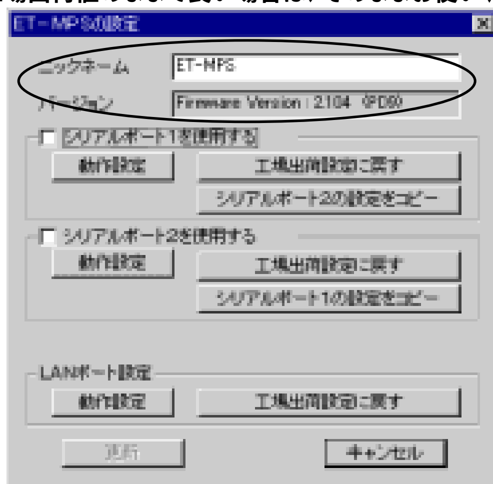
3．3．3　ニックネームの設定/ファームウェアバージョンの確認

本項目では、ET-MPS 本体のニックネームの設定及びファームウェアバージョンの確認を行います。

●ニックネームの設定

①「3.3.1　設定ツールの起動」(P49)～「3.3.2　ET-MPS の検索」(P51) が完了すると②の設定画面が表示されます。

②「*ニックネーム*」入力欄に ET-MPS のニックネームを自由に入力してください。
入力は、半角、全角文字共に可能です。入力できる文字数は、半角文字に換算して 32 文字までです。
工場出荷値のままで良い場合は、そのままお使いください。



備考①：同一 LAN 内に複数台の ET-MPS を接続する場合は、置き場所等の特徴をニックネームに反映させると判別しやすくなります。

備考②：上記画面で「*閉じる*」ボタンをクリックすると、前の画面 (「3.3.2 ET-MPS の検索」51 ページの②) に戻ります。
戻りたい場合は、「*閉じる*」ボタンをクリックしてください。

●ファームウェアバージョンの確認

「*ニックネーム*」の下に、ET-MPS のファームウェア･バージョンが表示されます。
ファームウェアのバージョンを確認する際は、本画面で確認してください。

「3.3.4　ET-MPS 本体の LAN 設定－IP アドレスの設定」(次ページ) へ進んでください。

3．3．4　ET-MPS本体のLAN設定－IPアドレスの設定

本項目では、ET-MPS 本体の IP アドレスの確認/変更を行います。

●ET-MPS 本体の IP アドレスの工場出荷値について

ET-MPS には、IP アドレスとサブネットマスクが工場出荷値としてあらかじめ設定されています。新規で LAN を構築する場合は工場出荷値のまま使用してください。

工場出荷値…	IP アドレス	：	192.168.0.1
	サブネットマスク	：	255.255.255.0

→ET-MPS 本体の IP アドレスを工場出荷値のまま使用する場合は
「3.3.5　DHCP サーバーの設定」（58ページ）へ進んでください。

●ET-MPS 本体の IP アドレスの変更が必要な場合

◆下記の接続動作を設定する場合、ET-MPS は IP アドレス変換を行いません。
ET-MPS の IP アドレスは ISP 等から割り当てられた IP アドレスを設定してください。

- ・ISP・LAN 型ダイヤルアップ IP 接続
- ・LAN 型ダイヤルアップ IP 接続
- ・ISP・専用線 IP 接続
- ・専用線 IP 接続
- ・既に DHCP サーバーがある場合

◆ET-MPS 本体のネットワークアドレスとパソコンのネットワークアドレス設定が異なる場合（既存の LAN に ET-MPS を追加する場合等）、設定ツールでは ET-MPS 本体の IP アドレス設定以外、何も設定を行うことができません。

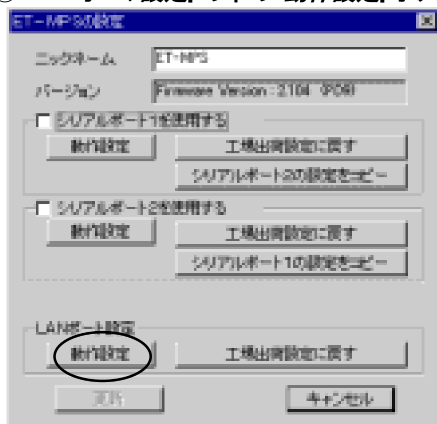
ET-MPS の各機能の設定を行う場合、ET-MPS 本体の IP アドレスをパソコンのネットワークアドレスに合わせて変更してください。

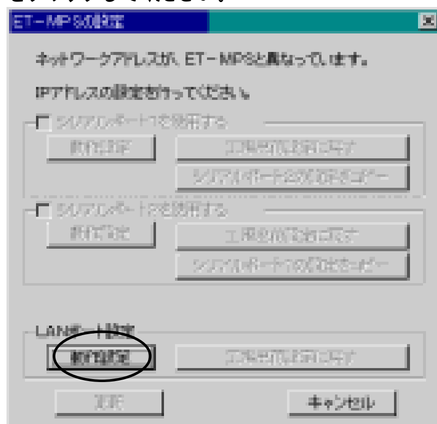
→ET-MPS 本体の IP アドレスを変更する場合は
「ET-MPS 本体の IP アドレスを変更する」（次ページ）へ進んでください。

●ET-MPS本体のIPアドレスを変更する

確認	LAN 内に DHCP サーバーが存在する場合でも、ET-MPS 本体の IP アドレスの設定は必要です。ET-MPS 本体の IP アドレスは DHCP サーバーから自動で取得しませんので、必ず ET-MPS 本体の IP アドレスを設定してください。 ET-MPS に設定した IP アドレスを、DHCP サーバーが LAN 内の他の機器に割り振らないように DHCP サーバーの設定を行ってください。 （詳しくはネットワーク管理者等へご相談ください。）

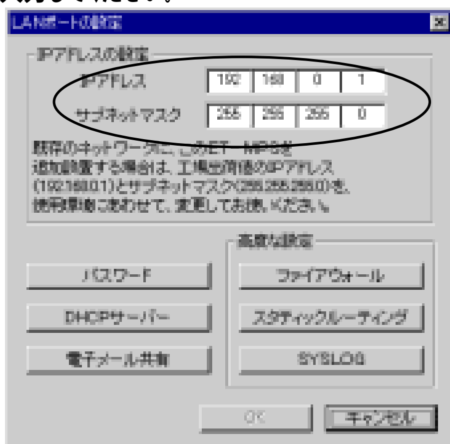
①「*LAN ポート設定*」の中の「*動作設定*」ボタンをクリックしてください。





※ET-MPS 本体のネットワークアドレスとパソコンのネットワークアドレス設定が異なる場合（既存の LAN に ET-MPS を追加する場合等）、上記画面が表示されます。

②既存の LAN 又は ISP 等から割り当てられた IP アドレスとサブネットマスクを半角数字で入力してください。



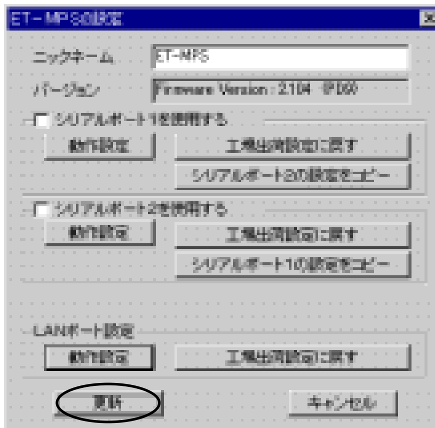
＜次ページへ続く＞

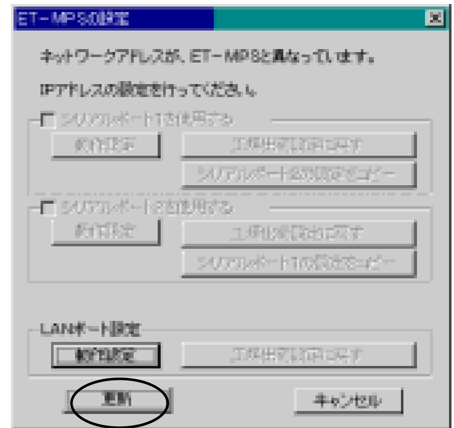
③IP アドレス,サブネットマスクの変更後、「OK」ボタンをクリックしてください。



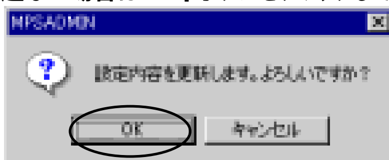
備考：左記画面例に入力されている情報は参考例です。既存のLAN等に合わせて設定してください。

④「*更新*」ボタンをクリックしてください。





⑤下記画面が表示されます。「*OK*」ボタンをクリックすると IP アドレスの設定内容が ET-MPS に書き込まれます。「*キャンセル*」ボタンをクリックすると③の画面に戻ります。問題ない場合は「*OK*」ボタンをクリックしてください。



⑥「*OK*」ボタンをクリックすると ET-MPS は設定更新後に内部で再起動を行い、設定ツールは自動的に再検索を行います。
「3.3.2　ET-MPS の検索」（P51）の①～③を再度参照してください。

「3.3.5　DHCP サーバーの設定」（次ページ）へ進んでください。

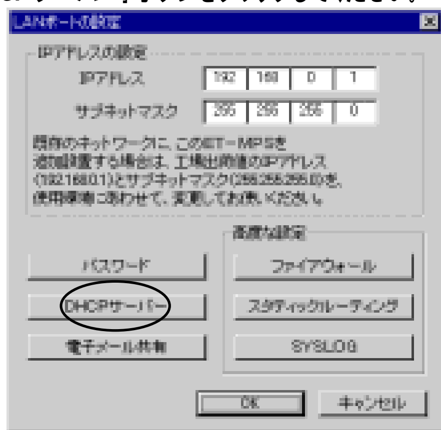
3．3．5　DHCPサーバーの設定

本項目では、ET-MPS の DHCP サーバー機能の設定を行います。

①「*LAN ポート設定*」の「*動作設定*」ボタンをクリックしてください。



②「*DHCPサーバー*」ボタンをクリックしてください。



＜次ページへ続く＞

③工場出荷値では「*DHCP サーバー機能を使用する*」のチェックボックスにチェックが入っています。

ET-MPS の DHCP サーバー機能を使用しない場合はチェックを外して「*OK*」ボタンをクリックし、「3.3.6　パスワードの設定」（P61）へ進んでください。

ET-MPSのDHCPサーバーを使用する場合は以降を参考に設定を行ってください。

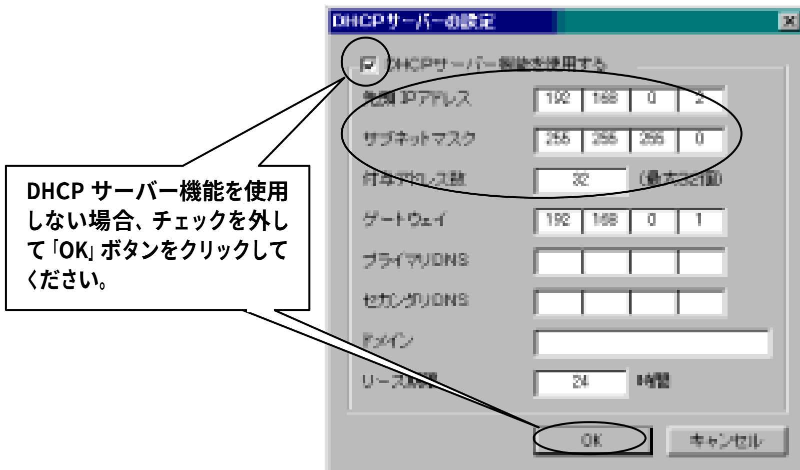
なお、以降ではET-MPS本体のIPアドレスを工場出荷値のまま（192.168.0.1）使用する場合を前提に説明します。

◆先頭IPアドレス　：192.168.0.2
◆サブネットマスク：255.255.255.0
◆付与アドレス数　：32

上記の工場出荷値は、「192.168.0.2」から「192.168.0.33」まで（192.168.0.2から32個）のIPアドレスを自動で付与する設定になっています。（最大32までです。32を越える場合、ET-MPSのDHCPサーバ機能は使用できません。）
工場出荷値のままで良い場合は④へ進んでください。

設定を変更する場合は下記項目をネットワーク環境にあわせて設定してください。

◆先頭IPアドレス　：付与する先頭のIPアドレスを入力してください。
◆サブネットマスク：付与するアドレスのサブネットマスクを入力してください。
◆付与アドレス数　：「先頭IPアドレス」から順に付与するアドレス数を入力してください。



確認	付与する IP アドレスは必ず ET-MPS と同じネットワークアドレスにしてください。
	DHCP サーバーで付与する IP アドレスは他の機器（パソコン等）に指定してある IP アドレスと重複しないように設定してください。

＜次ページへ続く＞

④「*ゲートウェイ*」は工場出荷値の ET-MPS 本体の IP アドレスが設定されています。
工場出荷値のままで良い場合は⑤へ進んでください。
設定を変更する場合は ET-MPS（ルーター）の IP アドレスを入力してください。

⑤「*プライマリDNS*」～「*ドメイン*」については工場出荷値が設定されていません。

◆プライマリDNS　：DNSサーバー（契約しているISPのDNSサーバー等）のIPアドレスを入力してください。（ISPへ接続する場合は必須。）

◆セカンダリDNS　：セカンダリDNSがある場合に入力してください。（空欄のままでもかまいません。）

◆ドメイン　：DNSサーバーのドメイン名（ISPのドメイン名等）を入力してください。（空欄のままでもかまいません。）

確 認	ISP へダイヤルアップ IP 接続で契約されている場合、自分で DNS サーバーを用意しない限り、ほとんどの場合が ISP の DNS サーバーを使用しています。ISP からの提供された接続情報等の資料を参照し、本設定を行ってください。不明な点がある場合は契約している ISP へお問い合わせください。
	LAN 内に DNS サーバーを設置している環境で使用する場合、その DNS サーバーの情報を入力してください。
	インターネットへ接続しない LAN 環境の場合、ゲートウェイ、プライマリ・セカンダリ DNS、ドメインは空欄のままでかまいません。

⑥「*リース期限*」は工場出荷値で「*24 時間*」が設定されています。
工場出荷値のままで良い場合は「*OK*」ボタンをクリックしてください。
設定を変更する場合は付与するIPアドレスのリース期限時間（最大24時間）を入力してください。

「3.3.6　パスワードの設定」（次ページ）へ進んでください。

3．3．6　パスワードの設定

本項目では、設定ツールのパスワード設定を行います。

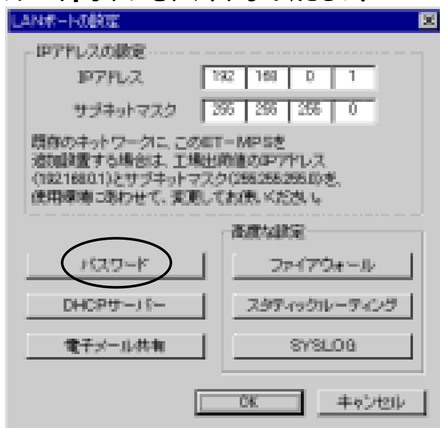
パスワードを設定することにより、ET-MPSの設定情報を保護することができます。
誤って、管理者以外の使用者がET-MPSの設定を書き換える心配が無くなります。

パスワードを設定する必要が無い場合は「LANポートの高度な設定について」(P65) へ進んでください。

①「*LAN ポート設定*」の「*動作設定*」ボタンをクリックしてください。



②「*パスワード*」ボタンをクリックしてください。



＜次ページへ続く＞

③「*パスワード*」及び「*パスワード再入力*」欄に半角英数字でパスワードを入力し、「*OK*」ボタンをクリックしてください。

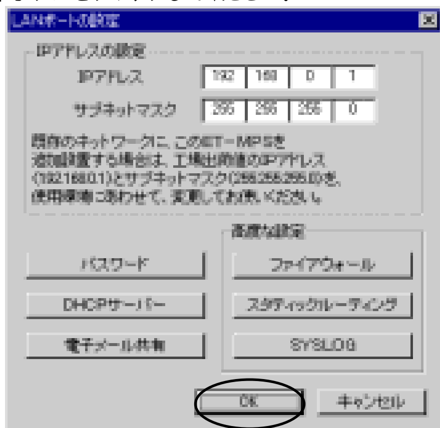


確 認	
	英字は大文字と小文字が区別されます。
	全角文字・数字は入力できません。

備考①：上記画面で何も入力せずに「*OK*」ボタンをクリックした場合、パスワード無しに設定されます。（工場出荷値はパスワード無しです。）

備考②：ET-MPS のファームウェアを書き換えるとパスワード無しの状態（工場出荷値）に戻ります。

④「*OK*」ボタンをクリックしてください。



◆パスワードを設定した際の設定ツールの動作については、「パスワードの要求」（次ページ）を参照してください。

確 認	
	設定したパスワードは忘れないように注意してください。 （何かにメモしておくことをお勧めします。）

「LANポートの高度な設定について」（P65）へ進んでください。

＜次ページへ続く＞

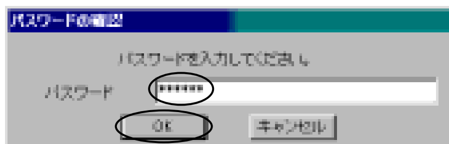
●パスワードの要求

パスワードはET-MPS検索後の動作設定時に要求されます。

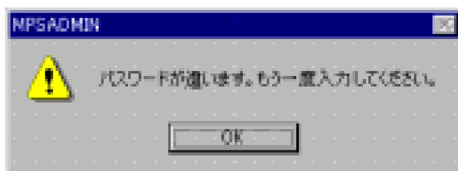
①「*動作設定*」ボタンをクリックしてください。



②「*パスワードの確認*」画面が表示されますので、前ページ③で入力したパスワードを入力し、「*OK*」ボタンをクリックしてください。



このとき、下記画面が表示された場合は入力したパスワードが間違っています。
「*OK*」ボタンをクリックした後、半角英数字、大文字･小文字に間違いが無いか確認し、再度入力してください。



＜次ページへ続く＞

③正しいパスワードを入力するとET-MPSの設定画面が起動します。



「パスワードの確認」画面で「キャンセル」ボタンをクリックしてもET-MPSの設定画面は起動しますが、何も設定できません。



●LAN ポートの高度な設定について

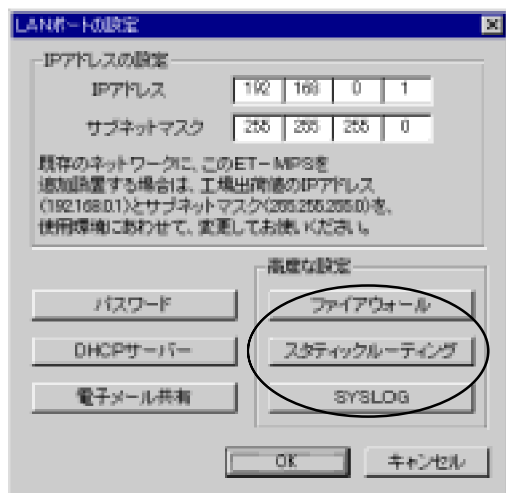
下記の設定は必要に応じて行ってください。（必ず行う必要はありません。）
なお、下記の設定を行うためにはTCP/IPプロトコルの知識が必要です。

設定する機能に応じて、第 7 章「高度な設定」の下記項目を参照してください。

◆ファイアウォール
→「7.1　ファイアウォール（IP フィルタ）の設定」（P130）を参照してください。

◆スタティックルーティング
→「7.2　LAN のスタティックルーティングの設定」（P140）を参照してください。

◆SYSLOG の設定
→「7.3　SYSLOG の設定」（P146）を参照してください。



上記の設定を行わない場合は「3.3.7　使用するシリアルポートの選択」（次ページ）へ進んでください。

3．3．7　使用するシリアルポートの選択

本項目では、ET-MPS で使用できる接続機能に応じて、実際に使用するシリアルポートの選択を行います。

●ET-MPS で使用できる接続機能について

ET-MPS には下記 7 種類の接続機能があります。

◆ISP･端末型ダイヤルアップ IP 接続
→ET-MPS から ISP へダイヤルアップ接続を行う機能です。
ET-MPS を導入する前に、1 台のパソコンから ISP へダイヤルアップ接続を行っていた場合、この機能が該当します。

◆RAS クライアント IP 接続
→ET-MPS から RAS サーバーへダイヤルアップ接続を行う機能です。

◆RAS サーバーIP 接続
→ET-MPS を RAS サーバーとし、RAS クライアントからのダイヤルアップ接続に応答する機能です。

◆ISP･LAN 型ダイヤルアップ IP 接続
→ET-MPS と ISP の間で双方向のダイヤルアップ接続を行う機能です。

◆LAN 型ダイヤルアップ IP 接続
→ET-MPS と他の事業所等の間で双方向のダイヤルアップ接続を行う機能です。

◆ISP･専用線 IP 接続
→ET-MPS と ISP の間で専用線接続を行う機能です。
この機能を使用するためには、ISDN 専用線に対応した TA が必要です。

◆専用線 IP 接続
→ET-MPS と他の事業所等の間で専用線接続を行う機能です。
この機能を使用するためには、ISDN 専用線に対応した TA が必要です。

●1 つのシリアルポートで使用できる接続機能について

1 つのシリアルポートで使用できる接続機能は、下記 9 通りの中の 1 つです。

◆ISP･端末型ダイヤルアップ IP 接続
◆ISP･端末型ダイヤルアップ IP 接続＋RAS サーバーIP 接続
◆RAS クライアント IP 接続
◆RAS クライアント IP 接続＋RAS サーバーIP 接続
◆RAS サーバーIP 接続
◆ISP･LAN 型ダイヤルアップ IP 接続
◆LAN 型ダイヤルアップ IP 接続
◆ISP 専用線 IP 接続
◆専用線 IP 接続

＜次ページへ続く＞

●2 つのシリアルポートで組み合わせて使用できる接続機能について

2 つのシリアルポートを組み合わせて、同時に使用できる機能を下記の表に示します。下記表を参考に、シリアルポート 1 とシリアルポート 2 にどの機能を選択するか決定してください。

1 つのシリアルポートのみ使用する場合、本項目を参照する必要はありません。
「シリアルポートを選択する」（次ページ）へ進んでください。

		シリアルポート2											
		ID	ID +RS	RC	RC +RS	RS	ILD	LD	LDD	IL	LL	LLD	未
シリアルポート1	ID	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×	○
	ID +RS	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×	○
	RC	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×	○
	RC +RS	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×	○
	RS	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ILD	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×	○
	LD	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	LDD	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×	○
	IL	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×	○
	LL	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	LLD	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×	○
	未	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

○ ＝ 使用可能　　× ＝ 使用不可

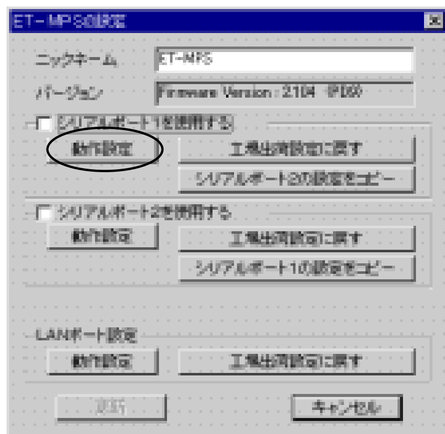
- ・ID ： ISP・端末型ダイヤルアップ IP 接続
- ・ID+RS ： ISP・端末型ダイヤルアップ IP 接続＋RAS サーバーIP 接続
- ・RC ： RAS クライアント IP 接続
- ・RC+RS ： RAS クライアント IP 接続＋RAS サーバーIP 接続
- ・RS ： RAS サーバーIP 接続
- ・ILD ： ISP・LAN 型ダイヤルアップ IP 接続
- ・LD ： LAN 型ダイヤルアップ IP 接続
- ・LDD ： LAN 型ダイヤルアップ IP 接続で、そのポートをデフォルトゲートウェイに設定した時
- ・IL ： ISP 専用線型 IP 接続
- ・LL ： 専用線 IP 接続
- ・LLD ： 専用線 IP 接続で、そのポートをデフォルトゲートウェイに設定した時
- ・未 ： 未使用（未設定）

＜次ページへ続く＞

●シリアルポートを選択する

前ページまでの内容を元に、使用するシリアルポートを選択してください。

◆シリアルポート 1 の動作設定は「*シリアルポート 1 を使用する*」欄の中の「*動作設定*」ボタンをクリックしてください。
シリアルポート 2 の動作設定の場合も同様に「*シリアルポート 2 を使用する*」欄の中の「*動作設定*」ボタンをクリックしてください。



「*動作設定*」ボタンをクリックするとシリアルポートの設定画面が表示されます。

→「3.3.8　シリアルポートに接続するモデム/TA の設定」（次ページ）へ進んでください。

3．3．8　シリアルポートに接続するモデム/TAの設定

本項目では、ET-MPSのシリアルポートに接続するモデム/TAの設定を行います。

●回線の種類の選択

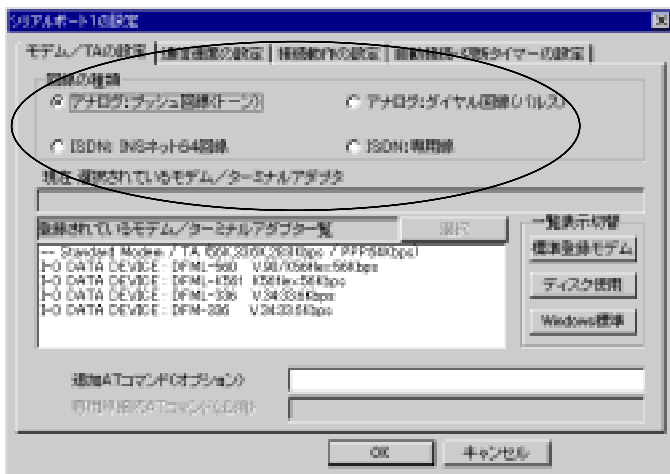
「*回線の種類*」の中からモデム/TA に接続する回線を選択してください。

◆アナログ：プッシュ回線（トーン）
　→電話機からダイヤルしたとき「ピッポッパ」と聞こえます。

◆アナログ：ダイヤル回線（パルス）
　→電話機からダイヤルしたとき「ブツブツ」と聞こえます。

◆ISDN：INSネット64回線

◆ISDN：専用線



確 認	間違った回線の種類を選択すると ISP や RAS サーバー等へ接続することができませんので注意してください。

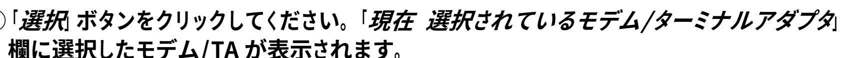
＜次ページへ続く＞

●モデム/TA の選択

①「*登録されているモデム/ターミナルアダプタ一覧*」のリストの中に、設定ツールを起動しているパソコン（Windows98、Windows95 又は WindowsNT4.0）の「*モデムのプロパティ*」に登録されているモデム/TA、及び ET-MPS に標準登録されているモデム/TA が表示されます。

※表示されない場合は「一覧に表示されない場合」（次ページ）を参照してください。

「2.4.1　モデム/TA のセットアップ」（P19）で登録したモデム/TA を選択（クリック）してください。選択されたモデム/TA がハイライト表示されます。



②「*選択*」ボタンをクリックしてください。「*現在　選択されているモデム/ターミナルアダプタ*」欄に選択したモデム/TA が表示されます。

◆前ページで「ISDN：専用線」を選択した場合
→「ISDN専用線の場合」（74ページ）へ進んでください。

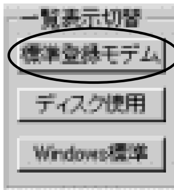
◆追加ATコマンドを設定する場合
→「追加ATコマンドの設定」（75ページ）へ進んでください。



◆上記以外の場合、「3.3.9　通信速度の設定」（76ページ）へ進んでください。

●一覧に表示されない場合

「*一覧表示切替*」の中の「*標準登録モデム*」ボタンをクリックしてください。



ET-MPS 設定ツールを起動したパソコンにセットアップされているモデム/TA の情報を再度読みこみます。
（同時に ET-MPS に標準登録されているモデム/TA を表示します。）
使用するモデム/TA が表示された場合、それを選択（クリック）してください。選択されたモデム/TA がハイライト表示されますので「*選択*」ボタンをクリックしてください。

◆「回線の種類の選択」（P69）で「ISDN：専用線」を選択した場合
　→「ISDN専用線の場合」（P74）へ進んでください。

◆追加ATコマンドを設定する場合
　→「追加ATコマンドの設定」（P75）へ進んでください。

◆上記以外の場合「3.3.9　通信速度の設定」（P76）へ進んでください。

「*標準登録モデム*」ボタンをクリックしたとき、下記画面が表示されることがあります。
（下記画面が表示されましたら「*OK*」ボタンをクリックしてください。）



パソコンにセットアップした（または元々セットアップされていた）モデム/TA が Windows 標準の機種（モデム/TA に添付されていたフロッピーディスクを特に使用しないでモデム/TA をセットアップした等）の場合に表示されることがあります。

この場合、上記画面にも表示されている通り、モデム/TA の登録方法として下記の 2 通りがあります。

■「*ディスク使用*」ボタンをクリックする方法（次ページ）
　→ディスクを使用してモデム設定情報ファイル（inf ファイル）を読みこみます。
　Windows98、Windows95 又は WindowsNT4.0 の「*モデムウィザード*」での「*ディスク使用*」と同じです。モデム/TA にモデム設定情報ファイル(inf ファイル)の入ったフロッピーディスクが添付されている場合、この方法でモデム/TA の登録を行ってください。

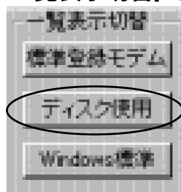
■「*Windows標準*」ボタンをクリックする方法（P73）
　→Windows98、Windows95又はWindowsNT4.0に標準で登録されているモデム/TAを表示します。
　Windows98、Windows95又はWindowsNT4.0の「*モデムウィザード*」で表示されるモデムの一覧と同じです。

＜次ページへ続く＞

<<「*ディスク使用*」ボタンをクリックする場合の手順>>

①モデム/TAに添付されているモデム設定情報ファイル(infファイル)の入ったフロッピーディスクをパソコンのフロッピーディスクドライブに挿入してください。

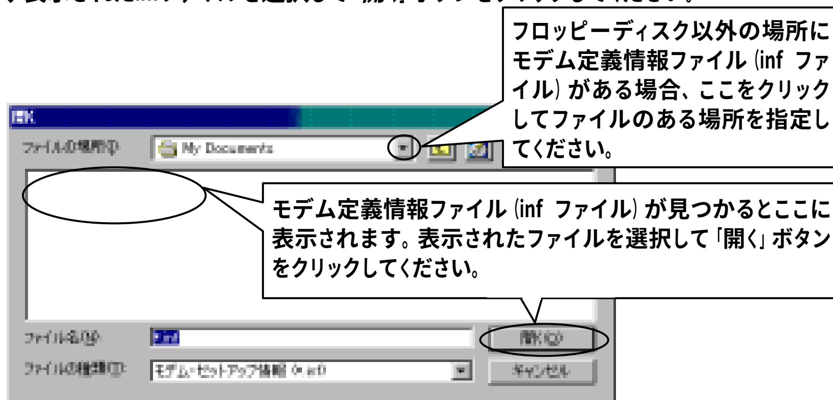
②「*一覧表示切替*」の「*ディスク使用*」ボタンをクリックしてください。



③下記画面が表示されます。

◆「*ファイルの場所*」右端の「▼」をクリックして、フロッピーディスクドライブを選択してください。

◆表示されたinfファイルを選択して「*開く*」ボタンをクリックしてください。



④「モデム/TAの選択」(P70)の画面に戻ります。

このとき、「*登録されているモデム/ターミナルアダプター覧*」にフロッピーディスクから読み込んだモデム定義情報ファイル(infファイル)に入っているモデム/TAが表示されます。

使用するモデム/TAを選択(クリック)してください。

⑤選択されたモデム/TAがハイライト表示されますので「*選択*」ボタンをクリックしてください。

◆「回線の種類の選択」(P69)で「ISDN：専用線」を選択した場合
→「ISDN専用線の場合」(P74)へ進んでください。

◆追加ATコマンドを設定する場合
→「追加ATコマンドの設定」(P75)へ進んでください。

◆上記以外の場合「3.3.9　通信速度の設定」(P76)へ進んでください。

<<「*Windows標準*」ボタンをクリックする場合の手順>>

①「*一覧表示切替*」の「*Windows標準*」ボタンをクリックしてください。



②下記画面が表示されますので、「*製造元*」右端の「▲」「▼」ボタンをクリックして画面をスクロールさせ、使用しているモデム/TAのメーカー名を選択して「*OK*」ボタンをクリックしてください。
（パソコンによっては下記画面が表示されるまで数秒間かかる場合があります。）



③「モデム/TAの選択」（P70）の画面に戻ります。
このとき、「*登録されているモデム/ターミナルアダプタ一覧*」に選択した製造元（メーカー名）のモデム/TAが表示されます。
使用するモデム/TAを選択（クリック）してください。

④選択されたモデム/TAがハイライト表示されますので「*選択*」ボタンをクリックしてください。

◆「回線の種類の選択」（P69）で「ISDN：専用線」を選択した場合
→「ISDN専用線の場合」（次ページ）へ進んでください。

◆追加ATコマンドを設定する場合
→「追加ATコマンドの設定」（P75）へ進んでください。

◆上記以外の場合「3.3.9　通信速度の設定」（P76）へ進んでください。

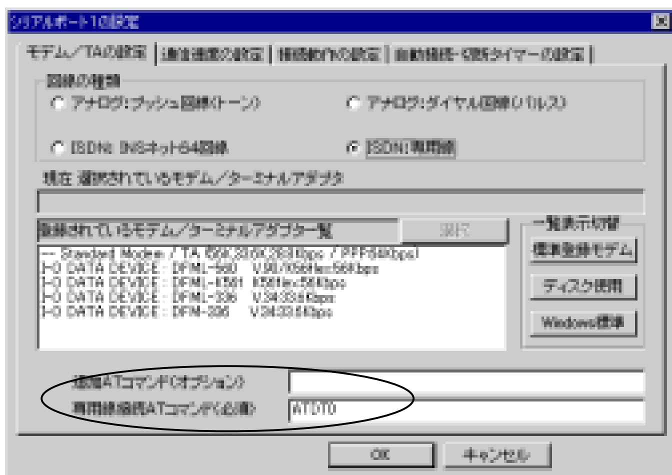
●ISDN専用線の場合

「回線の種類の設定」（P69）で「*ISDN：専用線*」を選択した場合は、「*専用線接続ATコマンド*」を入力します。

「*追加 AT コマンド（オプション）*」及び「*専用線接続 AT コマンド（必須）*」の入力欄に必要な AT コマンドを入力してください。

設定する AT コマンドについては、TA のマニュアルを参照してください。
（ET-MPS には工場出荷値で専用線接続 AT コマンドとして「ATDT0」が入力されています）

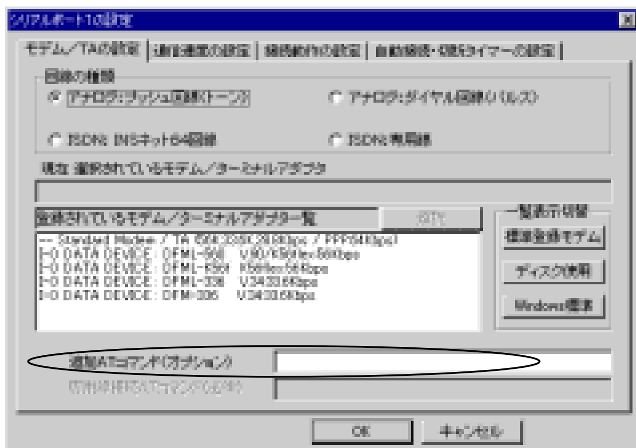
確 認	ISDN専用線を使用する場合、必ずISDN専用線に対応したTAを使用してください。
	TA によっては Windows98、Windows95 又は WindowsNT4.0 の inf ファイル側で各専用線接続用のモードが用意されている場合があります。（下記画面の「登録されているモデム/ターミナルアダプタ一覧」に専用線接続用の名称が表示される場合があります。） その場合、「登録されているモデム/ターミナルアダプタ一覧」からそれぞれ該当する専用線のモードを選択してください。「*追加ATコマンド（オプション）*」は特に入力する必要ありません。 詳しくは TA のマニュアル等を参照してください。



「3.3.9　通信速度の設定」（P76）へ進んでください。

●追加 AT コマンドの設定

AT コマンドの追加設定を行いたい場合は、「*追加 AT コマンド*」入力欄に、追加したいモデム/TA の AT コマンドを入力し、「*OK*」ボタンをクリックしてください。



備考：ここに入力した AT コマンドは最後（モデム/TA がダイヤル動作を行う直前）にモデム/TA に送られるため、モデム設定情報ファイル（inf ファイル）情報の設定値よりも優先されます。 **使用できる AT コマンドについては、モデム/TA のマニュアルを参照してください。** **（本設定で追加したコマンドは、本設定でのみ有効になるもので、Windows に登録されているモデム設定情報ファイル（inf ファイル）は変更されません。）**

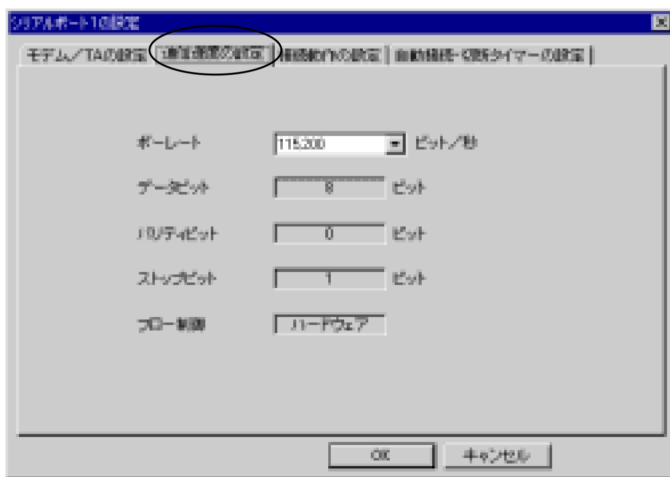
「3.3.9　通信速度の設定」（次ページ）へ進んでください。

3．3．9 通信速度の設定

本項目では、シリアルポートに接続されているモデム/TA と ET-MPS 間の通信速度を設定します。

確 認	本項目で設定する「通信速度」（「*ボーレート*」）は ISP や RAS サーバー、RAS クライアントとの通信速度ではありません。 モデム/TA と ET-MPS 間の通信速度（端末速度、DTE 速度）です。 また、本項目で設定する「通信速度」（「*ボーレート*」）は必ずモデム/TA でサポートされている通信速度を選択してください。サポート外の通信速度を選択すると接続できませんので注意してください。 モデム/TA でサポートされている通信速度については、モデム/TA のマニュアルを参照してください。

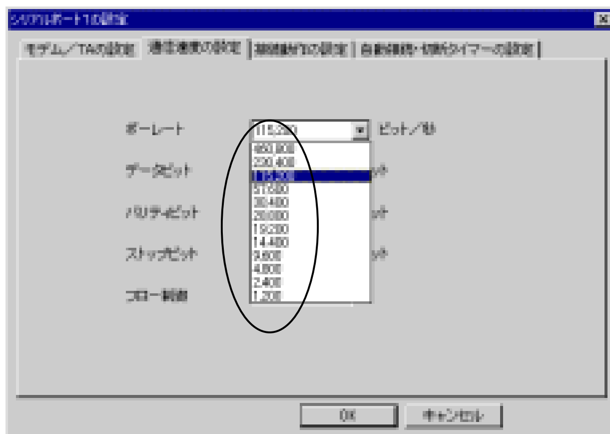
①「*通信速度の設定*」のタブをクリックしてください。



備考：工場出荷値は、「115,200」（ビット／秒）になっています。

＜次ページへ続く＞

②「*ボーレート*」欄の「▼」をクリックして、接続するモデム/TAの通信速度（端末速度、DTE速度）に合わせ、リストの中から通信速度を選択してください。



以上で共通設定（基本的な内容）は終了です。
使用する接続機能に応じて下記へ進んでください。

◆ISP端末型又はLAN型ダイヤルアップIP接続、LAN型ダイヤルアップIP接続及びISP端末型ダイヤルアップIP接続とRASサーバーを併用する場合
→「第4章　ダイヤルアップIP接続の設定」（P79）へ進んでください。

◆RASクライアントIP接続又はRASサーバーIP接続、及びRASクライアントIP接続とRASサーバーIP接続を併用する場合
→「第5章　RAS接続の設定」（P97）へ進んでください。

◆専用線IP接続（ISP・専用線IP接続又は専用線IP接続）を使用する場合
→「第6章　専用線接続の設定」（P119）へ進んでください。

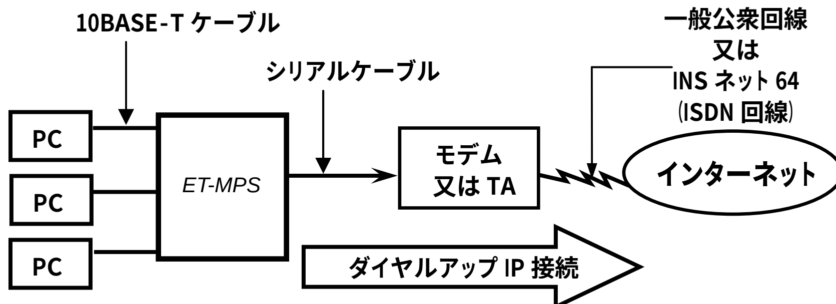
<MEMO>

第4章　ダイヤルアップIP接続の設定

確　認	あらかじめ、加入されている ISP（インターネットプロバイダ）から提供されている資料をお手元にご用意ください。

4．1　ISP･端末型ダイヤルアップIP接続の設定

本項目では、ISP（インターネット･サービス･プロバイダ）に端末型ダイヤルアップ IP 接続を行うための設定を行います。ET-MPS を導入する前にパソコンからダイヤルアップ IP 接続を行っていた場合、この ISP･端末型ダイヤルアップ IP 接続が該当します。

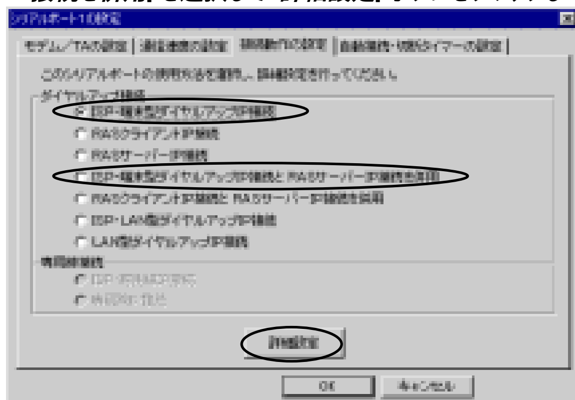


ISP･LAN 型ダイヤルアップ IP 接続又は LAN 型ダイヤルアップ IP 接続を行う場合は「4.2 ISP･LAN 型/LAN 型ダイヤルアップ IP 接続の設定」（P85）へ進んでください。

4．1．1　接続動作の設定

本項目では、契約した ISP からの情報をもとに、ISP へ接続するためのユーザーID、パスワード及びアクセスポイント（電話番号）を設定します。

①「*接続動作の設定*」のタブをクリックし、「*ISP･端末型ダイヤルアップ IP 接続*」を選択して「*詳細設定*」ボタンをクリックしてください。
RAS サーバーも併用する場合、「*ISP･端末型ダイヤルアップ IP 接続と RAS サーバーIP 接続を併用*」を選択して「*詳細設定*」ボタンをクリックしてください。



＜次ページへ続く＞

確 認	どちらか片方のシリアルポートでのみ、ISP ダイヤルアップ IP 接続又は RAS クライアント IP 接続の設定が可能です。例えばシリアルポート 1 に ISP ダイヤルアップ IP 接続、又は RAS クライアント IP 接続が設定されている場合、シリアルポート 2 は ISP ダイヤルアップ IP 接続及び RAS クライアント IP 接続は設定できません。 シリアルポート 1 とシリアルポート 2 で組み合わせて使用できる機能については、「3.3.7　使用するシリアルポートの選択」（P66）を参照してください。

②「*ユーザー名*」には、ISPから割り当てられたユーザーIDを入力してください。
「*パスワード*」には、ISPから割り当てられたパスワードを半角英数字で入力してください。
「*パスワード再入力*」には、「*パスワード*」で入力したものと同じパスワードを半角英数字で入力してください。

備考：「*パスワード*」及び「*再入力*」の入力欄には全て「＊＊＊＊＊」で表示されます。

確 認	ユーザーID やパスワードを入力する際、半角英大文字と半角英小文字を間違えないよう注意してください。

③「*アクセスポイント*」の 1～3 に ISP アクセスポイントの電話番号を半角数字で入力してください。ISP アクセスポイントへの電話番号は 3 ヶ所まで登録可能です。
優先順位の高い電話番号から順に「*アクセスポイント 1*」から入力してください。

備考：アクセスポイントを 3 ヶ所全て設定する必要はありませんが、最低 1 ヶ所は必ず設定してください。

確 認	アクセスポイントは、契約した ISP からの情報をもとに、正しく入力してください。間違った電話番号を設定した場合、間違い電話をかけ続けてしまう恐れがありますので注意してください。

<次ページへ続く>

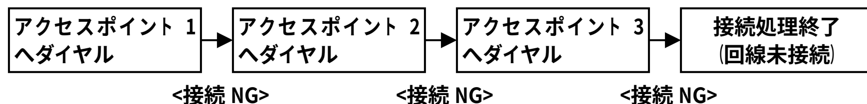
●ISPへのダイヤル動作（接続動作）について

ET-MPSの自動接続機能（詳しくは94ページの「4.3.1　自動接続モードの設定」を参照）が有効の場合、ET-MPSに接続されているパソコンで、インターネットを利用するアプリケーション（WWWブラウザ、メールソフトウェア等）を起動すると、ET-MPSのシリアルポートに接続されたモデム/TAが自動的にISPへダイヤルを開始し、接続を行います。

登録された電話番号は、アクセスポイント 1→アクセスポイント 2→アクセスポイント 3 の順番で自動的にダイヤルされます。

まず、アクセスポイント 1 へダイヤルします。アクセスポイント 1 が回線の混雑等で接続できなかった場合は、アクセスポイント 2 にダイヤルを行い、それでも接続できなかった場合はアクセスポイント 3 にダイヤルを行います。

アクセスポイント 3 でも接続できなかった場合は、回線未接続のまま接続作業を終了しますので、アプリケーション（WWW ブラウザ、メールソフトウェア等）を再起動してください。



接続NG：モデムが"BUSY"を返す場合

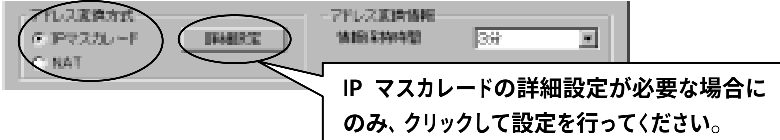
「4.1.2　IP アドレス変換の設定」（次ページ）へ進んでください。

4．1．2 IPアドレス変換の設定

本項目では、IP アドレス変換の設定を行います。

●「アドレス変換方式」の設定

ET-MPS は、「IP マスカレード」と「NAT」の 2 種類のアドレス変換方式を搭載しています。



◆「*IP マスカレード*」（工場出荷値）

→複数台のパソコンで同時にインターネットへ接続する場合に選択してください。

IP マスカレードは最大 256 セッションのやりとりが可能です。
通常、1 台のパソコンでインターネットへ接続する場合、WWW ブラウザやメールソフトウェア等により約 10 セッション程度使用すると考えられます。
すなわち、約 20 台程度のパソコンから同時にインターネットへ接続できると考えられます。

・IP マスカレードの設定を行っても正しく動作しないアプリケーションがある場合は「*NAT*」を選択してください。

・LAN 内にあるパソコンで WWW サーバーや FTP サーバーを運用する場合や、ネットワーク対戦ゲームを行う場合、「*詳細設定*」ボタンをクリックして IP マスカレードの詳細設定を行ってください。
詳しくは「7.4 IP マスカレードの詳細設定」（P154）を参照してください。
（設定を行うためには TCP/IP プロトコルの知識が必要です。）

◆「*NAT*」

→1 台づつインターネットへ接続する場合に選択してください。

複数台での使用は可能ですが、IP マスカレードのように同時に複数台がインターネットへ接続することはできません。
接続できるのは 1 台づつで、その 1 台が接続を終えるまで他のパソコンはインターネットへ接続することができません。

●「アドレス変換情報」（情報保持時間）の設定

ここで設定した時間内に通信が無かった場合、インターネットへの接続権利を他のユーザー（パソコン）へ譲ります。



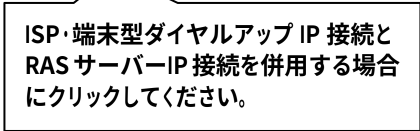
IP マスカレード使用時は 256 セッションを越えた場合、NAT 使用時は 1 台がインターネットへ接続している場合、それ以降は新たなユーザー（パソコン）がインターネットへ接続しようとしても接続できません。

無通信状態がここで設定する「*情報保持時間*」を過ぎた場合に接続権利を譲ることにより、新たなユーザー（パソコン）がインターネットへ接続できるようになります。

＜次ページへ続く＞

◆80 ページ①の設定画面で「*ISP･端末型ダイヤルアップ IP 接続*」を選択した場合
→「*OK*」ボタンをクリックして「4.3　自動接続･切断タイマーの設定」（P94）へ進んでください。

◆80 ページ①の設定画面で「*ISP･端末型ダイヤルアップ IP 接続と RAS サーバーIP 接続を併用*」を選択した場合
→「*RAS サーバーの設定*」ボタンをクリックして「5.2　RAS サーバーIP 接続の設定」（P106）へ進んでください。



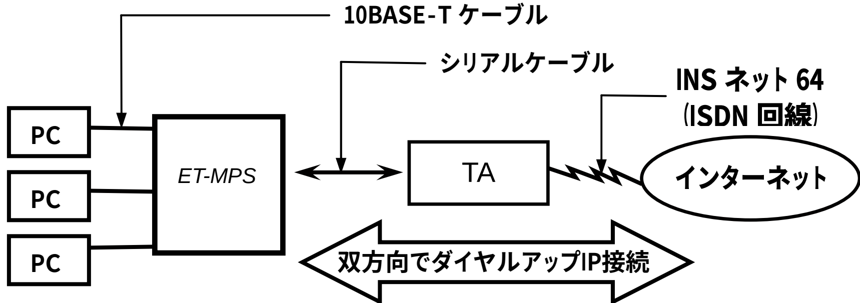
［4.1　ISP･端末型ダイヤルアップ IP 接続の設定　　以上］

4．2　ISP･LAN型/LAN型ダイヤルアップIP接続の設定

本項目では、LAN 型ダイヤルアップ IP 接続の設定を行います。
LAN 型ダイヤルアップ IP 接続には下記の 2 種類があります。

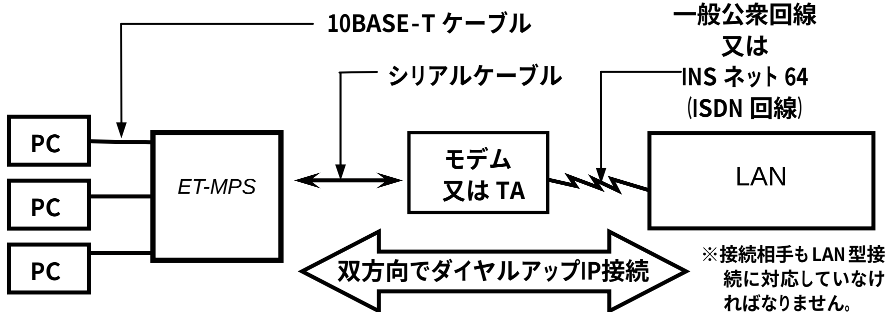
●ISP･LAN 型ダイヤルアップ IP 接続

ISP･LAN 型ダイヤルアップ IP 接続は ISP が提供するサービスの 1 つです。
ISP 側とユーザー側の双方向からのダイヤルアップ IP 接続により、INS ネット 64（ISDN 回線）を使用したダイヤルアップ接続で、専用線を使用しているように使えるサービスです。
ISP･LAN 型ダイヤルアップ IP 接続をするには、ISP との LAN 型接続契約が必要です。



●LAN 型ダイヤルアップ IP 接続

事業所間等で、双方向のダイヤルアップ IP 接続を行う機能です。



※接続相手も LAN 型接続に対応していなければなりません。

ISP･LAN型ダイヤルアップIP接続、LAN型ダイヤルアップIP接続は設定内容がほぼ共通ですが、下記の点が異なります。

◆ISP･LAN 型ダイヤルアップ IP 接続の場合、そのシリアルポートがデフォルトゲートウェイになります。

◆LAN 型ダイヤルアップ IP 接続の場合、下記いずれかの設定が可能です。
・そのシリアルポートをデフォルトゲートウェイにする。
・ルーティングテーブルを設定する。

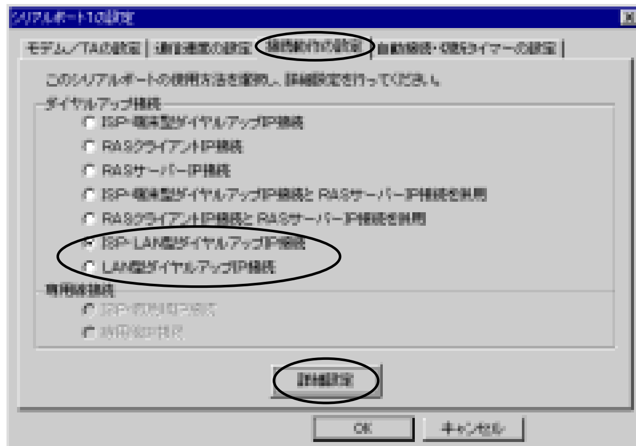
確認	ET-MPS は、ISP･LAN 型/LAN 型ダイヤルアップ IP 接続時には IP アドレスの変換を行いません。LAN 型接続契約時に ISP 等から割り当てられたグローバル IP アドレスを使用してください。

「4.2.1　接続動作の設定」（次ページ）へ進んでください。

4．2．1　接続動作の設定

本項目では、認証関係の設定及びアクセスポイント（電話番号）の設定を行います。

①「*接続動作の設定*」のタブをクリックし、「*ISP･LAN 型ダイヤルアップ IP 接続*」又は「*LAN 型ダイヤルアップ IP 接続*」を選択して「*詳細設定*」ボタンをクリックしてください。



②「*認証方法*」の中から、ISP との契約情報等をもとに、ユーザーID 及びパスワードの認証方法を選択してください。

◆発信した時･着信した時の両方向で接続認証を行う場合
→「*発信時と着信時ともに認証を行う*」を選択してください。

◆着信した時のみ接続認証を行う場合
→「*着信時のみ認証*」を選択してください。

◆発信した時･着信した時の両方向共に接続認証を行わない場合
→「*認証なし*」を選択してください。



認証方法についての詳細は次ページを参照してください。

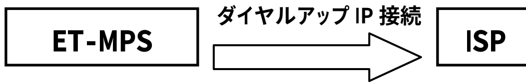
選択が終わりましたら 88 ページ③へ進んでください。

＜次ページへ続く＞

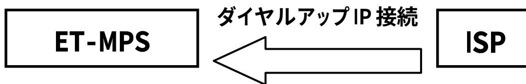
認証方法について

（以下の説明は「ISP・LAN 型ダイヤルアップ IP 接続」の説明です。「LAN 型ダイヤルアップ IP 接続」の場合は、以下の「ISP」を「ET-MPS」に読み替えてください。）

◆発信時と着信時ともに認証を行う

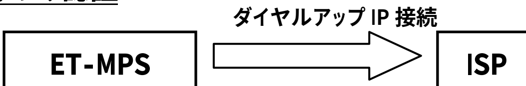


ISP 等で、ET-MPS が送った「*発信時の認証情報*」の設定内容と ISP 等での認証情報が同じであるかの認証を行います。
同時に ET-MPS 側でも、ISP 等から送られてきた認証情報と「*着信時の認証情報*」の設定内容が同じであるかの認証を行います。両方の認証が完了すると接続ができます。

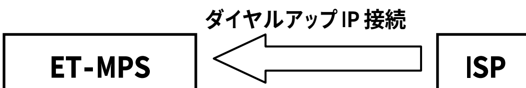


ET-MPS で、ISP 等から送られてきた認証情報と「*着信時の認証情報*」の設定内容が同じであるかの認証を行います。
同時に ISP 側等でも、ET-MPS が送った「*発信時の認証情報*」の設定内容と ISP 等での認証情報が同じであるかの認証を行います。両方の認証が完了すると接続ができます。

◆着信時のみ認証

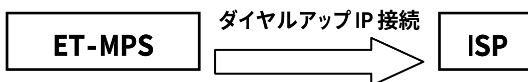


ISP 等で、ET-MPS が送った「*発信時の認証情報*」の設定内容と ISP 等での認証情報が同じであるかの認証を行います。認証が完了すると接続ができます。



ET-MPS で、ISP 等から送られた認証情報と「*着信時の認証情報*」の設定内容が同じであるかの認証を行います。認証が完了すると接続ができます。

◆認証なし



ISP 等でも ET-MPS でも、接続のための認証を行わずに接続ができます。



ET-MPS でも ISP 等でも、接続のための認証を行わずに接続ができます。

＜次ページへ続く＞

③「*発信時の認証情報*」の項目にユーザーから ISP 等への接続に必要な情報を設定します。
ISP 等との契約情報をもとに、必要な項目のみを入力してください。

「*ユーザー名*」には、ISP 等から割り当てられたユーザーID を半角英数字で入力してください。
「*パスワード*」には、ISP 等から割り当てられたパスワードを半角英数字で入力してください。
「*パスワード再入力*」には、「*パスワード*」で入力したものと同じパスワードを半角英数字で入力してください。

備考：「*パスワード*」及び「*再入力*」の入力欄には全て「＊＊＊＊＊」で表示されます。

「*発信先電話番号*」には、ISP 等へのアクセスポイント（電話番号）を半角で入力してください。

確 認	ユーザーID やパスワードを入力する際、半角英大文字と半角英小文字を間違えないよう注意してください。
	アクセスポイントは、契約した ISP からの情報をもとに、正しく入力してください。 間違った電話番号を設定した場合、間違い電話をかけ続けてしまう恐れがありますので注意してください。

※86 ページ②の設定画面で「*認証なし*」を選択した場合、「*発信先電話番号*」のみが表示されます。アクセスポイントを入力して次ページ⑤へ進んでください。



④「*着信時の認証情報*」の項目に ISP 等からユーザーへの接続に必要な情報を設定します。
ISP 等との契約情報をもとに、必要な項目のみを入力してください。

「*ユーザー名*」には、ISP 等から割り当てられたユーザーID を入力してください。
「*パスワード*」には、ISP 等から割り当てられたパスワードを半角英数字で入力してください。
「*パスワード再入力*」には、「*パスワード*」で入力したものと同じパスワードを半角英数字で入力してください。

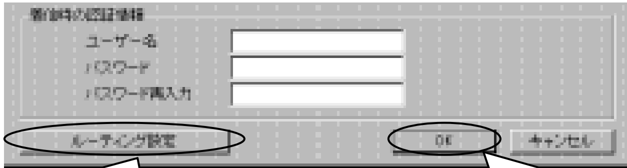
備考：「*パスワード*」及び「*再入力*」の入力欄には全て「＊＊＊＊＊」で表示されます。

＜次ページへ続く＞

⑤設定した LAN 型ダイヤルアップ IP 接続の種類に応じて下記を参照してください。

◆ISP･LAN 型ダイヤルアップ IP 接続の場合
→「*OK*」ボタンをクリックし「4.3　自動接続･切断タイマーの設定」(P94) へ進んでください。
ISP･LAN 型ダイヤルアップ IP 接続の場合、そのシリアルポートがデフォルトゲートウェイになりますので、「ルーティング設定」ボタンをクリックしても設定する項目がありません。

◆LAN 型ダイヤルアップ IP 接続の場合
→「*ルーティング設定*」ボタンをクリックして⑥へ進んでください。



LAN 型ダイヤルアップ IP 接続の場合にクリックしてください。

ISP･LAN 型ダイヤルアップ IP 接続の場合にクリックしてください。

⑥LAN 型ダイヤルアップ IP 接続の場合、そのシリアルポートをデフォルトゲートウェイとするか、ルーティングテーブルを設定するか選択できます。

◆デフォルトゲートウェイに設定する場合
→ET-MPS が接続されている LAN 内に存在する IP アドレス宛以外のパケットは、全てシリアルポート宛に送られます。
設定方法については「4.2.2　ルーティング設定 (デフォルトゲートウェイ)」(次ページ) を参照してください。

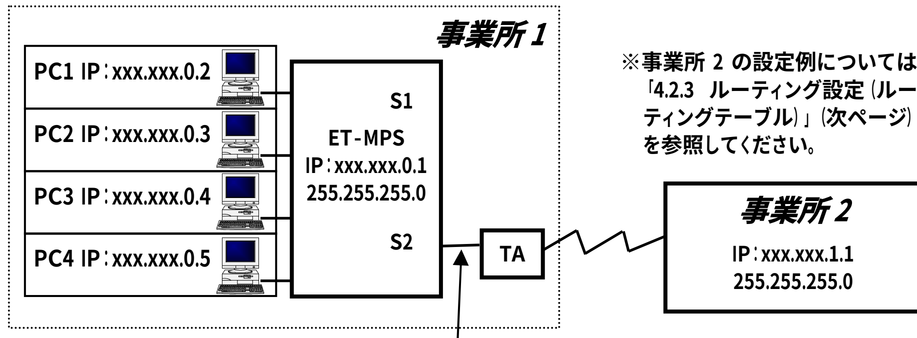
◆ルーティングテーブルを設定する場合
→ET-MPS へ送られたパケットを、シリアルポート経由で相手先へ送るためのネットワークアドレスを設定します。
設定方法については「4.2.3　ルーティング設定 (ルーティングテーブル)」(P91) を参照してください。

4．2．2　ルーティング設定（デフォルトゲートウェイ）

本項目では、デフォルトゲートウェイの設定を行い、その際の構成例と動作について説明します。

●構成例

※「IP」は IP アドレスを意味します。
※「IP」の下の数値はサブネットマスクを意味します。



◆*シリアルポート 2 を LAN 型ダイヤルアップ IP 接続に設定*
◆*シリアルポート 2 をデフォルトゲートウェイに設定*

上記構成例の場合、IPアドレス「xxx.xxx.0.2～xxx.xxx.0.5」宛以外のパケットは、全てシリアルポート2（S2）を通して事業所2宛に送られます。（ET-MPSが接続されているLAN内に存在するIPアドレス宛以外のパケットは、全てシリアルポート2（S2）宛に送られます。）

例えば、PC1からIPアドレス「xxx.xxx.0.5」宛のパケットはそのままPC4に送られますが、
IPアドレス「xxx.xxx.1.5」宛のパケットはシリアルポート2（S2）を通して事業所2へ送られます。
（IPアドレス「xxx.xxx.1.xxx」宛のパケットは事業所2のルーターへ送られます。）

●設定方法

①前ページ⑤の画面で「*ルーティング設定*」ボタンをクリックし、
「*このシリアルポートをデフォルトゲートウェイに設定*」をチェックして「*OK*」ボタンをクリックしてください。



＜次ページへ続く＞

②89ページ⑤の画面に戻りますので「OK」ボタンをクリックしてください。

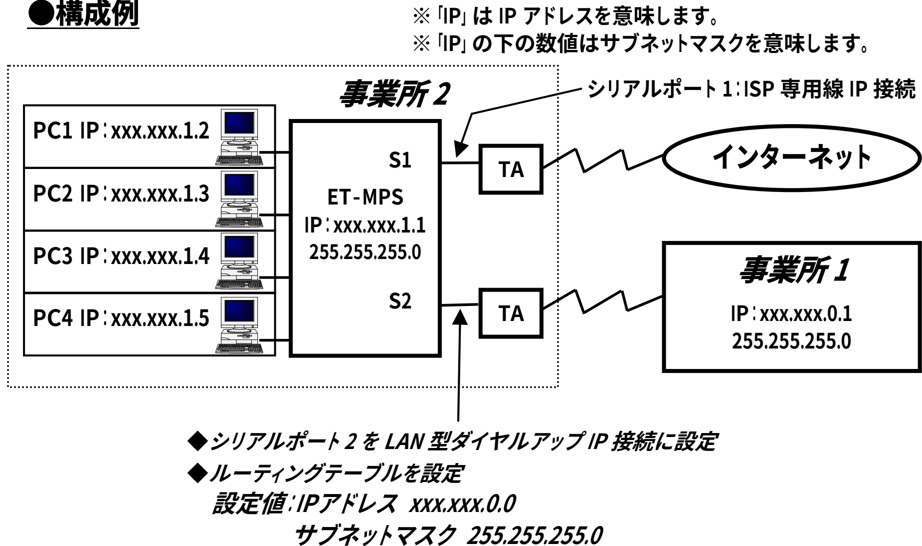
「4.3　自動接続・切断タイマーの設定」（P94）へ進んでください。

４．２．３　ルーティング設定（ルーティングテーブル）

本項目では、ルーティングテーブルの設定を行い、その際の構成例と動作について説明します。

●構成例

※「IP」は IP アドレスを意味します。
※「IP」の下の数値はサブネットマスクを意味します。



◆シリアルポート 2 を LAN 型ダイヤルアップ IP 接続に設定
◆ルーティングテーブルを設定
設定値：IPアドレス　xxx.xxx.0.0
サブネットマスク　255.255.255.0

上記構成例の場合、下記のようにパケットが送られます。

<<事業所2>>

◆ET-MPSが接続されているLAN内に存在するIPアドレス宛のパケット
→そのままLAN内へ送られます。
例えば、PC1からIPアドレス「xxx.xxx.1.5」宛のパケットはそのままPC4へ送られます。

◆IPアドレス「xxx.xxx.0.xxx」宛のパケット
→シリアルポート2（S2）を通して事業所2へ送られます。
（事業所2のルーターへ送られます。）
例えば、IPアドレス「xxx.xxx.0.5」宛のパケットは事業所2へ送られます。

◆上記以外の宛先へのパケット
→シリアルポート1（S1）からインターネットへ送られます。

<<事業所1>>

事業所1のパケットの送られ方と設定例については「4.2.2　ルーティング設定（デフォルトゲートウェイ）」（前ページ）を参照してください。

＜次ページへ続く＞

●ルーティングテーブルの登録

①89ページ⑤の画面で「*ルーティング設定*」ボタンをクリックしてください。

②「*ルーティングテーブル設定*」の中の「*IPアドレス*」と「*サブネットマスク*」にそれぞれ登録するIPアドレス※とサブネットマスクを入力してください。
※　ここでいうIPアドレスとは、ネットワークアドレスを意味します。

③「*追加*」ボタンをクリックしてください。
登録リストに入力したルーティングテーブルが登録されます。

備考：上記画面例に入力されている情報は参考例です。既存のLANに合わせて設定してください。

④登録が終わりましたら「*OK*」ボタンをクリックしてください。

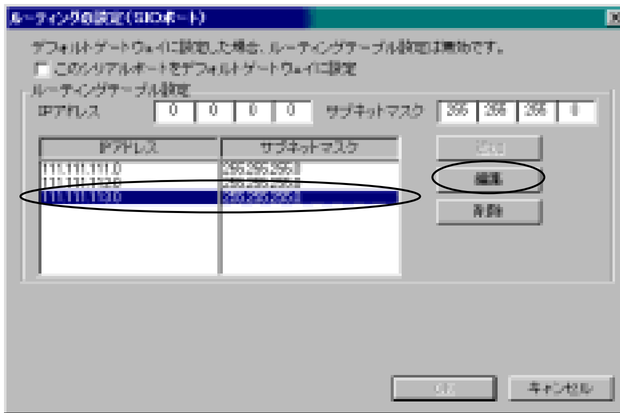
ルーティングテーブルの編集/削除を行う場合は次ページを参照してください。

「4.3　自動接続・切断タイマーの設定」（P94）へ進んでください。

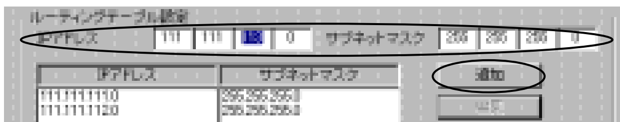
＜次ページへ続く＞

●ルーティングテーブルの編集

①編集したいルーティングテーブルを選択して「*編集*」ボタンをクリックしてください。



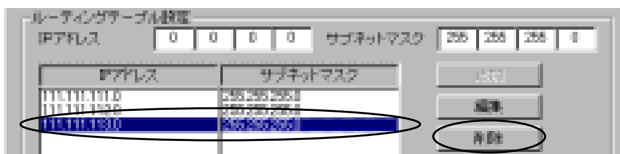
②選択したルーティングテーブルが入力欄に表示されますので、変更後に「*追加*」ボタンをクリックしてください。登録リストに変更後のルーティングテーブルが登録されます。





●ルーティングテーブルの削除

削除したいルーティングテーブルを選択して「*削除*」ボタンをクリックしてください。

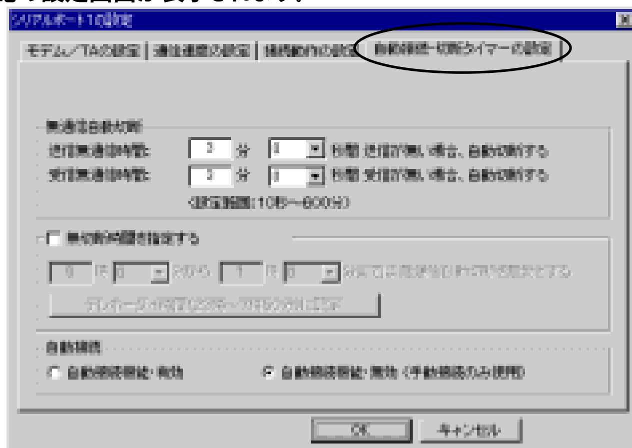


［4.2　ISP･LAN型/LAN型ダイヤルアップIP接続の設定　　以上］

4．3　自動接続･切断タイマーの設定

本項目では、自動接続･切断タイマー機能の設定を行います。

「*自動接続･切断タイマーの設定*」のタブをクリックしてください。
下記の設定画面が表示されます。



4．3．1　自動接続モードの設定

本項目では、自動接続機能の有効/無効を設定します。

●「自動接続機能･有効」の場合

◆インターネットを利用するアプリケーション（WWWブラウザやメールソフトウェア等）を起動すると、自動的に回線を接続します。

◆設定ツールでの「*手動接続*」が可能です。

●「自動接続機能･無効」の場合

◆設定ツールでの「*手動接続*」のみが可能です。

「*自動接続機能･有効*」か「*自動接続機能･無効*」のどちらかを選択してください。
工場出荷値は「*自動接続機能･無効*」に設定されています。



「4.3.2　自動切断タイマーの設定」（次ページ）へ進んでください。

4．3．2　自動切断タイマーの設定

本項目では、自動切断タイマーの設定を行います。
自動切断タイマーには下記の2種類があります。

●「無通信　自動切断」機能

設定した時間内に通信がなかった場合、自動的に回線を切断する機能です。
送信と受信の無通信監視時間をそれぞれ別の時間に設定することができます。

●「無切断時間指定」機能

指定した開始時刻から終了時刻までの間は、「*無通信　自動切断機能*」を無効にし、終了時刻に達した時点で自動的に回線を切断します。
NTT社の夜間限定定額サービスのテレホーダイを契約している方は、「*テレホーダイ*」ボタンをクリックすることで、テレホーダイサービス時間帯を設定することができます。

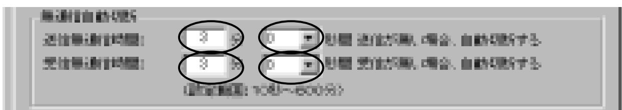
●「無通信自動切断」の設定

①ET-MPS からの送信に対しての無通信タイマー監視時間を設定します。

「*送信無通信時間*」の「*分*」の入力欄に監視時間を1～600 の半角数字で入力してください。
「*秒*」の「▼」ボタンをクリックし、10～50 を選択してください。

②ET-MPS への受信に対しての無通信タイマー監視時間を設定します。
①の「*送信無通信時間*」の設定と同じ要領で設定を行ってください。

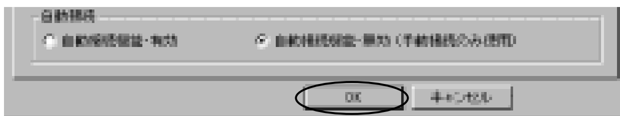
※設定が可能な時間範囲は、10秒間から600分間（10時間）までです。



備考：工場出荷値ではそれぞれ 3 分が設定されています。

確 認	接続するホームページによっては、常時通信状態になるホームページがあります。（例えば、一定時間ごとに広告が更新されるページ等） その場合、無通信タイマーは効きませんので注意してください。

◆「*無切断時間を指定する*」機能を使用しない場合
→「*OK*」ボタンをクリックして「第8章　設定の終了」（P173）へ進んでください。



◆「*無切断時間を指定する*」機能を使用する場合
→「「無切断時間を指定する」の設定」（次ページ）へ進んでください。

●「無切断時間を指定する」の設定

<<注意>>

設定を行う前に下記の項目を必ず参照してください。

◆設定ツールで ET-MPS の動作設定を行うパソコンの時計は必ず正確に合わせてください。
ET-MPS は設定ツールを起動したパソコンの時計を読みとり、その時刻情報を ET-MPS の時計としてカウントアップを始めます。
時計が正確でないと ET-MPS の「*無切断時間を指定*」機能が正確な時間に機能しませんので注意してください。（ET-MPS は設定ツールを起動する度に起動したパソコンの時計を読みとります。）

◆停電や瞬停（瞬間的な停電）になった場合や、ET-MPS の電源を切った場合、必ず設定ツールを起動して設定画面を開いてください。

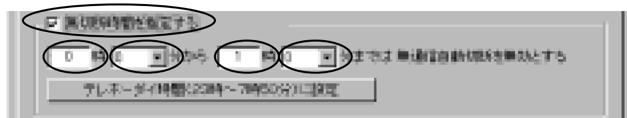
◆ET-MPS の電源が切れると、「*無切断時間を指定する*」機能が無効になります。
電源を切った（切れた）場合は、「*無切断時間を指定する*」機能を再度設定してください。

◆「*無切断時間を指定する*」機能を使用した場合、通信中であっても指定した時間になると回線を切断しますので注意してください。

◆自動接続モードで「*無切断時間を指定する*」機能を使用し、上記のように通信中に回線が切られた場合は再度自動接続を行いますので注意してください。
再接続後は通信が終わり、無通信タイマーで設定した時間が経過するまで、回線は切れません。

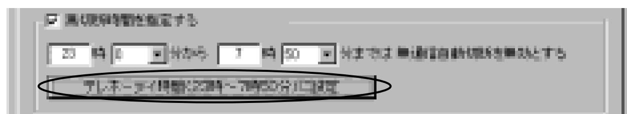
①本機能を使用する場合、「*無切断時間を指定する*」チェックボックスをチェックしてください。

②開始時刻を設定します。開始時刻入力欄の「*時*」に0～23を半角数字で入力してください。
「*分*」の「▼」ボタンをクリックし、10～50を選んでクリックしてください。



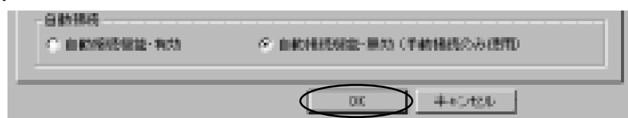
③終了時刻を設定します。②の開始時刻の設定と同じ要領で設定を行ってください。

※テレホーダイサービス時間を設定する場合は
「*テレホーダイ時間（23時～7時50分）に設定*」ボタンをクリックしてください。
開始時刻入力欄と終了時刻入力欄にテレホーダイの開始･終了時刻（サービス終了時刻の10分前）をワンタッチで設定できます。



備考：ISPによってはテレホーダイ時間帯であっても、ISP側からの無通信タイマーにより、回線を切断することがあります

設定が終わりましたら「*OK*」ボタンをクリックして、「第8章　設定の終了」（P173）へ進んでください。

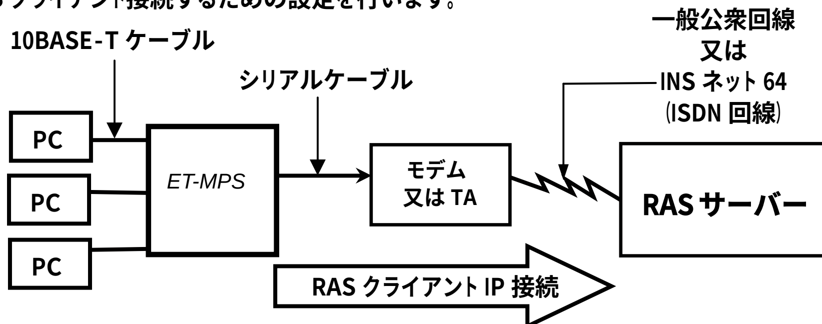


［4.3　自動接続･切断タイマーの設定　　以上］

第5章　RAS接続の設定

5．1　RASクライアントIP接続の設定

本項目では、一般公衆回線及び INS ネット 64（ISDN）回線を利用して、遠隔地の LAN へ RAS クライアント接続するための設定を行います。

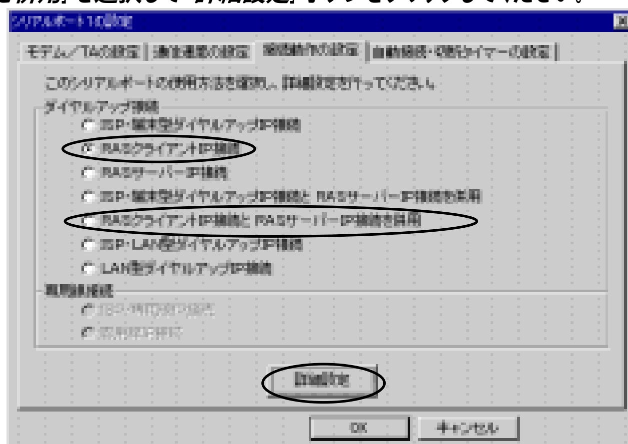


RAS サーバーに接続されている LAN がインターネットに接続されている場合、ET-MPS の RAS クライアントから RAS サーバー経由でインターネットへ接続することが可能です。

5．1．1　接続動作の設定

本項目では、RAS サーバーへ接続するためのユーザー名、パスワード、アクセスポイント（電話番号）等を設定します。

①「*接続動作の設定*」のタブをクリックし、「*RAS クライアント IP 接続*」を選択して、「*詳細設定*」ボタンをクリックしてください。
RAS サーバーも併用する場合には、「*RAS クライアント IP 接続と RAS サーバーIP 接続を併用*」を選択して「*詳細設定*」ボタンをクリックしてください。



＜次ページへ続く＞

確 認	どちらか片方のシリアルポートでのみ、ISP ダイヤルアップ IP 接続又は RAS クライアント IP 接続の設定が可能です。例えばシリアルポート 1 に ISP ダイヤルアップ IP 接続、又は RAS クライアント IP 接続が設定されている場合、シリアルポート 2 は ISP ダイヤルアップ IP 接続及び RAS クライアント IP 接続は設定できません。 シリアルポート 1 とシリアルポート 2 で組み合わせて使用できる機能については、「3.3.7 使用するシリアルポートの選択」（P66）を参照してください。

②「*ユーザー名*」には、接続する RAS サーバーに登録されているユーザー名を入力してください。
「*パスワード*」には、接続する RAS サーバーに登録されているパスワードを半角英数字で入力してください。
「*パスワード再入力*」には「*パスワード*」で入力したものと同じパスワードを半角英数字で入力してください。

備考：「*パスワード*」及び「*再入力*」の入力欄には全て「＊＊＊＊＊」で表示されます。

確 認	ユーザー名やパスワードを入力する際、半角英大文字と半角英小文字を間違えないよう注意してください。
	必ず相手 RAS サーバーのクライアント登録内容と同じ設定にしてください。サーバーとクライアントの設定が一致しないと接続できませんので注意してください。

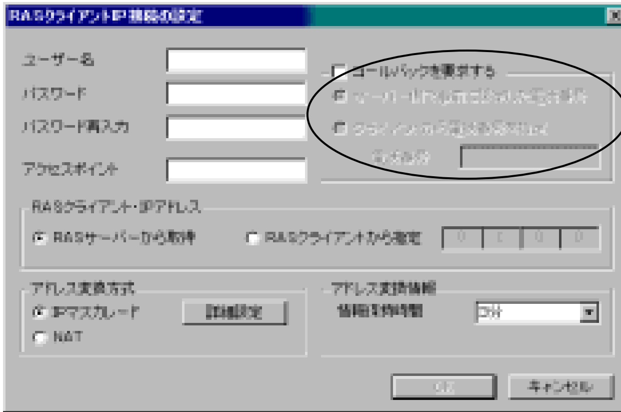
③「*アクセスポイント*」に RAS サーバーの電話番号を半角数字で入力してください。

確 認	アクセスポイントは、正しく入力してください。 間違った電話番号を設定した場合、間違い電話をかけ続けてしまう恐れがありますので注意してください。

「5.1.2 コールバック接続の設定」（次ページ）へ進んでください。

5．1．2　コールバック接続の設定

本項目では、コールバック接続の設定を行います。



●コールバックを要求しない

（設定方法は102ページを参照）

コールバックは使用せずに接続します。

●サーバー側で事前に設定した電話番号へコールバックを要求する

（設定方法は 102 ページを参照）

あらかじめ相手 RAS サーバーに設定した電話番号へコールバック接続されます。

●クライアントから指定した電話番号へコールバックを要求する

（設定方法は102ページを参照）

相手 RAS サーバーへの接続時に、こちら（RAS クライアント）から指定する電話番号へコールバック接続されます。

確 認	相手 RAS サーバーの設定でコールバックが使用できるようにクライアント登録されていない場合、コールバックは使用できません。 必ず相手 RAS サーバーのクライアント登録内容と同じ設定にしてください。 サーバーとクライアントでの設定が一致しないと接続できませんので注意してください。
	相手 RAS サーバーが Windows95 に「PLUS!」をインストールし、ダイヤルアップサーバー機能を RAS サーバーとして使用している場合、コールバックは使用できません。必ずコールバックは使用しないように設定してください。 Windows98 のダイヤルアップサーバー機能についても同様です。

＜次ページへ続く＞

※ET-MPSのクライアント設定と、相手RASサーバーの設定が一致しなかった場合、
ET-MPSは下記表に示す動作を行いますので十分に注意してください。

◆Windows95 ＋ PLUS! / Windows98のRASサーバーの場合

ｻｰﾊﾞｰ設定 ＼ ET-MPS ｸﾗｲｱﾝﾄ設定	コールバックなし
コールバックなし	コールバックなしで接続（設定一致）
事前設定先へコールバック	***接続不可***（切断される）
クライアント指定	***接続不可***（切断される）

◆WindowsNT4.0標準のRASサーバーの場合

NT ｻｰﾊﾞｰ設定 ＼ ET-MPS ｸﾗｲｱﾝﾄ設定	コールバックなし	事前登録先へコールバック	ユーザー指定
コールバックなし	コールバックなしで接続（設定一致）	***接続不可***（切断される）	コールバックなしで接続（設定一致）
事前設定先へコールバック	***接続不可***（切断される）	事前登録先へコールバック接続（設定一致）	***接続不可***（切断される）
クライアント指定	***接続不可***（切断される）	事前登録先へコールバック接続（設定一致）	クライアント指定先へコールバック接続（設定一致）

◆ET-MPSがRASサーバーの場合

ET-MPS ｻｰﾊﾞｰ設定 ＼ ET-MPS ｸﾗｲｱﾝﾄ設定	コールバックなし	事前登録先へコールバック	クライアント指定
コールバックなし	コールバックなしで接続（設定一致）	***接続不可***（切断される）	コールバックなしで接続（設定一致）
事前設定先へコールバック	***接続不可***（切断される）	事前登録先へコールバック接続（設定一致）	***接続不可***（切断される）
クライアント指定	***接続不可***（切断される）	事前登録先へコールバック接続（設定一致）	クライアント指定先へコールバック接続（設定一致）

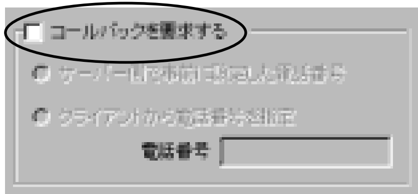
＜次ページへ続く＞

各コールバック接続の設定方法を説明します。下記のうち一つを設定してください。

●「コールバックを要求しない場合」の設定

下記画面と同様に設定してください。

「*コールバックを要求する*」をチェックしないでください。

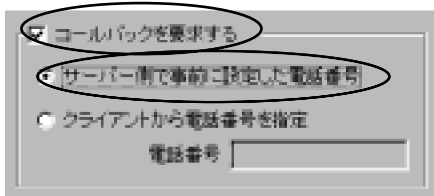


●「サーバー側で事前に設定した電話番号へコールバックを要求する場合」の設定

下記画面と同様に設定してください。

「*コールバックを要求する*」をチェックしてください。

「*サーバー側で事前に設定した電話番号*」を選択してください。



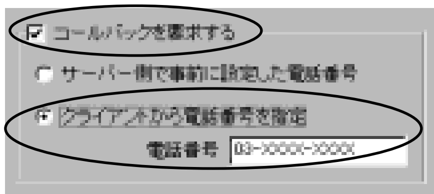
●「クライアントから指定した電話番号へコールバックを要求する場合」の設定

下記画面と同様に設定してください。

「*コールバックを要求する*」をチェックしてください。

「*クライアントから電話番号を指定*」を選択してください。

電話番号入力欄が表示されますので、コールバック先の電話番号（モデム/TA に接続されている電話回線の電話番号）を半角数字で入力してください。



備考：上記画面例に入力されている電話番号は参考例です。

確 認	電話番号は正しく入力してください。 間違った電話番号を設定した場合、間違った電話にコールバックされてしまいますので注意してください。
	必ずサーバー側の設定内容と同じ設定にしてください。サーバーとクライアントの設定が一致しないと接続できませんので注意してください。

「5.1.3　IP アドレス取得/指定の設定」（次ページ）へ進んでください。

5．1．3　IPアドレス取得/指定の設定

本項目では RAS サーバーが接続されている LAN に接続するための IP アドレスを設定します。
「*RAS クライアント・IP アドレス*」欄の設定を、接続する RAS サーバーでのクライアント登録内容に合わせて設定してください。

●RAS サーバーから取得

接続時に、RAS サーバー（接続先の LAN）側から割り当てられた IP アドレスを自動で取得します。下記画面で「RAS *サーバーから取得*」を選択してください。

●RAS クライアントから指定

あらかじめ RAS サーバー（接続先の LAN）から取得している IP アドレスを指定して RAS サーバーに接続します。
下記画面で「RAS *クライアントから指定*」を選択すると IP アドレス入力欄が表示されますので取得している IP アドレスを半角数字で入力してください。

確認	必ず相手 RAS サーバーのクライアント登録内容と同じ設定にしてください。 サーバーとクライアントの設定が一致しないと接続できませんので注意してください。
	相手 RAS サーバーが Windows95 に「PLUS!」をインストールし、ダイヤルアップサーバー機能を RAS サーバーとして使用している場合、IP アドレスを RAS サーバーから取得できません。必ず RAS クライアントから指定するように設定してください。また、RAS サーバーパソコンに下記の設定が必要です。 「ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ」→「ﾈｯﾄﾜｰｸ」→「TCP/IP->ﾀﾞｲﾔﾙｱｯﾌﾟｱﾀﾞﾌﾟﾀ」をのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ」－「IP ｱﾄﾞﾚｽ」の画面において「IP ｱﾄﾞﾚｽを指定」にしてください。 その際、指定する IP アドレスは、ET-MPS の「RAS ｸﾗｲｱﾝﾄからの指定」で指定した IP アドレスと同一ネットワーク内のアドレスを指定してください。 Windows98 のダイヤルアップサーバー機能についても同様です。

備考：画面例に入力されている情報は参考例です。既存のLANに合わせ設定してください。

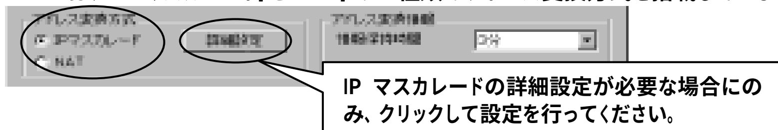
「5.1.4　IP アドレス変換の設定」（次ページ）へ進んでください。

5．1．4 IPアドレス変換の設定

本項目では、IP アドレス変換の設定を行います。

●「アドレス変換方式」の設定

ET-MPS は、「IP マスカレード」と「NAT」の 2 種類のアドレス変換方式を搭載しています。



◆「*IP マスカレード*」（工場出荷値）

→複数台のパソコンで同時に RAS サーバーへ接続する場合に選択してください。

※以下、IP マスカレードについて、RAS サーバー経由でインターネットへ接続することを前提に説明します。

IP マスカレードは最大 256 セッションのやりとりが可能です。
通常、1 台のパソコンでインターネットへ接続する場合、WWW ブラウザやメールソフトウェア等により約 10 セッション程度使用すると考えられます。

すなわち、約 20 台程度のパソコンから同時にインターネットへ接続できると考えられます。

・IP マスカレードの設定を行っても正しく動作しないアプリケーションがある場合は「*NAT*」を選択してください。

・LAN 内にあるパソコンで WWW サーバーや FTP サーバーを運用する場合や、ネットワーク対戦ゲームを行う場合、「*詳細設定*」ボタンをクリックして IP マスカレードの詳細設定を行ってください。
詳しくは「7.4 IP マスカレードの詳細設定」（P154）を参照してください。
（設定を行うためには TCP/IP プロトコルの知識が必要です。）

◆「*NAT*」

→1 台づつ RAS サーバーへ接続する場合に選択してください。

複数台での使用は可能ですが、IP マスカレードのように同時に複数台が RAS サーバーへ接続することはできません。
接続できるのは 1 台づつで、その 1 台が接続を終えるまで他のパソコンは RAS サーバーへ接続することができません。

●「アドレス変換情報」（情報保持時間）の設定

ここで設定した時間内に通信が無かった場合、RAS サーバーへの接続権利を他のユーザー（パソコン）へ譲ります。



IP マスカレード使用時は 256 セッションを越えた場合、NAT 使用時は 1 台が RAS サーバーへ接続している場合、それ以降は新たなユーザー（パソコン）が RAS サーバーへ接続しようとしても接続できません。

無通信状態がここで設定する「*情報保持時間*」を過ぎた場合に接続権利を譲ることにより、新たなユーザー（パソコン）が RAS サーバーへ接続できるようになります。

＜次ページへ続く＞

◆98 ページ①の設定画面で「*RAS クライアント IP 接続*」を選択した場合

→「*OK*」ボタンをクリックして「5.3　自動接続・切断タイマーの設定」（115ページ）へ進んでください。

◆98 ページ①の設定画面で「*RAS クライアント IP 接続と RAS サーバーIP 接続を併用*」を選択した場合

→「*RAS サーバーの設定*」ボタンをクリックして「5.2　RAS サーバーIP 接続の設定」（次ページ）へ進んでください。

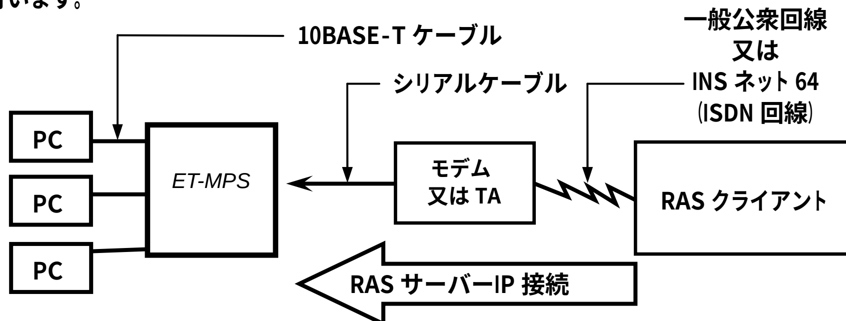


RAS クライアント IP 接続と
RAS サーバーIP 接続を併用する場合
にクリックしてください。

RAS クライアント IP 接続の場合
にクリックしてください。

5．2　RASサーバーIP接続の設定

本項目では、RAS クライアントからの接続要求に対応するための RAS サーバーの設定を行います。



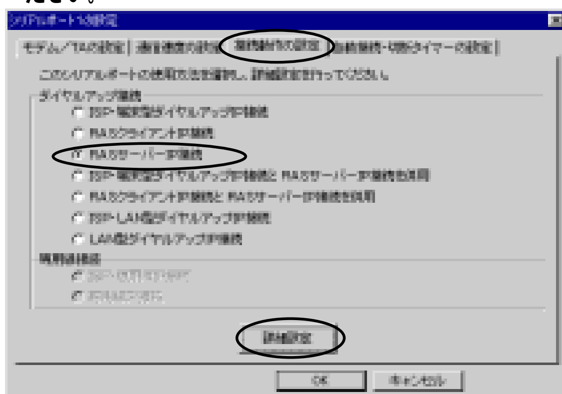
ET-MPS (RAS サーバー) に接続されている LAN がインターネットに接続されている場合、RAS クライアントから ET-MPS (RAS サーバー) 経由でインターネットへ接続することが可能です。

5．2．1　接続動作の設定 (IPアドレスの設定)

本項目では、RAS サーバーの IP アドレスと RAS クライアントに割り当てる IP アドレスの設定を行います。

①「*接続動作の設定*」のタブをクリックし、「*RAS サーバーIP 接続*」を選択して「*詳細設定*」ボタンをクリックしてください。

※「*ISP・端末型ダイヤルアップ IP 接続と RAS サーバーIP 接続を併用*」又は「*RAS クライアント IP 接続と RAS サーバーIP 接続を併用*」を選択した場合で、各設定画面の中の「*RAS サーバーの設定*」ボタンをクリックした場合は次ページ②へ進んでください。



<次ページへ続く>

②「*サーバーIPアドレス*」に、RASサーバー自身のIPアドレスを設定します。
ET-MPSのDHCPサーバー機能を使用する/しないにより設定が異なります。

◆ET-MPSのDHCPサーバー機能を使用する場合

→下記画面の「*IPアドレス割り当てにDHCPを使う*」にチェックを入れてください。
ET-MPSのDHCPサーバー機能により、RASサーバー自身のIPアドレスと同時にRASクライアントのIPアドレスが自動的に設定されるようになります。
「5.2.2　クライアントの登録/コールバック接続の設定」(P109)へ進んでください。



※ET-MPSのDHCPサーバー機能の設定については、「3.3.5　DHCPサーバーの設定」(P58)を参照してください。

◆ET-MPSのDHCPサーバー機能を使用しない場合

→「*LANポートのアドレスを設定*」ボタンをクリックするとET-MPSのLANポートのアドレス(ET-MPS本体のIPアドレス)が自動的に設定されます。(推奨)



「LANポートのアドレスを設定」ボタンをクリックするとET-MPSのLANポートのアドレス(ET-MPS本体のIPアドレス)が自動的に設定されます。

LANポートのアドレスを設定しない場合は下記を参照し「*サーバーIPアドレス*」に、RASサーバー自身のIPアドレスを半角数字で入力してください。

・ET-MPS本体のIPアドレスを工場出荷値で使用する場合
→「192.168.0.2」～「192.168.0.254」の間で、なおかつ「2.6.3　TCP/IPプロトコルの設定」(Windows98/95)(P29)又は「2.7.3　TCP/IPプロトコルの設定」(WindowsNT4.0)(P37)で各パソコンに設定したIPアドレスと重複しないように各IPアドレスを入力してください。(次ページの構成例を参考にしてください。)

・ET-MPS本体のIPアドレスを工場出荷値から変更した場合
→「2.6.3　TCP/IPプロトコルの設定」(Windows98/95)(P29)又は「2.7.3　TCP/IPプロトコルの設定」(WindowsNT4.0)(P37)及び、「3.3.4　ET-MPS本体のLAN設定-IPアドレスの設定」(P55)で設定したIPアドレスと各IPアドレスが重複しないように入力してください。

確認	
	LAN内にET-MPS以外のDHCPサーバーが存在する場合でも、RASサーバーのIPアドレスの設定が必要です。RASサーバーのIPアドレスはDHCPサーバーから自動で取得しませんので、必ず設定してください。RASサーバーに設定したIPアドレスを、DHCPサーバーがLAN内の他の機器に割り振らないようにDHCPサーバーの設定を行ってください。(詳しくはネットワーク管理者へご相談ください。)
	シリアルポートの両方をRASサーバーとして使用する場合で、RASサーバー自身のIPアドレスにLANポートのアドレスを設定しない場合、それぞれのシリアルポート(「*サーバーIPアドレス*」)に別々のIPアドレスを割り振ってください。 なお、LANポートのアドレスを設定する場合はシリアルポート1･2共にLANポートのアドレスを共用できます。

<次ページへ続く>

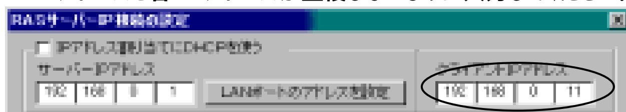
③ET-MPS の DHCP サーバー機能を使用しない場合、「*クライアント IP アドレス*」に RAS クライアントが LAN に接続するために割り当てる IP アドレスを半角数字で入力してください。

◆ET-MPS 本体の IP アドレスを工場出荷値で使用する場合

→「192.168.0.2」～「192.168.0.254」の間で、なおかつ「2.6.3　TCP/IP プロトコルの設定」（Windows98/95）（P29）又は「2.7.3　TCP/IP プロトコルの設定」（WindowsNT4.0）（P37）で各パソコンに設定した IP アドレスと重複しないように各 IP アドレスを入力してください。（下記の構成例を参考にしてください。）

◆ET-MPS 本体の IP アドレスを工場出荷値から変更した場合

→「2.6.3　TCP/IP プロトコルの設定」（Windows98/95）（P29）又は「2.7.3　TCP/IP プロトコルの設定」（Windows NT4.0）（P37）及び、「3.3.4　ET-MPS 本体の LAN 設定-IP アドレスの設定」（P55）で設定した IP アドレスと各 IP アドレスが重複しないように入力してください。



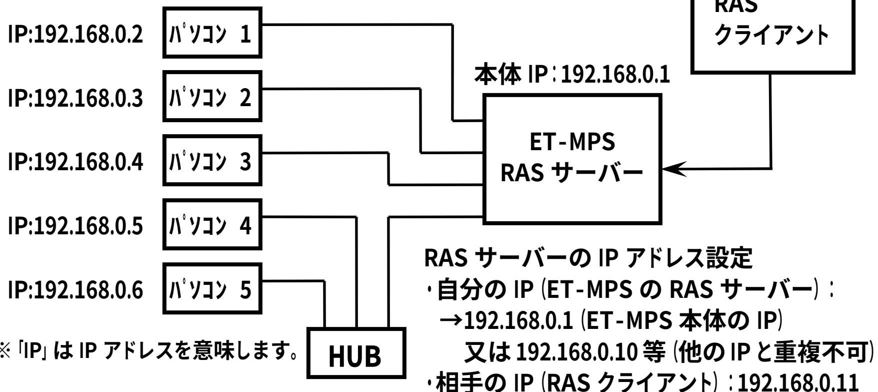
確 認	LAN 内に ET-MPS 以外の DHCP サーバーが存在する場合でも、RAS サーバーの IP アドレスの設定が必要です。RAS サーバーの IP アドレスは他の DHCP サーバーから自動で取得しませんので、必ず設定してください。RAS サーバーに設定した IP アドレスを、DHCP サーバーが LAN 内の他の機器に割り振らないように DHCP サーバーの設定を行ってください。（詳しくはネットワーク管理者へご相談ください。）
	RAS クライアントが接続するために必要な IP アドレスは RAS サーバーが割り当てます。RAS クライアント側の IP アドレス設定は、必ず RAS サーバーから取得するように設定してください。サーバーとクライアントの設定が一致しないと接続できませんので注意してください。

「5.2.2　クライアントの登録/コールバック接続の設定」（次ページ）へ進んでください。

●構成例

※ET-MPS の DHCP サーバー機能を使用しない場合の例です。

RAS サーバーから取得した IP:192.168.0.11



5．2．2　クライアントの登録/コールバック接続の設定

本項目では、RAS クライアントの登録とコールバック接続の設定を行います。

①「*ユーザー名*」には、登録したいユーザーのユーザー名を入力してください。
「*パスワード*」には、登録したいユーザーのパスワードを半角英数字で入力してください。
「*パスワード再入力*」には、「*パスワード*」で入力したものと同じパスワードを半角英数字で入力してください。

備考：「*パスワード*」及び「*再入力*」の入力欄には全て「＊＊＊＊＊」で表示されます。

確認	ユーザー名やパスワードを入力する際、半角英大文字と半角英小文字を間違えないよう注意してください。

②登録する RAS クライアントにコールバックを許可するか否かを設定します。

●コールバックを許可しない

（設定方法は 112 ページを参照）
コールバックは使用せずに接続されます。

●クライアントから指定された電話番号へコールバックする

（設定方法は 112 ページを参照）
接続時に、RAS クライアントが指定した電話番号へコールバック接続します。

●事前に登録した電話番号へコールバックする

（設定方法は 112 ページを参照）
クライアントがどの電話番号からかけて来ても、あらかじめ登録した電話番号へコールバック接続します。

＜次ページへ続く＞

※ET-MPS の RAS サーバー設定と、相手 RAS クライアントの設定が一致しなかった場合、ET-MPS は下記表に示す動作をしますので十分に注意してください。
なお、下記及び次ページ表の「Win98/95」は Windows98/95、「NT4.0」は WindowsNT4.0 を意味します。

◆Windows95/Windows98標準のダイヤルアップ接続の場合

ET-MPS ｻｰﾊﾞｰ設定 ＼ Win98/95 ｸﾗｲｱﾝﾄ動作・操作	コールバックしない	事前登録	クライアント指定
コールバックポップアップ画面で「*OK*」		事前登録先へコールバック接続（設定一致）	クライアント指定先へコールバック接続（設定一致）
コールバックポップアップ画面で「*キャンセル*」		***接続不可***（切断される）	コールバックなしで接続（設定一致）
ポップアップ画面なし	コールバックなしで接続（設定一致）		

◆WindowsNT4.0標準のダイヤルアップ接続の場合

ET-MPS ｻｰﾊﾞｰ設定 ＼ NT4.0 ｸﾗｲｱﾝﾄ設定・操作	コールバックしない	事前登録	クライアント指定
LCP拡張なし（ｺｰﾙﾊﾞｯｸなし）	コールバックなしで接続（設定一致）	***接続不可***（切断される）	コールバックなしで接続（設定一致）
LCP拡張あり（ｺｰﾙﾊﾞｯｸあり）	コールバックなしで接続	事前登録先へコールバック接続（設定一致）	
LCP拡張あり ↓ ﾎﾟｯﾌﾟｱｯﾌﾟ画面で「*キャンセル*」			コールバックなしで接続（設定一致）
LCP拡張あり ↓ ﾎﾟｯﾌﾟｱｯﾌﾟ画面でｺｰﾙﾊﾞｯｸ先指定			クライアント指定先へコールバック接続（設定一致）

＜次ページへ続く＞

◆ET-MPSがRASクライアントの場合

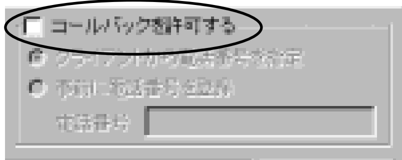
ET-MPS サーバー設定 / ET-MPS クライアント設定	コールバックしない	事前登録	クライアント指定
コールバックなし	コールバックなしで接続（設定一致）	***接続不可***（切断される）	コールバックなしで接続
事前設定先へコールバック	***接続不可***（切断される）	事前登録先へコールバック接続（設定一致）	***接続不可***（切断される）
クライアント指定	***接続不可***（切断される）	事前登録先へコールバック接続（設定一致）	クライアント指定先へコールバック接続（設定一致）

＜次ページへ続く＞

各コールバック接続の設定方法を説明します。下記のうち一つを設定してください。

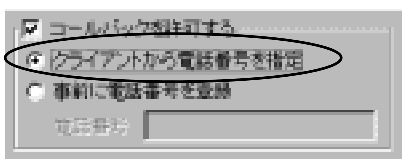
●「コールバックを許可しない場合」の設定

下記画面と同様に設定してください。
「*コールバックを許可する*」をチェックしないでください。



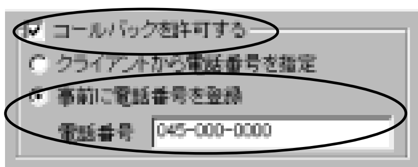
●「クライアントから指定された電話番号へコールバックする場合」の設定

下記画面と同様に設定してください。
「*コールバックを許可する*」をチェックしてください。
「*クライアントから電話番号を指定*」を選択してください。



●「事前に登録した電話番号へコールバックする場合」の設定

下記画面と同様に設定してください。
「*コールバックを許可する*」をチェックしてください。
「事前に電話番号を登録」を選択してください。
電話番号入力欄が表示されますので、コールバックをする電話番号（RASクライアントの電話番号）を半角文字で入力してください。



備考：上記画面例に入力されている電話番号は参考例です。

確 認	電話番号は、正しく入力してください。 間違った電話番号を設定した場合、間違った電話にコールバックされてしまいますので注意してください。
	必ずクライアント側の設定内容と同じ設定にしてください。 サーバーとクライアントの設定が一致しないと、接続できませんので注意してください。

＜次ページへ続く＞

③コールバックの設定が終わりましたら「*追加*」ボタンをクリックしてください。
設定内容が登録リストに登録されます。

ユーザー名は最大 8 人まで登録できます。

備考：RAS クライアント登録内容の変更/削除を行う場合は次ページを参照してください。

④RASクライアントの登録が終わりましたら、「*リング回数*」入力欄にET-MPSが着信する際の呼び出し音の回数を、1～99の半角数字で入力してください。
（工場出荷値は「2」に設定してあります。）
登録が終わりましたら、「*OK*」ボタンをクリックしてください。

備考：モデムの電話機用ポートに電話機を接続してお使いになる場合は、「*リング回数*」を15 回以上に設定することをお奨めします。
留守番電話を接続する場合は、留守番電話機能が作動する呼び出し回数よりも多い回数を設定してください。

「5.3　自動接続･切断タイマーの設定」（P115）へ進んでください。

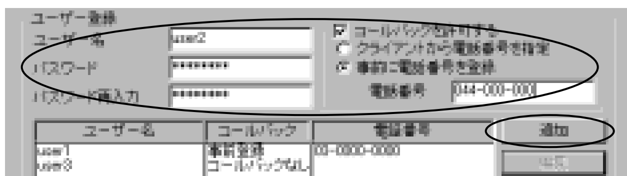
＜次ページへ続く＞

●RASクライアント登録情報の編集

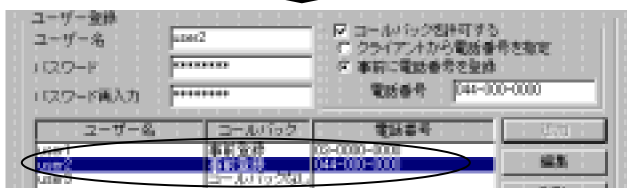
①編集したい RAS クライアントの情報を選択して「編集」ボタンをクリックしてください。



②選択した RAS クライアントの情報が「*ユーザー登録*」欄に表示されますので、変更後に「*追加*」ボタンをクリックしてください。登録リストに変更後の情報が登録されます。

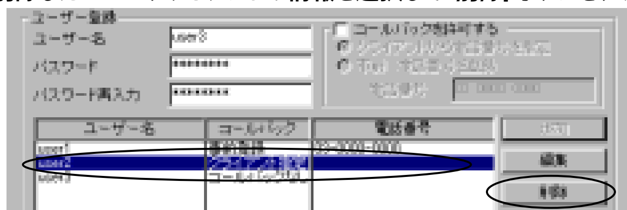






●RASクライアント登録情報の削除

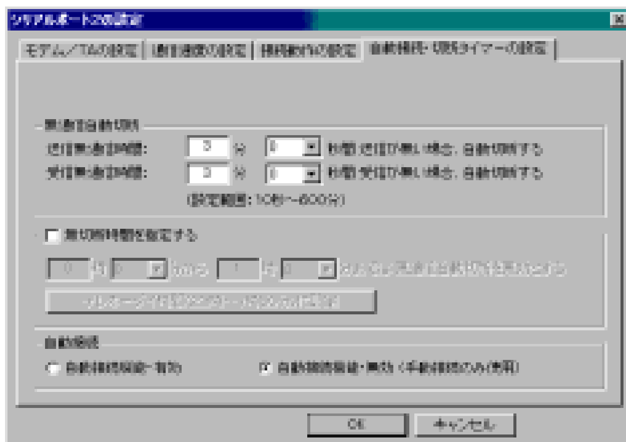
削除したいRASクライアントの情報を選択して「*削除*」ボタンをクリックしてください。



[5.2　RASサーバーIP接続の設定　　以上]

5．3　自動接続･切断タイマーの設定

設定方法は「ISP･端末型ダイヤルアップ IP 接続の設定」と同様です。
「4.3　自動接続･切断タイマーの設定」（P94）を参照してください。



「自動接続･切断タイマーの設定」が終わりましたら、「第 8 章　設定の終了」（P173）へ進んでください。

●WindowsNT の認証設定について（注意）

◆ET-MPS を RAS クライアントとして使用し、WindowsNT の RAS サーバーへ接続する場合、WindowsNT 側の認証設定において注意が必要です。
「5.4.1　サーバー側の設定」（次ページ）を参照してください。

◆WindowsNT の RAS クライアントから ET-MPS の RAS サーバーへ接続する場合、WindowsNT 側（ダイヤルアップネットワーク）の認証設定において注意が必要です。
「5.4.2　クライアント側の設定」（P118）を参照してください。

5．4　WindowsNTの認証設定

ET-MPS を RAS クライアントとして使用し、WindowsNT の RAS サーバーへ接続する場合又は、WindowsNT の RAS クライアントから ET-MPS の RAS サーバーへ接続する場合、WindowsNT 側の認証設定を必ず「*クリアテキストを含む任意の認証…*」に設定しなければなりません。

以降、WindowsNT4.0 を例に設定・確認方法について説明します。

◆WindowsNT4.0 RAS サーバーの設定
→次項「5.4.1　サーバー側の設定」を参照してください。

◆WindowsNT4.0 RAS クライアント（ダイヤルアップネットワーク）の設定
→「5.4.2　クライアント側の設定」（P118）を参照してください。

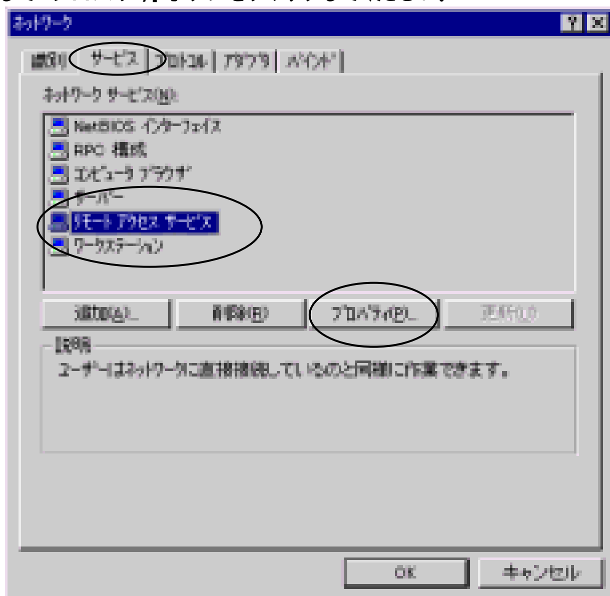
WindowsNT4.0 に RAS（リモートアクセスサービス/ダイヤルアップネットワーク）を新たにインストールする場合は WindowsNT4.0 のマニュアルやヘルプを参照してください。

5．4．1　サーバー側の設定

①「*スタート*」→「*設定*」→「*コントロールパネル*」の順番にクリックしてください。

②「*ネットワーク*」のアイコンをダブルクリックしてください。

③「*ネットワーク*」画面で「*サービス*」のタブをクリックし、「*リモートアクセスサービス*」を選択して「*プロパティ*」ボタンをクリックしてください。

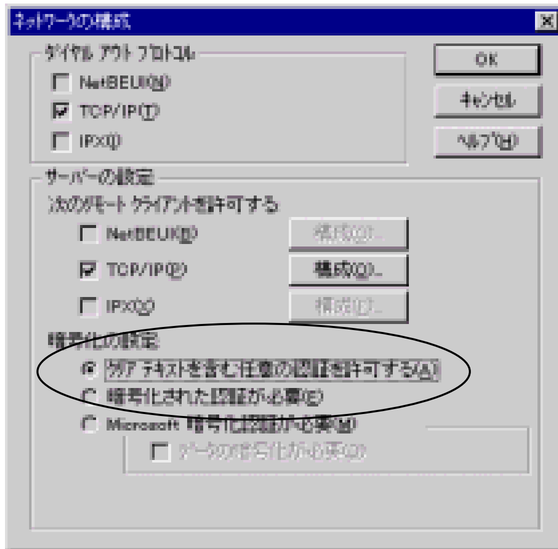


＜次ページへ続く＞

④「*リモートアクセスセットアップ*」画面で「*ネットワーク*」ボタンをクリックしてください。



⑤「*ネットワークの構成*」画面の「*サーバー設定*」欄にある「*暗号化の設定*」で「*クリアテキストを含む任意の認証を許可する*」が選択されているか確認してください。選択されていない場合は必ず選択した後、「*OK*」ボタンをクリックしてください。



⑥「*リモートアクセスセットアップ*」画面（④の画面）に戻りますので、「*続行*」ボタンをクリックしてください。

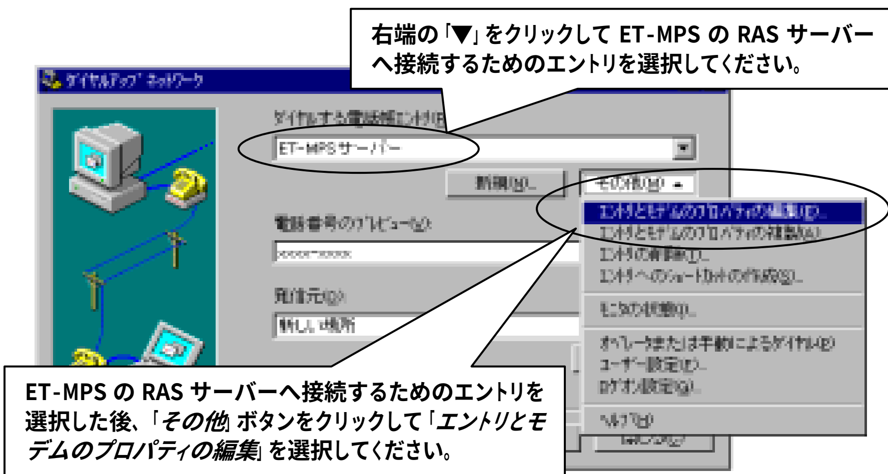
⑦「*ネットワーク*」画面（前ページ③の画面）に戻りますので、「*OK*」ボタンをクリックしてください。

⑧WindowsNT4.0の指示に従い、WindowsNT4.0を再起動させてください。

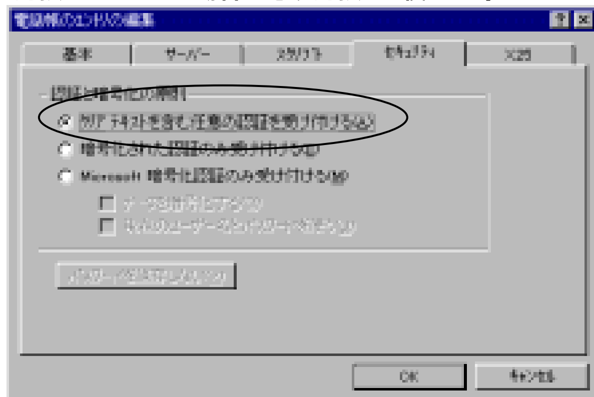
5．4．2　クライアント側の設定

①「*マイコンピュータ*」→「*ダイヤルアップネットワーク*」の順番にダブルクリックしてください。

②「*ダイヤルアップネットワーク*」画面で「*ダイヤルする電話帳エントリ*」欄の右端「▼」ボタンをクリックし、ET-MPSのRASサーバーへ接続するためのエントリを選択してください。
選択ができましたら「*その他*」ボタンをクリックして「*エントリとモデムのプロパティの編集*」を選択してください。



③「*電話帳のエントリの編集*」画面で「*セキュリティ*」のタブをクリックしてください。
「*認証と暗号化の原則*」欄で「*クリアテキストを含む任意の認証を受け付ける*」が選択されているか確認してください。
選択されていない場合は必ず選択した後、「*OK*」ボタンをクリックしてください。

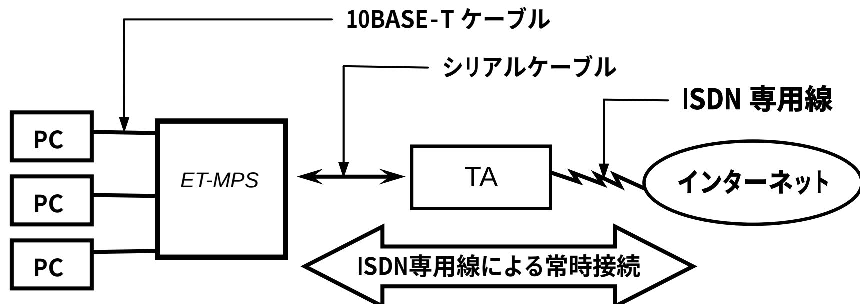


第6章　専用線接続の設定

確　認	ISP（インターネットプロバイダ）へ接続する場合、あらかじめ加入されている ISP（インターネットプロバイダ）から提供されている資料をお手元にご用意ください。

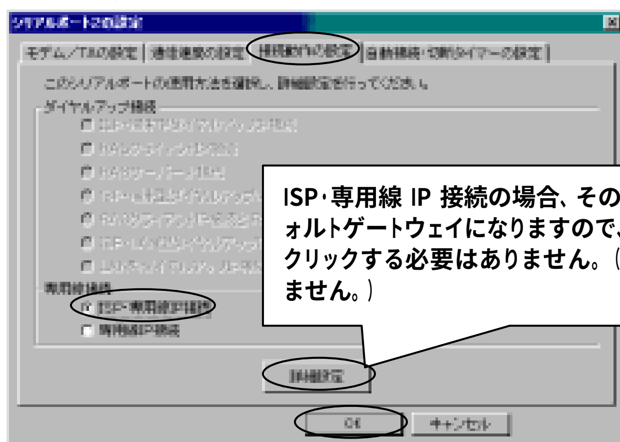
6．1　ISP･専用線IP接続の設定

本項目では、ISP 専用線接続の設定について説明します。



確 認	使用する TA によっては専用線接続ができない場合があります。 必ず専用線接続に対応している TA を使用してください。
	ISP･専用線 IP 接続に設定したシリアルポートはデフォルトゲートウェイになります。
	ET-MPS は ISP･専用線 IP 接続時には IP アドレスの変換を行いません。 専用線接続契約時に ISP 等から割り当てられたグローバル IP アドレスを使用してください。

「*接続動作の設定*」のタブをクリックし、「*ISP･専用線 IP 接続*」を選択して「*OK*」ボタンをクリックしてください。



ISP･専用線 IP 接続の場合、そのシリアルポートがデフォルトゲートウェイになりますので、「*詳細設定*」ボタンをクリックする必要はありません。（他の設定項目はありません。）

備考：「3.3.8　シリアルポートに接続するモデム/TA　の設定」（P69）で「*回線の種類*」を「*ISDN：専用線*」にすると上記画面になります。

次ページに設定例がありますので、必要に応じて参照してください。

＜次ページへ続く＞

●参考 ～ET-MPS 本体とパソコンのネットワーク設定例～

■ISP から与えられた IP アドレス　：111.111.111.128
■ISP から与えられたサブネットマスク　：255.255.255.248
■ISP から与えられた DNS サーバーの IP アドレス　：222.222.222.222
→この場合、以下のように設定します。

◆ET-MPS 本体の設定（IP アドレスとサブネットマスク、DHCP サーバー機能）

1. ET-MPS の IP アドレスとサブネットマスクを工場出荷値（IP アドレス：192.168.0.1、サブネットマスク：255.255.255.0）から下記の値へ変更してください。
   - ・ET-MPS 本体の IP アドレス　：111.111.111.129
   - ・ET-MPS 本体のサブネットマスク　：255.255.255.248

   変更方法については「3.3.4　ET-MPS 本体の LAN の設定-IP アドレスの設定」（P55）を参照してください。

2. ET-MPS の DHCP サーバー機能の設定を行ってください。

   <ET-MPS の DHCP サーバー機能を使用する場合>
   DHCP サーバーの設定画面で下記を設定してください。
   - ・「DHCP サーバー機能を使用する」をチェックする。
   - ・先頭 IP アドレス　：111.111.111.130　・サブネットマスク　：255.255.255.248
   - ・付与アドレス数　：5
   - ・ゲートウェイ　：111.111.111.129（ET-MPS 本体の IP アドレス）
   - ・プライマリ DNS　：222.222.222.222　・セカンダリ DNS　：空欄
   - ・ドメイン　：空欄　・リース期限　：24 時間　（変更なし）

   <ET-MPS の DHCP サーバー機能を使用しない場合>
   - ・「DHCP サーバー機能を使用する」をチェックしない。

◆ET-MPS に接続されているパソコンの設定
（IP アドレス/サブネットマスク/DNS サーバーの IP アドレス/ゲートウェイ）

<ET-MPS の DHCP サーバー機能を使用する場合>
各パソコンの TCP/IP 設定を「IP アドレスを自動的に取得」に設定してください。

<ET-MPS の DHCP サーバー機能を使用しない場合>
ET-MPS に接続されているパソコンに下記の値を設定してください。
- ・IP アドレス　：111.111.111.130～111.111.111.134（各パソコン間で重複しないこと）
- ・サブネットマスク　：255.255.255.248
- ・（デフォルト）ゲートウェイ　：111.111.111.129（ET-MPS 本体の IP アドレス）
- ・DNS サーバー　：222.222.222.222

各パソコンの設定については下記を参照してください。
- ・Windows98/95 の場合
  →「2.6　LAN へ接続するパソコンの設定-Windows98/95」（P25）
- ・WindowsNT4.0 の場合
  →「2.7　LAN へ接続するパソコンの設定-WindowsNT4.0」（P35）

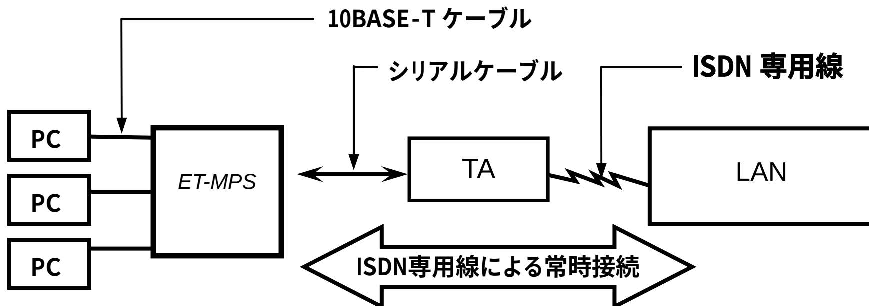
備考：111.111.111.128 はネットワークアドレス※1 として、111.111.111.135 はブロードキャストアドレス※2 として使用されるため、ET-MPS 及び ET-MPS に接続されているパソコンに割り当てることはできません。
※1：そのネットワーク全体を示すアドレスです。
※2：ネットワーク同報アドレスで、このアドレス宛のデータはそのネットワーク内全てに送られます。

「第 8 章　設定の終了」（P173）へ進んでください。

［6.1　ISP・専用線 IP 接続の設定　以上］

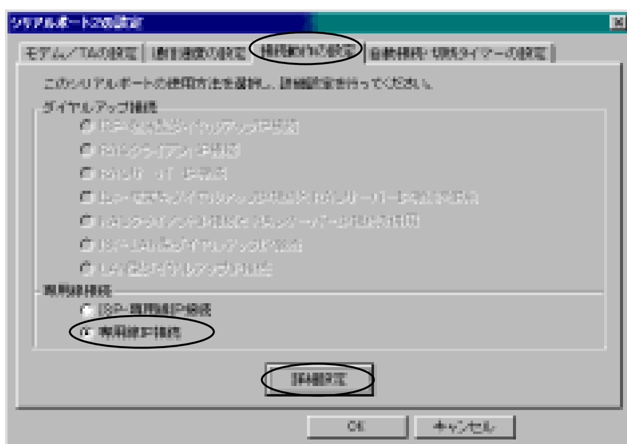
6．2　専用線IP接続の設定

本項目では、任意の場所から任意の場所（事業所間等）へ専用線接続するための設定を行います。



確 認	使用する TA によっては専用線接続ができない場合があります。 必ず専用線接続に対応している TA を使用してください。
	ET-MPS は専用線 IP 接続時には IP アドレスの変換を行いません。 専用線接続契約時に ISP 等から割り当てられたグローバル IP アドレスを使用してください。

「*接続動作の設定*」のタブをクリックし、「*専用線 IP 接続*」を選択して「詳細設定」ボタンをクリックしてください。



備考：「3.3.8　シリアルポートに接続するモデム/TA　の設定」（P69）で「*回線の種類*」を「*ISDN：専用線*」にすると上記画面になります。

<次ページへ続く>

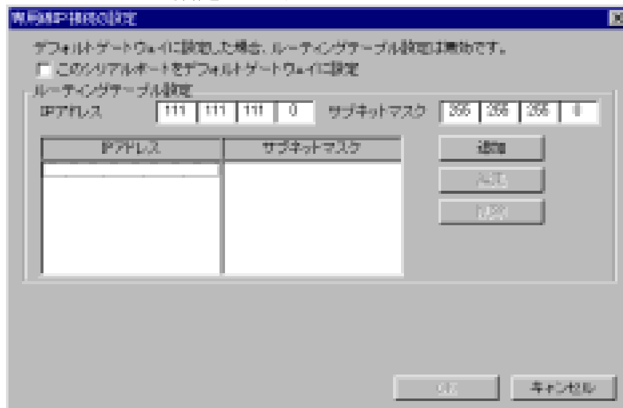
そのシリアルポートをデフォルトゲートウェイとするか、ルーティングテーブルを設定するか選択できます。

◆デフォルトゲートウェイに設定する場合

→ET-MPS が接続されている LAN 内に存在する IP アドレス宛以外のパケットは、全てシリアルポート宛に送られます。
設定方法については「6.2.1　デフォルトゲートウェイの設定」（次ページ）を参照してください。

◆ルーティングテーブルを設定する場合

→ET-MPS　へ送られたパケットを、シリアルポート経由で相手先へ送るためのネットワークアドレスを設定します。



設定方法については「6.2.2　ルーティングテーブルの設定」（P125）を参照してください。

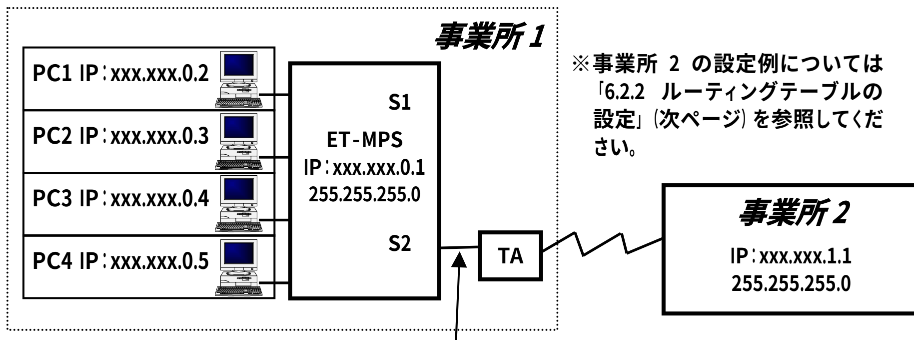
＜次ページへ続く＞

6．2．1　デフォルトゲートウェイの設定

本項目では、デフォルトゲートウェイの設定を行い、その際の構成例と動作について説明します。

●構成例

※「IP」は IP アドレスを意味します。
※「IP」の下の数値はサブネットマスクを意味します。



◆シリアルポート 2 を専用線 IP 接続に設定
◆シリアルポート 2 をデフォルトゲートウェイに設定

上記構成例の場合、IPアドレス「xxx.xxx.0.2～xxx.xxx.0.5」宛以外のパケットは、全てシリアルポート2（S2）を通して事業所2宛に送られます。（ET-MPSが接続されているLAN内に存在するIPアドレス宛以外のパケットは、全てシリアルポート2（S2）宛に送られます。）

例えば、PC1からIPアドレス「xxx.xxx.0.5」宛のパケットはそのままPC4に送られますが、IPアドレス「xxx.xxx.1.5」宛のパケットはシリアルポート2（S2）を通して事業所2へ送られます。（IPアドレス「xxx.xxx.1.xxx」宛のパケットは事業所2のルーターへ送られます。）

●設定方法

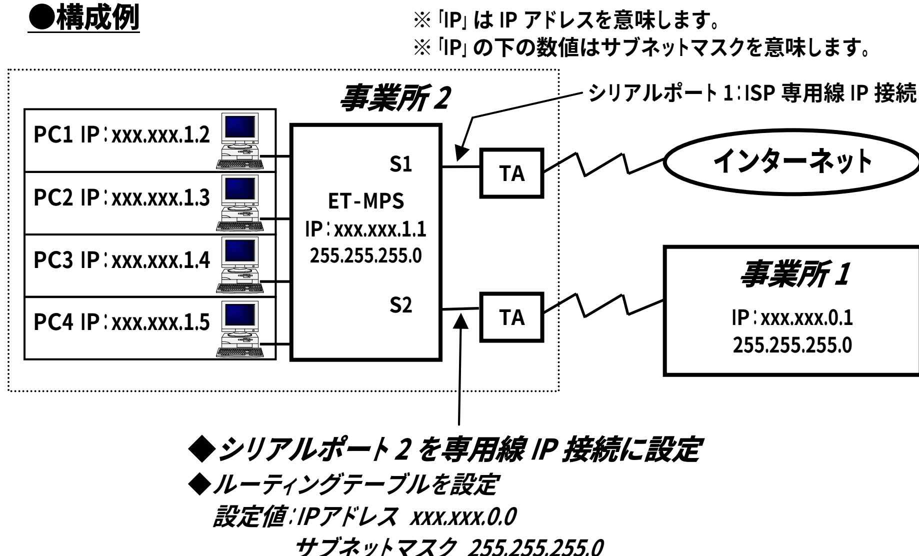
「*このシリアルポートをデフォルトゲートウェイに設定*」をチェックして「*OK*」ボタンをクリックしてください。



「第 8 章 設定の終了」（P173）へ進んでください。

6．2．2　ルーティングテーブルの設定

●構成例



本項目では、ルーティングテーブルの設定を行い、その際の構成例と動作について説明します。

上記構成例の場合、下記のようにパケットが送られます。

<<事業所2>>

◆ET-MPSが接続されているLAN内に存在するIPアドレス宛のパケット
→そのままLAN内へ送られます。
例えばPC1からIPアドレス「xxx.xxx.1.5」宛のパケットはそのままPC4へ送られます。

◆IPアドレス「xxx.xxx.0.xxx」宛のパケット
→シリアルポート2（S2）を通して事業所1へ送られます。
（事業所1のルーターへ送られます。）
例えば、IPアドレス「xxx.xxx.0.5」宛のパケットは事業所1へ送られます。

◆上記以外の宛先へのパケット
→シリアルポート1（S1）からインターネットへ送られます。

<<事業所1>>

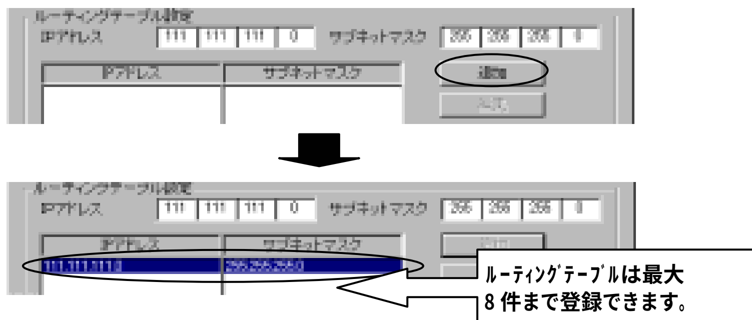
事業所1のパケットの送られ方と設定例については「6.2.1　デフォルトゲートウェイの設定」（前ページ）を参照してください。

＜次ページへ続く＞

●ルーティングテーブルの登録

①「*ルーティングテーブル設定*」の中の「*IPアドレス*」と「*サブネットマスク*」にそれぞれ登録するIPアドレス※とサブネットマスクを入力してください。
※ ここでいうIPアドレスとは、ネットワークアドレスを意味します。

②「*追加*」ボタンをクリックしてください。
登録リストに入力したルーティングテーブルが登録されます。



備考：上記画面例に入力されている情報は参考例です。既存のLANに合わせて設定してください。

③登録が終わりましたら「*OK*」ボタンをクリックしてください。

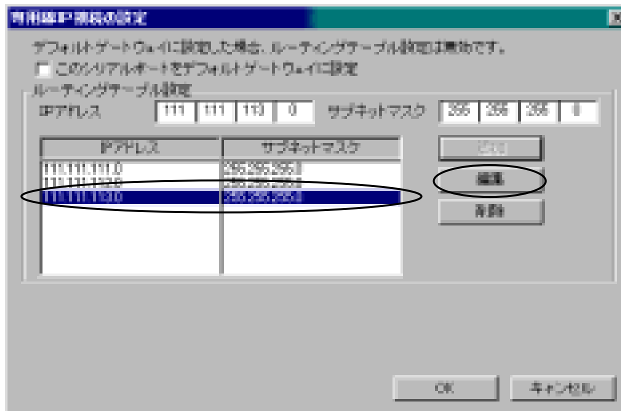


ルーティングテーブルの編集/削除を行う場合は次ページを参照してください。

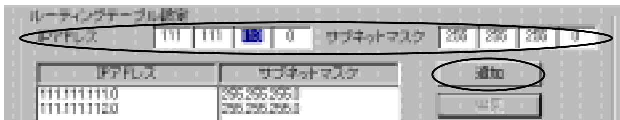
「第 8 章 設定の終了」（P173）へ進んでください。

●ルーティングテーブルの編集

①編集したいルーティングテーブルを選択して「*編集*」ボタンをクリックしてください。



②選択したルーティングテーブルが入力欄に表示されますので、変更後に「*追加*」ボタンをクリックしてください。登録リストに変更後のルーティングテーブルが登録されます。

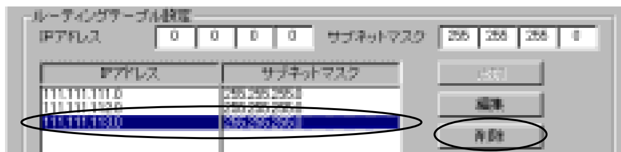






●ルーティングテーブルの削除

削除したいルーティングテーブルを選択して「*削除*」ボタンをクリックしてください。



＜ＭＥＭＯ＞

第7章　高度な設定

確 認	本章で説明している機能の設定は必要に応じて行ってください。 （必ずしも行う必要はありません。） また、本章の設定を行うためには TCP/IP プロトコルの知識が必要です。

７．１　ファイアウォール（IPフィルタ）の設定

本項目ではファイアウォール（IP フィルタ）の設定を行います。

確 認	ファイアウォール設定を行うには、TCP/IP プロトコルの知識が必要です。誤った設定をしますと、ET-MPS が正常に動作しない原因となりますので注意してください。

ファイアウォール機能は、パケットフィルタリングゲートウェイ方式で行います。
LAN側 IPフレームとWAN側（シリアルポート側）IPフレーム間のIPフィルタリングにより、LAN内部のコンピュータ資源を保護します。

●レイヤー3フィルタリング制御

対応プロトコルは、IPフレームのみをフィルタリング制御の対象とします。
その他のレイヤー3プロトコル（IPX等）は、全て遮断します。

●レイヤー4フィルタリング制御

対応プロトコルは、ICMP、TCP、ＵＤＰをフィルタリング制御の対象とします。
その他のレイヤー4プロトコル（EGP、OSPF等）は、全て透過します。

●レイヤー5フィルタリング制御

・ICMP制御　：　制御なし
・TCP制御　：　ポート番号とフラグの監視をします。
・UDP制御　：　ポート番号の監視をします。

●ファイアウォール設定画面の起動

①設定を行う ET-MPS を選択して「*動作設定*」ボタンをクリックしてください。
②「*LAN ポート設定*」の中の「*動作設定*」ボタンをクリックしてください。
③「*高度な設定*」の中の「*ファイアウォール*」ボタンをクリックしてください。

LANポートの設定
IPアドレスの設定
IPアドレス　192　168　0　1
サブネットマスク　255　255　255　0
既存のネットワークに、このET-MPSを追加設置する場合は、工場出荷値のIPアドレス(192.168.0.1)とサブネットマスク(255.255.255.0)を、使用環境に合わせて、変更してお使いください。
高度な設定
パスワード　ファイアウォール
DHCPサーバー　スタティックルーティング
電子メール共有　SYSLOG
OK　キャンセル

備考：左記画面例に入力されている情報は参考例です。
既存のLANに合わせて設定してください。

＜次ページへ続く＞

●工場出荷値について

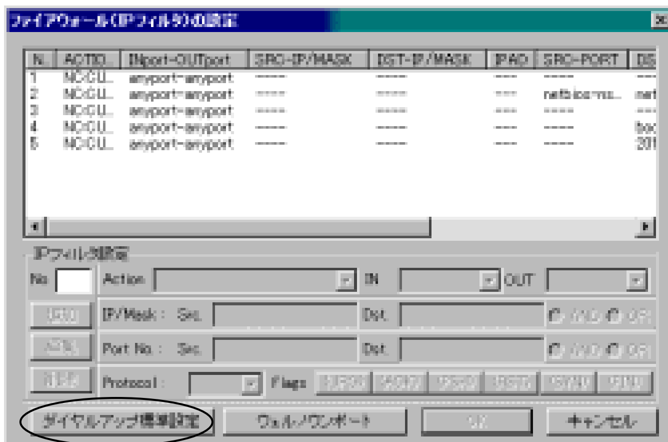
ET-MPSには、あらかじめ工場出荷値が設定されております。
工場出荷値では、下記制御を行っております。

- ･ICMPによる回線の自動接続の禁止
- ･LANポートから他のネットワーク宛への、NetBIOS Name Serviceを遮断
  (Windowsの起動や終了等による、回線の自動接続の禁止等)
- ･TCPの接続 (SYN) フラグ以外での回線の自動接続の禁止
  (アプリケーションの終了等による、回線の自動接続の禁止等)
- ･BOOTP、TFTPによる回線の自動接続の禁止
- ･AppleTalkによる回線の自動接続の禁止等

※上記5項目共に、同一LAN内での利用は可能です。

工場出荷値を変更又は削除すると、上記制御が無効になります。
意図しないときにダイヤルアップ接続が行われたり、逆にダイヤルアップ接続ができなかったりと、誤動作する可能性がありますので十分に注意してください。
工場出荷値に制御を追加して使用することを推奨します。

ファイアウォールの設定を工場出荷値に戻す場合は、「*ダイヤルアップ標準設定*」ボタンをクリックしてください。



◆フィルタ設定の登録を行う場合
→「フィルタ設定の登録」(次ページ) へ進んでください。

◆フィルタ設定の編集を行う場合
→「フィルタ設定の編集」(P137) へ進んでください。

◆フィルタ設定の削除を行う場合
→「フィルタ設定の削除」(P138) へ進んでください。

＜次ページへ続く＞

●フィルタ設定の登録

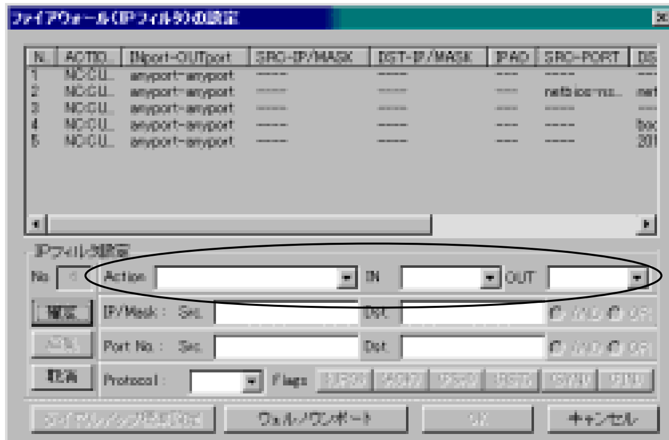
①「*No*」に、エントリー番号を入力してください。
エントリー番号は優先順位の高い制御から順に「1」から入力してください。
ET-MPSには、あらかじめ工場出荷値が設定されています。
工場出荷値の後に設定する場合は「6」を入力、工場出荷値よりも優先させる場合は「1」を入力、工場出荷値の間に登録する場合は優先順位に応じて「2」～「5」を入力してください。（最大エントリー数は64エントリーまでです。）

②「*追加*」ボタンをクリックしてください。

＜次ページへ続く＞

③各設定項目入力欄が表示されます。
（登録作業を中止したい場合は、「*取消*」ボタンをクリックしてください。）

④以降、各設定項目について説明します。



■「*Action*」

フィルタリング動作を指定します。「▼」をクリックし、候補の中から選択してください。

◆PASS　　：各設定に従い、指定したIPフレームを透過します。
◆CUT　　：各設定に従い、指定したIPフレームを遮断します。
◆NC:CUT　：回線未接続時のみ遮断します。回線接続時は透過します。
◆MON　　：指定したIPフレームの通過回数をモニター（カウント）します。
　　　　　　カウント数は上記画面内で確認できます。

■「*IN*」及び「*OUT*」

「*IN*」はET-MPSの入力ポートを、「*OUT*」はET-MPSの出力ポートを設定し、ET-MPSを経由する対象IPフレームを指定します。
「*IN*」と「*OUT*」は両方を必ず設定してください。「▼」をクリックし、候補の中から選択してください。

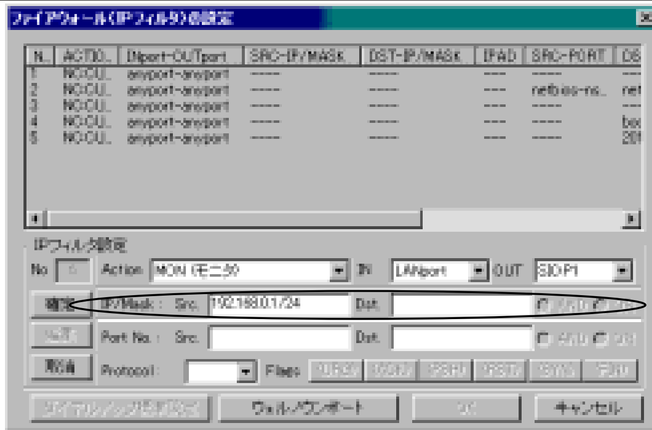
◆anyport　：ET-MPSのシリアルポート1、シリアルポート2、LANポートです。
◆SIO:P1　：ET-MPSのシリアルポート1です。
◆SIO:P2　：ET-MPSのシリアルポート2です。
◆SIO:any　：ET-MPSのシリアルポート1及びシリアルポート2です。
◆LANport　：ET-MPSのLANポートです。

※「*LANport*」から「*LANport*」へ設定した場合の出力側の「*LANport*」は、同一ネットワーク以外が対象になります。

<<参考例>>

・「*IN*」＝「*SIO:P1*」、「*OUT*」＝「*LANport*」の場合：
　→シリアルポート1からLAN側へのIPフレームを対象とする。

＜次ページへ続く＞



備考：上記画面例に入力されている情報は参考例です。既存のLANに合わせて設定してください。

■「*IP/Mask：Src.*」

発信元（Source）のIPアドレスやネットワークアドレスを指定します。
入力欄に「IPアドレス/サブネットマスクのビット数」を入力してください。
サブネットマスクのビット数を入力しない場合、ユニキャストとなります。

■「*IP/Mask：Dst.*」

相手先（Destination）のIPアドレスやネットワークアドレスを指定します。
「*IP/Mask：Src.*」での入力方法と同じ要領で入力してください。

<<参考例>>

◆IPアドレス：192.168.0.1、サブネットマスク：255.255.255.0のネットワークアドレスを対象とする場合　→　「192.168.0.1/24」と入力。

◆IPアドレス：192.168.0.1、サブネットマスク：255.255.255.128のネットワークアドレスを対象とする場合　→　「192.168.0.1/25」と入力。

◆IPアドレス：192.168.0.44のIPアドレスを対象とする場合　→　「192.168.0.44」と入力。

<<「*IP/Mask*」の「*Src.*」と「*Dst.*」の設定について>>

◆「*Src.*」と「*Dst.*」の両方を設定した場合
「*Src.*」で指定したアドレスから発信され、「*Dst.*」で指定した相手先に送られるIPフレームを対象とします。

◆「*Src.*」のみを設定した場合
「*Src.*」で指定したアドレスから発信された、全てのIPフレームを対象とします。

◆「*Dst.*」のみを設定した場合
「*Dst.*」で指定した相手先に送られる、全てのIPフレームを対象とします。

◆「*Src.*」と「*Dst.*」の両方を設定しない場合
発信元、相手先のアドレスによる特定はなく、全てのIPフレームを対象とします。

※LAN 内に DHCP サーバーがある場合（ET-MPS の DHCP サーバーを含む）、「DHCP サーバーを使用する際の注意」（139ページ）を参照してください。

■「*IP/Mask：*」の「*AND*」と「*OR*」

「*Src.*」と「*Dst.*」の両方を設定した場合のみ表示されます。

◆「*AND*」：「*Src.*」と「*Dst.*」の両方の条件が合致した場合のみを対象とします。
◆「*OR*」　：「*Src.*」と「*Dst.*」のどちらか片方の条件が合致した場合を対象とします。

＜次ページへ続く＞



備考：上記画面例に入力されている情報は参考例です。既存のLANに合わせて設定してください。

■「*Port No：Src.*」

発信元（Source）からの、プロトコルやサービスのポート番号を指定します。
入力欄に「ポート番号」を入力してください。

■「*Port No：Dst.*」

相手先（Destination）への、プロトコルやサービスのポート番号を指定します。
入力欄に「ポート番号」を入力してください。

※ウェルノウンポートについては、プロトコル名 又はサービス名での入力も可能です。
ET-MPSが対応しているウェルノウンポートについては、「*ウェルノウンポート*」ボタンをクリックし、「ウェルノウンポート キーワード一覧」を参照してください。

※「*Src.*」及び「*Dst.*」入力欄は、ポート番号とポート番号の間に「/」を入れることで、範囲を指定することができます。
例 ：「201/208」 ＝ 201（AT-RMTP）から 208（AT-8）まで。

※「*Port No：*」の「*Src.*」と「*Dst.*」は、必要に応じて設定をしてください。

◆「*Src.*」と「*Dst.*」の両方を設定した場合
→「*Src.*」で指定したポート番号から発信され、「*Dst.*」で指定したポート番号に送られるIPフレームを対象とします。

◆「*Src.*」のみを設定した場合
→「*Src.*」で指定したポート番号から発信された、全てのIPフレームを対象とします。

◆「*Dst.*」のみを設定した場合
→「*Dst.*」で指定したポート番号に送られる、全てのIPフレームを対象とします。

◆「*Src.*」と「*Dst.*」の両方を設定しない場合
→発信元、相手先のポート番号による特定はなく全てのIPフレームを対象とします。

■「*Port No：*」の「*AND*」と「*OR*」

「*Src.*」と「*Dst.*」の両方を設定した場合のみ表示されます。

◆「*AND*」：「*Src.*」と「*Dst.*」の両方の条件が合致した場合のみを対象とします。

◆「*OR*」 ：「*Src.*」と「*Dst.*」のどちらか片方の条件が合致した場合を対象とします。

＜次ページへ続く＞



備考：上記画面例に入力されている情報は参考例です。既存のLANに合わせて設定してください。

■「*Protocol:*」

対象とするプロトコルを設定します。
「▼」をクリックし、候補の中から選択してください。

◆any　　　：全てのIPフレームを対象とします。
◆ICMP　　：ICMPプロトコルを対象とします。
◆TCP　　　：TCPプロトコルを対象とします。
◆UDP　　　：UDPプロトコルを対象とします。

■「*Flags*」

TCPプロトコルを対象とする場合は、フラグの指定も可能です。
指定可能なフラグは下記の6種類です。

◆URG　　　：アージェント（緊急データ）フラグです。
◆ACK　　　：アック（応答）フラグです。
◆PSH　　　：プッシュ（押出し）フラグです。
◆RST　　　：リセット（強制終了）フラグです。
◆SYN　　　：シンク（接続）フラグです。
◆FIN　　　：ファイナル（終了）フラグです。

各「フラグ名」のボタンをクリックすると、下記の順番で表示が変わります。
表示に対しての設定動作を下記に説明します。

◆　(XXX)　　：そのフラグを対象としません。（無視）
◆　+XXX　　：そのフラグがON（ビットが1）の場合を対象とします。
◆　-XXX　　：そのフラグがOFF（ビットが0）の場合を対象とします。

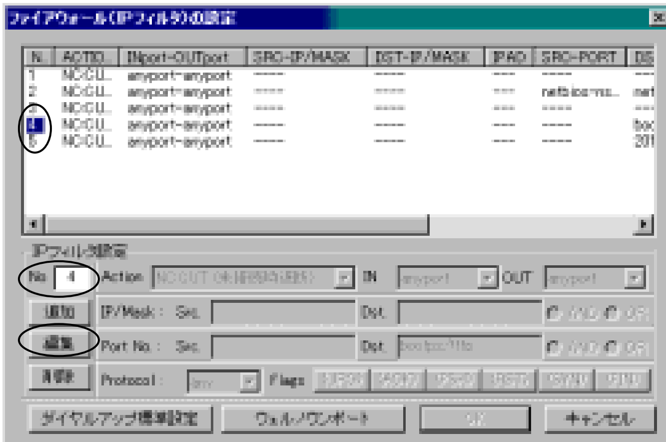
※「XXX」には各フラグ名が入ります。
「+XXX」と「-XXX」を組み合わせた場合は、全ての条件と合致した場合（AND）のみを対象とします。

⑤「*確定*」ボタンをクリックしてください。
設定したエントリー番号が登録リスト内に追加されます。
既存のエントリー番号を入力した場合は、その既存の番号以降の数が繰り下がります。

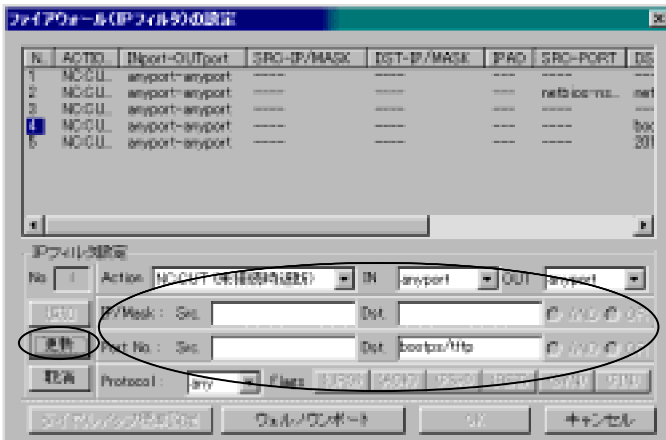
＜次ページへ続く＞

●フィルタ設定の編集

①登録リストの中から、編集したいエントリー番号を選択してください。
「*IPフィルタ設定*」の「*No*」に、選択したエントリー番号が表示されますので、「*編集*」ボタンをクリックしてください。



②編集したい項目の設定値を変更してください。
変更が終わりましたら、「*更新*」ボタンをクリックしてください。



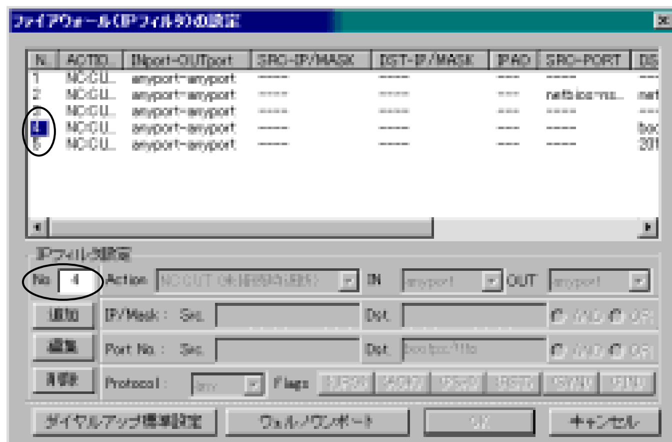
備考：上記画面例に入力されている情報は参考例です。既存のLANに合わせて設定してください。

③変更した設定内容が登録リストに反映されます。

＜次ページへ続く＞

●フィルタ設定の削除

①登録リストの中から、削除したいエントリー番号を選択してください。
「*IPフィルタ設定*」の「*No*」に、選択したエントリー番号が表示されます。



②「*削除*」ボタンをクリックしてください。登録リストからエントリーが削除されます。

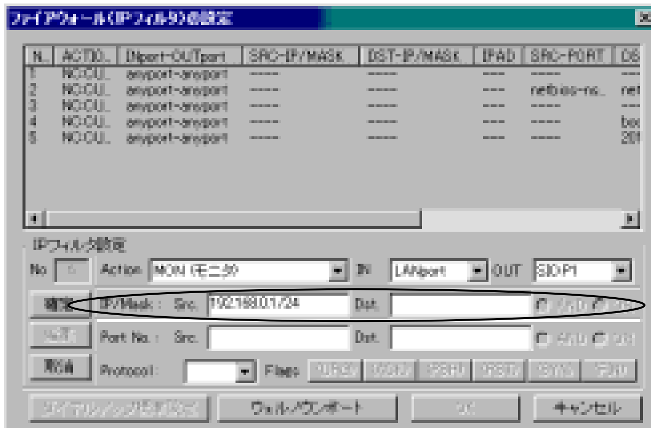


備考：上記画面例に入力されている情報は参考例です。既存のLANに合わせて設定してください。

＜次ページへ続く＞

●DHCPサーバーを使用する際の注意

ET-MPSのDHCPサーバーを使用する場合（又はLAN内に他のDHCPサーバーがある場合）、「*IP/Mask：Src.*」及び「*IP/Mask：Dst.*」を設定する際に注意が必要です。

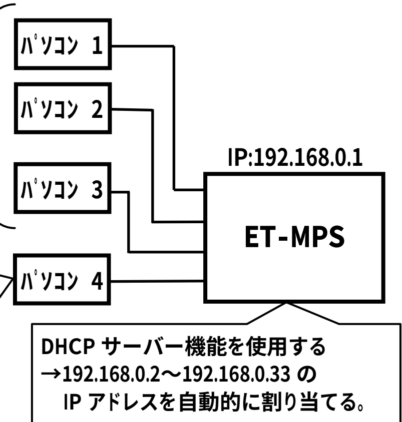


「*IP/Mask：Src.*」及び「*IP/Mask:Dst.*」に自ネットワークのIPアドレスを指定する場合、DHCPサーバーから割り当てられないIPアドレスを指定してください。

DHCPサーバーから割り当てられるIPアドレスを指定した場合、LAN内のパソコンの起動順番により、パソコンのIPアドレスが変わりますので、特定のパソコンを指定することができません。

下記はET-MPSのDHCPサーバーを使用し、IPアドレスが工場出荷値の場合の例です。
（IPアドレス：192.168.0.1、サブネットマスク：255.255.255.0）

IP：ET-MPS から自動的に取得
→パソコンの起動順番により、それぞれのパソコンの
IP アドレスが変わります。
よって、192.168.0.2～192.168.0.33 を
「*IP/Mask：Src.*」又は「*IP/Mask：Dst.*」に設定しても
特定のパソコンを指定できません。



IP：192.168.0.254
→ET-MPS から自動的に割り当てられない
IP アドレスです。（常に固定の IP アドレス。）
よって、192.168.0.254 を
「*IP/Mask：Src.*」又は「*IP/Mask：Dst.*」に設定すること
により、特定のパソコンを指定できます。

◆パソコンにIPアドレスを割り当てる場合、下記を参照してください。
- Windows98/95の場合「2.6.3　TCP/IPプロトコルの設定」の「DHCPサーバー機能を使用しない場合の設定」（P31）を参照してください。
- WindowsNT4.0の場合、「2.7.3　TCP/IPプロトコルの設定」の「DHCPサーバー機能を使用しない場合の設定」（P39）を参照してください。

◆ET-MPSのDHCPサーバー機能の設定については「3.3.5　DHCPサーバーの設定」（P58）を参照してください。

［7.1　ファイアウォール（IPフィルタ）の設定　　以上］

7．2　LANのスタティックルーティングの設定

本項目では、LAN のスタティックルーティングの設定を行います。

ET-MPS へ送られたパケットを、LAN 内にある他のルーター（現在設定を行っている ET-MPS 以外のルーター）宛に送るためのネットワークアドレスとゲートウェイアドレスを設定します。

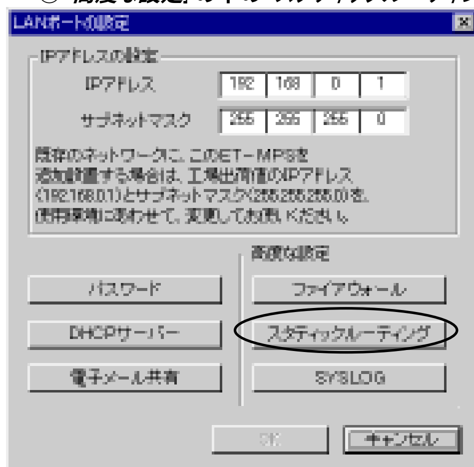
ネットワークアドレスは IP アドレスとサブネットマスクの組み合わせによって設定します。

LAN のスタティックルーティングが必要な場合は下記の場合等です。

◆同一LAN内に、ET-MPSが複数台存在する場合
◆同一LAN内に、ET-MPS以外のルーターが存在する場合

●スタティックルーティング設定画面の起動

①設定を行う ET-MPS を選択して「*動作設定*」ボタンをクリックしてください。
②「*LAN ポート設定*」の中の「*動作設定*」ボタンをクリックしてください。
③「*高度な設定*」の中の「*スタティックルーティング*」ボタンをクリックしてください。



備考：左記画面例に入力されている情報は参考例です。
既存のLANに合わせて設定してください。

確 認	ET-MPS で設定できるデフォルトゲートウェイは 1 つです。 接続動作の設定で下記を選択した場合、そのシリアルポートがデフォルトゲートウェイになります。 ◆ISP･端末型ダイヤルアップ IP 接続 ◆RAS クライアント IP 接続 ◆ISP･LAN 型ダイヤルアップ IP 接続 ◆LAN 型ダイヤルアップ IP 接続（デフォルトゲートウェイに設定した場合） ◆ISP 専用線 IP 接続 ◆専用線 IP 接続（デフォルトゲートウェイに設定した場合） 本設定で「LAN 上のデフォルトゲートウェイを使う」にした場合、シリアルポートで使用できる機能は「RAS サーバーIP 接続」と「専用線 IP 接続（ルーティングテーブルを設定）」のみになりますので注意してください。

＜次ページへ続く＞

スタティックルーティングの設定には下記の 2 種類があります。

●LAN 上のデフォルトゲートウェイを使用する

ET-MPS が接続されている LAN 内に存在する IP アドレス宛以外のパケットは、
デフォルトゲートウェイに指定した IP アドレス（ルーター）宛に送られます。
→設定方法は「7.2.1　デフォルトゲートウェイの設定」を参照してください。

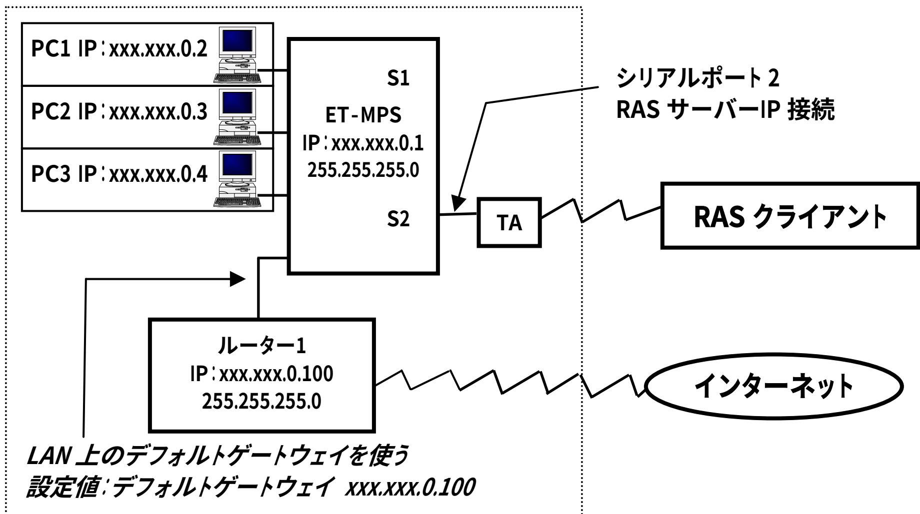
●登録したルーティング情報に従ってルーティングさせる

本設定で登録されたネットワークアドレス宛のパケットは、ゲートウェイアドレスで指定した IP アドレス（ルーター）へ送られます。
→設定方法は「7.2.2　ルーティングテーブルの設定」（P143）を参照してください。

7．2．1　デフォルトゲートウェイの設定

本項目では、デフォルトゲートウェイの設定を行い、その際の構成例と動作について説明します。

●構成例



※「IP」は IP アドレスを意味します。「IP」の下の数値はサブネットマスクを意味します。

上記構成例の場合、IPアドレス「xxx.xxx.0.2～xxx.xxx.0.4」宛以外のパケットは、全てルーター1へ送られます。（ET-MPSが接続されているLAN内に存在するIPアドレス宛以外のパケットは、全てルーター1宛に送られます。）

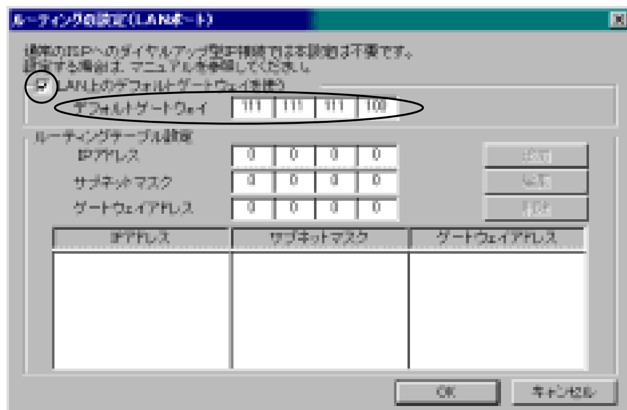
例えば、PC1からIPアドレス「xxx.xxx.0.4」宛のパケットはそのままPC3に送られますが、IPアドレス「xxx.xxx.1.5」宛のパケットはルーター1へ送られます。

RASクライアントから送られてくるパケットについても同様です。

＜次ページへ続く＞

●設定方法

「*LAN上のデフォルトゲートウェイに設定*」をチェックして「*デフォルトゲートウェイ*」にゲートウェイアドレス（他のルーターのアドレス）を入力してください。



備考：上記画面例に入力されている情報は参考例です。既存のLANに合わせ設定してください。

ルーティングテーブルの設定を行う場合は「7.2.2　ルーティングテーブルの設定」（次ページ）へ進んでください。

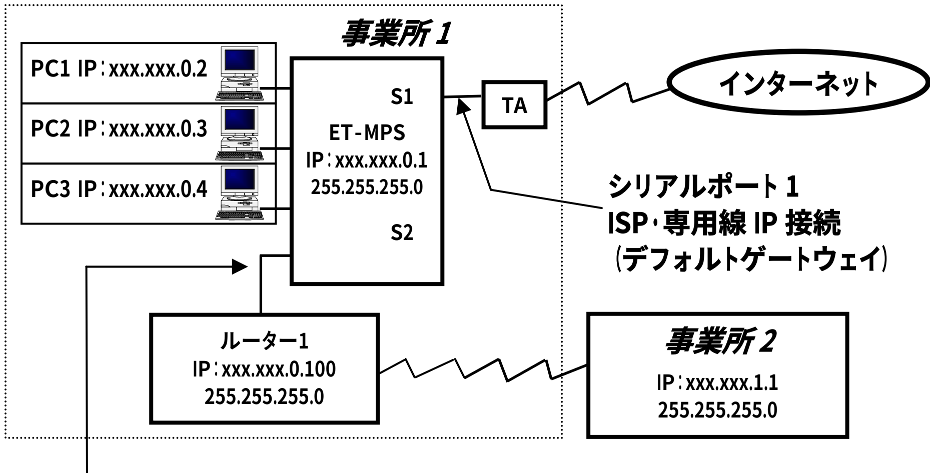
＜次ページへ続く＞

７．２．２ ルーティングテーブルの設定

本項目では、ルーティングテーブルの設定を行い、その際の構成例と動作について説明します。

●構成例

※「IP」は IP アドレスを意味します。
※「IP」の下の数値はサブネットマスクを意味します。



ルーティングテーブルを設定
設定値：IP アドレス　xxx.xxx.1.0　　サブネットマスク　255.255.255.0
ゲートウェイアドレス　xxx.xxx.0.100

上記構成例の場合、下記のようにパケットが送られます。

<<事業所1>>

◆ET-MPSが接続されているLAN内に存在するIPアドレス宛のパケット
→そのままLAN内へ送られます。
例えばPC1からIPアドレス「xxx.xxx.0.4」宛のパケットはそのままPC3へ送られます。

◆IPアドレス「xxx.xxx.1.xxx」宛のパケット
→ルーター1を通して事業所2へ送られます。（事業所2のルーターへ送られます。）
例えば、IPアドレス「xxx.xxx.1.5」宛のパケットは事業所2へ送られます。

◆上記以外の宛先へのパケット
→シリアルポート1からインターネットへ送られます。

<<事業所2>>

◆IPアドレス「xxx.xxx.0.xxx」宛のパケット
→事業所1のルーター1経由でET-MPSが接続されているLAN内（事業所1のLAN内）へ送られます。

◆IPアドレス「xxx.xxx.1.xxx」宛のパケット
→事業所2のLAN内へ送られます。

◆上記以外の宛先へのパケット
→ルーター1を経由してET-MPSのシリアルポート1からインターネットへ送られます。

＜次ページへ続く＞

●ルーティングテーブルの登録

①「*ルーティングテーブル設定*」の中の「*IPアドレス*」と「*サブネットマスク*」、「*ゲートウェイアドレス*」（パケットを送るルーターのIPアドレス）をそれぞれ入力してください。

備考：IPアドレスとサブネットマスクの組み合わせよりネットワークアドレスが決定します。

②「*追加*」ボタンをクリックしてください。
登録リストに入力したルーティングテーブルが登録されます。

備考：上記画面例に入力されている情報は参考例です。既存のLANに合わせて設定してください。

③登録が終わりましたら「*OK*」ボタンをクリックしてください。

ルーティングテーブルの編集/削除を行う場合は次ページを参照してください。

確　認	ルーティングテーブルを登録した場合、「*LAN 上のデフォルトゲートウェイを使う*」で指定されたゲートウェイアドレスよりも、登録されたルーティングテーブルが優先されます。

＜次ページへ続く＞

●ルーティングテーブルの編集

①編集したいルーティングテーブルを選択して「*編集*」ボタンをクリックしてください。

②選択したルーティングテーブルが入力欄に表示されますので、変更後に「*追加*」ボタンをクリックしてください。登録リストに変更後のルーティングテーブルが登録されます。



ﾙｰﾃｨﾝｸﾞﾃｰﾌﾞﾙの登録件数は最大 8 件です。

●ルーティングテーブルの削除

削除したいルーティングテーブルを選択して「*削除*」ボタンをクリックしてください。

7．3　SYSLOGの設定

本項目では、SYSLOG 機能の設定を行います。

●SYSLOG 機能とは？

SYSLOG とは、システムで発生したイベントや情報等を、システムのメッセージとして記録する機能です。
ネットワークを介したシステムメッセージは、一般的に UDP のポート 514 を使用して送信/受信されます。システムのメッセージとして記録する UNIX ホストの多くは、SYSLOG デーモンプロセスによって、これらのシステムメッセージを受信して記録します。

●ET-MPS における SYSLOG の位置付けについて

ET-MPS は以下の目的で SYSLOG を使用しています。

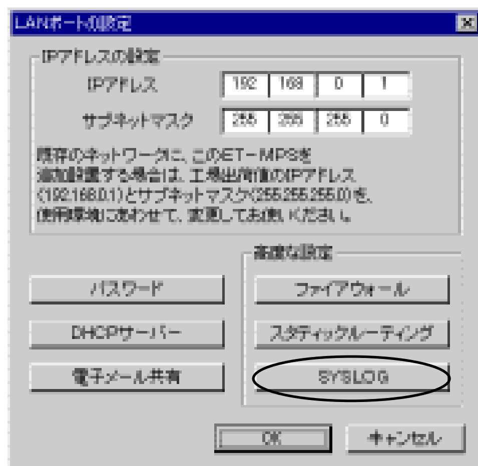
- シリアルポートに接続したモデム/TA との AT コマンドの送受信シーケンスの確認
- PPP 接続シーケンスの確認
- ISP から割り当てられたグローバル IP アドレスの確認
- 接続要因/切断要因の確認
- 接続時間/切断時間/通信時間の確認
- その他

●SYSLOG 設定画面の起動

①設定を行う ET-MPS を選択して「*動作設定*」ボタンをクリックしてください。

②「*LAN ポート設定*」の中の「*動作設定*」ボタンをクリックしてください。

③「*高度な設定*」の中の「*SYSLOG*」ボタンをクリックしてください。



備考：左記画面例に入力されている情報は参考例です。
既存のLANに合わせて設定してください。

＜次ページへ続く＞

④「*SYSLOG の設定*」画面が表示されます。



●設定項目について

◆「*Syslog 機能を有効にする*」のチェックボックス

→このチェックボックスをオンにした場合、SYSLOG の機能が有効になります。
マークをオフにした場合、以下で設定した内容を無効とする事ができます。
この場合においても、以降の設定内容が失われることはありません。

◆「*ホスト IP アドレス*」

→SYSLOG を受け取るホストの IP アドレスを入力してください。
指定する IP アドレスは、ET-MPS の LAN 側の IP アドレスと同一ネットワーク内の IP アドレスに限ります。
また、「255.255.255.255」を指定した場合、ET-MPS が接続されている同一セグメント内の LAN にブロードキャスト（同報配信）されます。ブロードキャスト IP に対応した SYSLOG デーモンプログラム（SYSLOG 情報表示プログラム）を使用すると、複数のパソコンで SYSLOG の同時受信が可能となります。

LAN 内に DHCP サーバーがある場合（ET-MPS の DHCP サーバーを含む）、「DHCP サーバーを使用する際の注意」（153ページ）を参照してください。

◆「*ファシリティーコード*」

→ET-MPS は、ファシリティーコードとして、常に「LOG_USER」を使用します。
この設定は変更できません。

◆「*メッセージタイプ*」

→送出する SYSLOG のメッセージタイプを指定します。チェックボックスをオンにしたメッセージタイプの SYSLOG メッセージのみが、送出されます。
現在の ET-MPS は、「LOG_INFO」、「LOG_WARNING」のみのメッセージタイプを使用しています。よって、これ以外の優先度のチェックボックスをオンにしても何も送出されません。
また、「LOG_DEBUG」は常に無効となります。

＜次ページへ続く＞

●SYSLOG デーモンプログラム (SYSLOG 情報表示プログラム) について

SYSLOGデーモンプログラムの提供は現在予定しておりません。
SYSLOGデーモンプログラムは、フリーソフトウェアがインターネットを通して、入手可能ですので、それらを使用してください。

●送出フォーマット

ET-MPS が送出する SYSLOG メッセージは、1 メッセージが「:」記号によって 3 カラム以上に分割されています。

◆1 カラム目

ET-MPS の現在のファームウェアが 1 カラム目に出力しうる文字列は、以下のいずれかです。

・SYS ：ET-MPS のシステムに関連したメッセージであることを示します。
・S01 ：ET-MPS のシリアルポート 1 に関連したメッセージであることを示します。
・S02 ：ET-MPS のシリアルポート 2 に関連したメッセージであることを示します。

◆2 カラム目

ET-MPS の現在のファームウェアが 2 カラム目に出力しうる文字列は、以下のいずれかです。

・ --> ： 3 カラム目は、ET-MPS がシリアルポートに出力した文字列を示します。
・ <-- ： 3 カラム目は、ET-MPS がシリアルポートから受信した文字列を示します。
・PPP ： 3 カラム目は、PPP 関係のメッセージであることを示します。
・TIM ： ET-MPS のカウンタ (時計) が調整されたことを示します。
調整された時間が 3 カラム目に示されます。
・(空欄)： 3 カラム目は、上記以外のメッセージであることを示します。

◆3 カラム目以上

ET-MPS の現在のファームウェアが 3 カラム目以上に出力しうる文字列は、1 カラム目、2 カラム目の内容によって、その内容は変化します。

<<S0x:(空欄): で出力されるメッセージ>>

・[CONNECT REQ] ICMP(TYPE=xxx) frame received, yyy -> zzz.
→ICMPフレーム受信による回線接続シーケンスが始まったことを示します。
xxxはICMPのタイプを、yyyはソースIPアドレスを、zzzはディストネーションIPアドレスをそれぞれ、十進数で出力します。

・[CONNECT REQ] TCP frame received, www(xxx) -> yyy(zzz).
→TCP フレーム受信による回線接続シーケンスが始まったことを示します。
www はソース IP アドレス、xxx はソースポート番号、yyy はディストネーション IP アドレス、zzz はディストネーションポート番号をそれぞれ十進数で出力します。

・[CONNECT REQ] UDP frame received, www(xxx) -> yyy(zzz).
→UDP フレーム受信による回線接続シーケンスが始まったことを示します。
www はソース IP アドレス、xxx はソースポート番号、yyy はディストネーション IP アドレス、zzz はディストネーションポート番号をそれぞれ十進数で出力します。

＜次ページへ続く＞

・[CONNECT REQ] Other protocol(xxx) frame received, yyy -> zzz.
→IP ヘッダ中のプロトコルフィールドが ICMP、TCP、UDP 以外のパケット受信による回線接続シーケンスが始まったことを示します。
xxx はプロトコル番号、yyy はソース IP アドレス、zzz はディスティネーション IP アドレスをそれぞれ、十進数で出力します。

・[CONNECT REQ] Manual connect request received.
→ET-MPS 設定ツールの「*手動接続*」ボタンが押されたことによって、回線接続シーケンスが始まったことを示します。

・[DISCONNECT REQ] Non activity timer expired.
→無通信タイマーが満了したことによって、回線切断シーケンスが始まったことを示します。

・[DISCONNECT REQ] Disconnect time period ended.
→無切断時間の終了に達したことによって、回線切断シーケンスが始まったことを示します。

・[DISCONNECT REQ] Manual disconnect request received.
→ET-MPS 設定ツールの「*手動切断*」ボタンが押されたことによって、回線切断シーケンスが始まったことを示します。

・Connect successfully.(xx:xx:xx)
→回線が接続されたことを示します。
xx:xx:xx は、回線が接続された時の時間を示します。

・Disconnect successfully, duration xx:xx:xx.(yy:yy:yy)
→回線が相手から切断された時、回線接続に失敗した時、又は、回線切断シーケンスが完了した時に出力され、yy:yy:yy がそのときの時間を示します。
また、xx:xx:xx は、回線が接続されてから切断された時までの経過時間を示します。

・IP Masquerade session table full.
→ET-MPS は IP マスカレードモードにおいて最大 256 セッションをサポートしますが、このセッションを管理するテーブル数が最大値(256)に達したことを示します。
なお、このメッセージは SYSLOG メッセージタイプとして、LOG_WARNING を使用して出力されます。

・RAS Server configuration, My IP=xxx.xxx.xxx.xxx Peer IP=yyy.yyy.yyy.yyy
→「サーバーIP アドレス」及び「クライアント IP アドレス」に設定した IP アドレスが他のネットワーク機器と重複していないこと、もしくは「IP アドレス割り当てに DHCP を使う」に設定して、DHCP 用 IP プールから IP アドレスが取得できたことを示します。xxx.xxx.xxx.xxx は「サーバーIP アドレス」を、yyy.yyy.yyy.yyy は「クライアント IP アドレス」を示します。
なお、このメッセージは、RAS サーバーを使用するように設定した時に「LOG_INFO」のメッセージタイプで送出され、正常に RAS サーバーが構成されたことを示します。

<次ページへ続く＞

・**RAS Client configuration, My IP=xxx.xxx.xxx.xxx**
→「RAS クライアント･IP アドレス」を「RAS クライアントから指定」に設定した場合、その IP アドレスが他のネットワーク機器と重複していないことを示します。
xxx.xxx.xxx.xxx は「クライアント IP アドレス」を示します。
なお、このメッセージは、RAS クライアントを使用するように設定した時に「LOG_INFO」のメッセージタイプで送出され、正常に RAS クライアントが構成されたことを示します。

・**RAS Server has been disabled, IP Address failure.**
→RAS サーバー設定において、「サーバーIP アドレス」または「クライアント IP アドレス」に設定した IP アドレスが他のネットワーク機器と重複していることを、もしくは、「IP アドレス割り当てに DHCP を使う」に設定した場合で、DHCP 用 IP プールから IP アドレスが取得できなかったことを示します。
このメッセージは、RAS サーバーを使用するように設定した時に送出される可能性があり、「LOG_WARNING」のメッセージタイプで送出されます。

・**RAS Client has been disabled, IP Address failure.**
→「RAS クライアント･IP アドレス」を「RAS クライアントから指定」に設定した場合、指定した IP アドレスが他のネットワーク機器と重複していることを示します。
このメッセージは、RAS クライアントを使用するように設定した時に送出される可能性があり、「LOG_WARNING」のメッセージタイプで送出されます。

・**RAS Client and Server has been disabled, IP Address failure.**
→上記、2 つが同時に発生した場合、このメッセージが送出されます。
このメッセージは、RAS クライアント及び RAS サーバーを同時に使用するように設定した時に送出される可能性があり、「LOG_WARNING」のメッセージタイプで送出されます。

<<SYS:TIM: で出力されるメッセージ>>

・**Adjust time.(xx:xx:xx)**
→ET-MPS のカウンタ（時計）が調整されたことを示します。
このメッセージは ET-MPS の設定ツールを起動したとき、
「*再検索*」ボタンが押されたとき、表示されます。また、(xx:xx:xx)は、調整後の時間を示します。

<<S0x:PPP: で出力されるメッセージ>>

・**Open start.**
→ET-MPS が、PPP の接続ネゴシエーションを開始したことを示します。

・**Close start.**
→ET-MPS が、PPP の切断ネゴシエーションを開始したことを示します。

・**LCP UP.**
→PPP の LCP フェーズがアップしたことを示します。

・**LCP DOWN.**
→PPP の LCP フェーズがダウンしたことを示します。

・**PAP UP.**
→PPP の PAP 認証フェーズがアップしたことを示します。

＜次ページへ続く＞

・**PAP DOWN.**
→PPP の PAP 認証フェーズがダウンしたことを示します。

・**CBCP UP.**
→PPP の CBCP フェーズがアップしたことを示します。

・**CBCP DOWN.**
→PPP の CBCP フェーズがダウンしたことを示します。

・**IPCP UP. My IP=xxx.xxx.xxx.xxx　Peer IP=yyy.yyy.yyy.yyy**
→PPP の IPCP フェーズがアップしたことを示します。また、xxx.xxx.xxx.xxx は、そのときに決定した ET-MPS 側の IP アドレスを示し、yyy.yyy.yyy.yyy は相手側の IP アドレスを示します。

・**IPCP DOWN.**
→PPP の IPCP フェーズがダウンしたことを示します。

●グローバル IP アドレスの確認方法

ET-MPS は、PPP でネゴシエーションしたときに割り当てられた（割り当てた）IP アドレスを SYSLOG のメッセージとして出力します。よって、ISP ダイヤルアップ IP 接続の時等に ISP から割り当てられたグローバル IP アドレスを確認することが可能です。

PPP でネゴシエーションしたときに割り当てられた IP アドレスのメッセージは下記の通りです。

S0x:PPP: IPCP UP. My IP=yyy.yyy.yyy.yyy, Peer IP=zzz.zzz.zzz.zzz

yyy.yyy.yyy.yyy が、ISP から割り当てられた IP アドレスとなります。
zzz.zzz.zzz.zzz は、ISP 側の IP アドレスです。
x は、1 又は 2 で、ET-MPS のシリアルポート番号を示します。
x=1 の場合はシリアルポート 1、x=2 の場合はシリアルポート 2 です。

＜次ページへ続く＞

●SYSLOG の動作例

下記はET-MPSのシリアルポート1を使用して手動接続・手動切断（ISP・端末型ダイヤルアップIP接続）を行った場合の動作例です。（「→」以降がメッセージの説明です。）

```
SYS:TIM: Adjust time.(12:00:01)
                          →ET-MPSのカウンタ（時計）が調整された（現在の時刻 12:00:01）
S01:    : [CONNECT REQ] Manual connect request received.
                          →ET-MPS設定ツールの手動接続ボタンが押された
S01:-->: AT               →シリアルポート1へATコマンドを送出
S01:<--: OK               →シリアルポート1からOKを受信
S01:-->: AT&F0E0V0X1      →シリアルポート1へAT&F0E0V0X1コマンドを送出
S01:<--: 0                →シリアルポート1から0を受信（TAからの応答）
S01:-->: AT$D1=2          →シリアルポート1へAT$D1=2コマンドを送出
S01:<--: 0                →シリアルポート1から0を受信（TAからの応答）
S01:-->: AT&K3E0V1        →シリアルポート1へAT&K3E0V1コマンドを送出
S01:<--: OK               →シリアルポート1からOKを受信（TAからの応答）
S01:-->: ATDT11112222
                          →シリアルポート1へATDT11112222コマンドを送出（ダイヤルコマンド送
                            出）
S01:<--: CONNECT 64000
                          →シリアルポートからCONNECT 64000を受信（TAがISPと64000bpsで接続）
S01:PPP: Open start.      →ET-MPSがPPPの接続ネゴシエーションを開始した
S01:PPP: LCP UP.          →PPPのLCPフェーズがアップした
S01:PPP: PAP UP.          →PPPのPAP認証フェーズがアップした
S01:PPP: IPCP UP. My IP=111.111.112.111, Peer IP=111.111.121.88
                          →ISPから割り当てられたIPアドレス：111.111.112.111
                            ISPのIPアドレス：111.111.121.88
S01:    : Connect successfully.(12:00:10)
                          →ISPと回線が接続された（ISPとの認証完了）
S01:    : [DISCONNECT REQ] Manual disconnect request received.
                          →ET-MPS設定ツールの手動切断ボタンが押された
S01:PPP: Close start.     →ET-MPSがPPPの切断ネゴシエーションを開始した
S01:PPP: LCP DOWN.        →PPPのLCPフェーズがダウンした
S01:<--: NO CARRIER       →シリアルポート1からNO CARRIERを受信（回線が切断された）
S01:    : Disconnect successfully, duration 00:00:22.(12:00:26)
                          →回線の切断が完了した（接続時間22秒、現在の時刻12:00:26）
```

＜次ページへ続く＞

●DHCPサーバーを使用する際の注意

ET-MPSのDHCPサーバーを使用する場合（又はLAN内に他のDHCPサーバーがある場合）、「*ホストIPアドレス*」の設定に注意が必要です。



備考：左記画面例に入力されている情報は参考例です。既存のLANに合わせて設定してください。

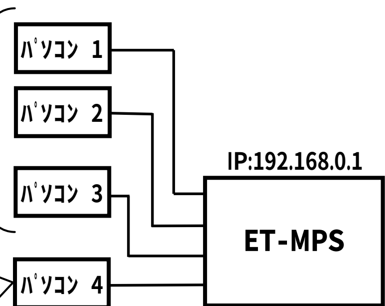
※「*ホストIP アドレス*」に「255.255.255.0」を設定する場合
→ET-MPS が接続されている同一セグメント内の LAN にブロードキャスト（同報配信）されますので、本項目を参照する必要はありません。

「*ホストIPアドレス*」にSYSLOGを受け取るパソコンのIPアドレスを指定する場合、DHCPサーバーから割り当てられないIPアドレスを指定してください。

DHCPサーバーから割り当てられるIPアドレスを指定した場合、LAN内のパソコンの起動順番により、パソコンのIPアドレスが変わりますので、特定のパソコンを指定することができません。

下記はET-MPSのDHCPサーバーを使用し、IPアドレスが工場出荷値の場合の例です。
（IPアドレス：192.168.0.1、サブネットマスク：255.255.255.0）

IP：ET-MPS から自動的に取得
→パソコンの起動順番により、それぞれのパソコンのIP アドレスが変わります。
よって、192.168.0.2～192.168.0.33 を「*ホスト IP アドレス*」に設定しても特定のパソコンを指定できません。



IP：192.168.0.254
→ET-MPS から自動的に割り当てられないIP アドレスです。（常に固定の IP アドレス。）
よって、192.168.0.254 を「*ホストIP アドレス*」に設定することにより、特定のパソコンを指定できます。

DHCP サーバー機能を使用する
→192.168.0.2～192.168.0.33 のIP アドレスを自動的に割り当てる。

◆パソコンにIPアドレスを割り当てる場合、下記を参照してください。
- Windows98/95の場合「2.6.3　TCP/IPプロトコルの設定」の「DHCPサーバー機能を使用しない場合の設定」（P31）を参照してください。
- WindowsNT4.0の場合、「2.7.3　TCP/IPプロトコルの設定」の「DHCPサーバー機能を使用しない場合の設定」（P39）を参照してください。

◆ET-MPSのDHCPサーバー機能の設定については「3.3.5　DHCPサーバーの設定」（P58）を参照してください。

［7.3　SYSLOGの設定　　以上］

7．4　IPマスカレードの詳細設定

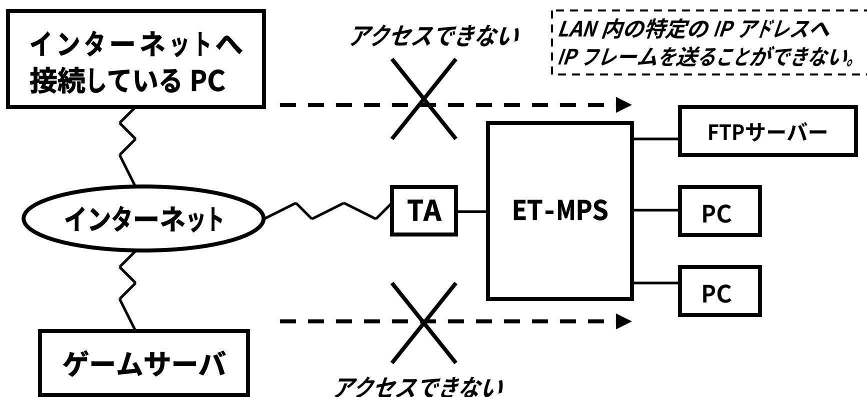
本項目では、IPマスカレードの詳細設定（IPマスカレードテーブル設定）を行います。

通常のIPマスカレードの場合、インターネット側からET-MPSに接続されているLANの内部へアクセスすることはできません。

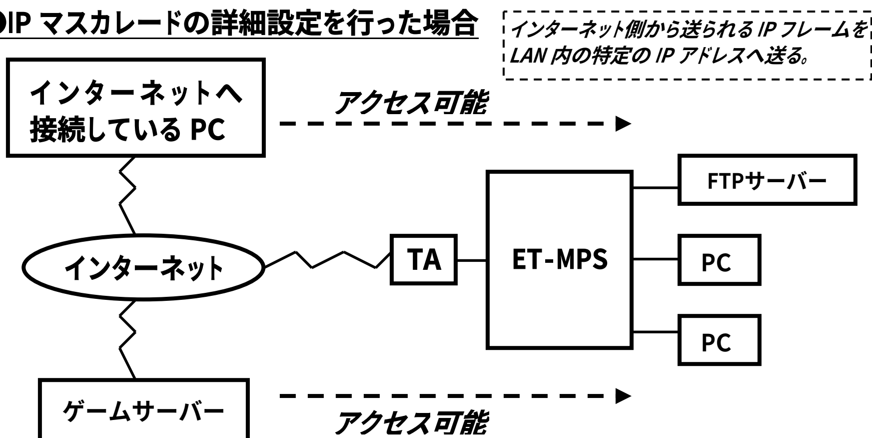
IPマスカレードの詳細設定は、インターネット側から接続が始まるIPフレームをLAN内の特定のパソコン（IPアドレス）へルーティングするための設定で、これによりインターネット側からLANの内部へアクセスすることが可能になります。

例えば、LAN内でWWWサーバーやFTPサーバーを運用している場合、インターネット側からこれらのサーバーにアクセスすることが可能になります。

●通常の IP マスカレードの場合



●IP マスカレードの詳細設定を行った場合



<次ページへ続く>

●IPマスカレードの詳細設定画面の起動

ISP･端末型ダイヤルアップIP接続、又はRASクライアントIP接続の設定画面の「*アドレス変換方式*」で「*IPマスカレード*」を選択して「*詳細設定*」ボタンをクリックしてください。



●テーブル設定の登録

①「*No*」に、エントリー番号を入力してください。
エントリー番号は優先順位の高い順に「1」から入力してください。
（最大エントリー数は1ポート当たり32エントリーまでです。）



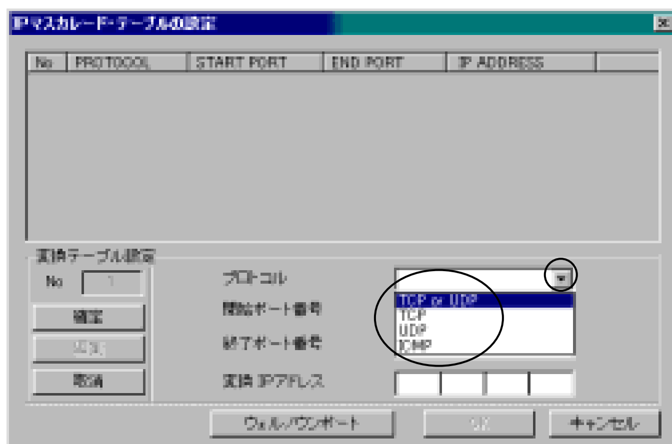
②「*追加*」ボタンをクリックしてください。



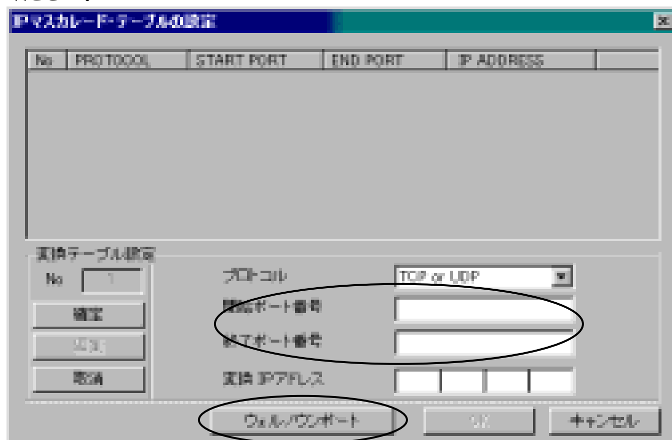
<次ページへ続く>

③対象とするプロトコルを設定します。
「*プロトコル*」右端の「▼」をクリックし、候補の中から選択してください。

◆TCP or UDP　：TCPプロトコルとUDPプロトコルを対象とします。
◆TCP　：TCPプロトコルを対象とします。
◆UDP　：UDPプロトコルを対象とします。
◆ICMP　：ICMPプロトコルを対象とします。



④「*開始ポート番号*」にサービスのポート番号を指定します。
入力欄に「ポート番号」を入力してください。1つのポート番号のみを指定する場合、「終了ポート番号」は空欄のままでかまいません。
ポート番号の範囲を指定する場合は「*終了ポート番号*」に終了ポート番号を入力してください。



※ウェルノウンポートについては、プロトコル名、又はサービス名での入力も可能です。
ET-MPSが対応しているウェルノウンポートについては、「*ウェルノウンポート*」ボタンをクリックし、「ウェルノウンポート　キーボード一覧」を参照してください。

＜次ページへ続く＞

⑤「*変換IPアドレス*」にLAN内の変換先IPアドレスを入力してください。
- LAN内でWWWサーバーやFTPサーバーを運用している場合、そのIPアドレスを入力してください。
- ネットワーク対戦ゲームを行う場合、そのパソコンのIPアドレスを入力してください。

LAN 内に DHCP サーバーがある場合（ET-MPS の DHCP サーバーを含む）、「DHCP サーバーを使用する際の注意」（162ページ）を参照してください。

⑥「*確定*」ボタンをクリックしてください。
設定したエントリー番号が登録リストに追加されます。
既存のエントリー番号を入力した場合、その既存の番号以降の数が繰り下がります。

備考：上記画面例に入力されている情報は参考例です。既存のLANに合わせて設定してください。

設定例については次ページ以降を参照してください。
IPマスカレードテーブルの編集/削除を行う場合はP160～P161を参照してください。

＜次ページへ続く＞

●設定例

以降、IPマスカレードテーブルの設定例です。
変換先IPアドレスは「192.168.0.100」とします。

◆LAN内のパソコンでWWWサーバーを運用する場合

IPマスカレードテーブルの設定

No	PROTOCOL	START PORT	END PORT	IP ADDRESS
1	TCP	www-http	www-http	192.168.0.100

・プロトコル　：　TCP
・開始ポート番号　：　www-http（ポート番号：80）

◆LAN内のパソコンでFTPサーバーを運用する場合

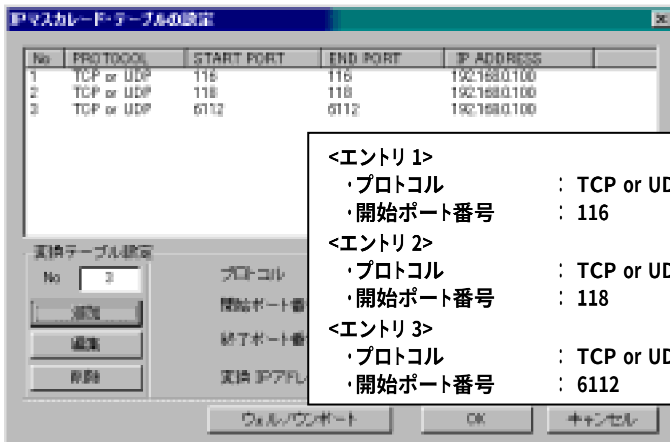
IPマスカレードテーブルの設定

No	PROTOCOL	START PORT	END PORT	IP ADDRESS
1	TCP	ftp-data	ftp	192.168.0.100

・プロトコル　：　TCP
・開始ポート番号　：　ftp-data（ポート番号：20）
・終了ポート番号　：　ftp（ポート番号：21）

＜次ページへ続く＞

◆LAN内のパソコンでネットワーク対戦ゲーム「DIABLO」を行う場合



◆LAN内の別々のパソコンで運用しているWWWサーバーとFTPサーバーをインターネット側から同じIPアドレスに見せる場合

・LAN内のWWWサーバーのIPアドレス　：192.168.0.100
・LAN内のFTPサーバーのIPアドレス　：192.168.0.101



<次ページへ続く>

◆全てのIPフレームをLAN内の特定のパソコンへルーティングさせる場合

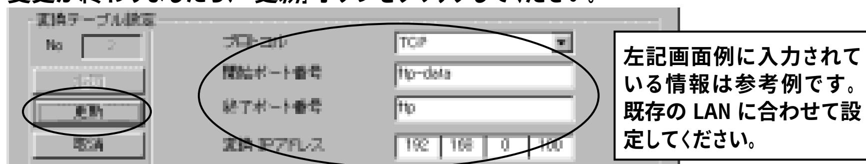


●IPマスカレードテーブルの編集

①登録リストの中から編集したいIPマスカレードテーブルのエントリー番号を選択してください。「*変換テーブル設定*」の「*No*」に、選択したエントリー番号が表示されますので、「*編集*」ボタンをクリックしてください。



②編集したい項目の設定値を変更してください。
　変更が終わりましたら、「*更新*」ボタンをクリックしてください。



IPマスカレードテーブルの削除を行う場合は次ページを参照してください。

<次ページへ続く>

●IPマスカレードテーブルの削除

①登録リストの中から削除したいIPマスカレードテーブルのエントリー番号を選択してください。「*変換テーブル設定*」の「*No*」に、選択したエントリー番号が表示されます。

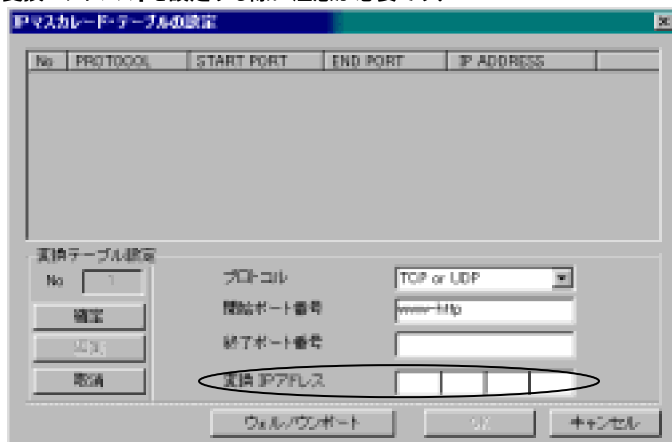
②「*削除*」ボタンをクリックしてください。登録リストからエントリーが削除されます。

備考：上記画面例に入力されている情報は参考例です。既存のLANに合わせて設定してください。

＜次ページへ続く＞

●DHCPサーバーを使用する際の注意

ET-MPSのDHCPサーバーを使用する場合（又はLAN内に他のDHCPサーバーがある場合）、「*変換IPアドレス*」を設定する際に注意が必要です。



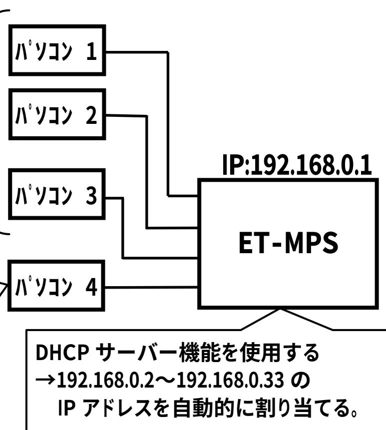
「*変換IPアドレス*」に自ネットワークのIPアドレスを指定する場合、DHCPサーバーから割り当てられないIPアドレスを指定してください。

DHCPサーバーから割り当てられるIPアドレスを指定した場合、LAN内のパソコンの起動順番により、パソコンのIPアドレスが変わりますので、特定のパソコンを指定することができません。

下記はET-MPSのDHCPサーバーを使用し、IPアドレスが工場出荷値の場合の例です。
（IPアドレス：192.168.0.1、サブネットマスク：255.255.255.0）

IP：ET-MPS から自動的に取得
→パソコンの起動順番により、それぞれのパソコンの IP アドレスが変わります。
よって、192.168.0.2～192.168.0.33 を「*変換 IP アドレス*」に設定しても特定のパソコンを指定できません。

IP：192.168.0.254
→ET-MPS から自動的に割り当てられない IP アドレスです。（常に固定の IP アドレス。）
よって、192.168.0.254 を「*変換 IP アドレス*」に設定することにより、特定のパソコンを指定できます。



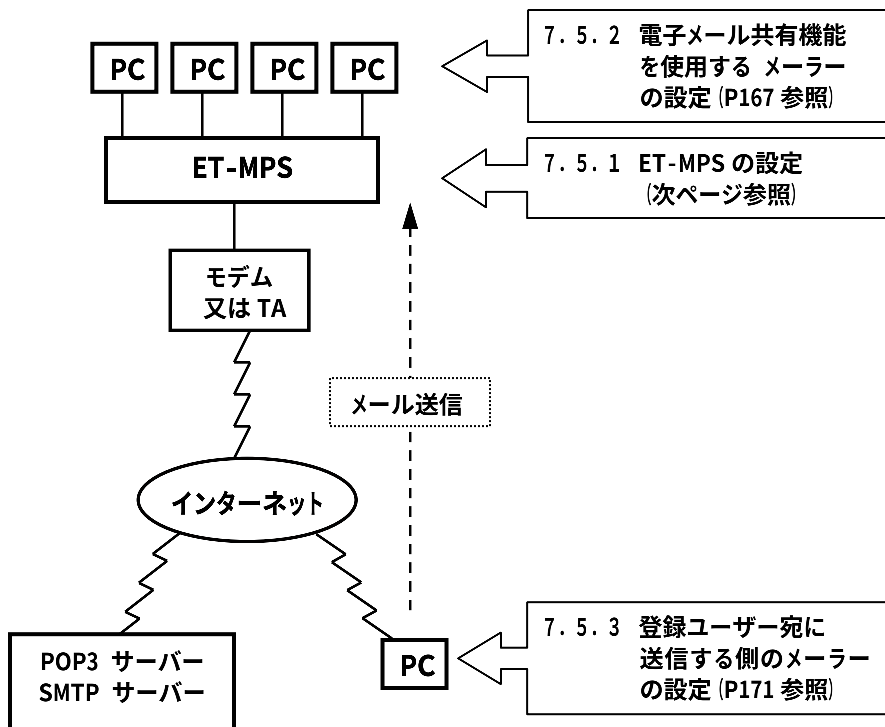
◆パソコンにIPアドレスを割り当てる場合、下記を参照してください。
- Windows98/95の場合「2.6.3　TCP/IPプロトコルの設定」の「DHCPサーバー機能を使用しない場合の設定」（P31）を参照してください。
- WindowsNT4.0の場合、「2.7.3　TCP/IPプロトコルの設定」の「DHCPサーバー機能を使用しない場合の設定」（P39）を参照してください。

◆ET-MPSのDHCPサーバー機能の設定については「3.3.5　DHCPサーバーの設定」（P58）を参照してください。

［7.4　IPマスカレードの詳細設定　　以上］

７．５　電子メール共有機能の設定

本機能は、１つの電子メール・アカウントを、複数のユーザーで共有する機能です。



＜次ページへ続く＞

７．５．１　ET-MPSの設定

①「電子メール共有」ボタンをクリックしてください。



②「電子メール共有機能を使用する」に、チェックを入れてください。
本機能を使用しない場合は、チェックを外してください。



＜次ページへ続く＞

③メールサーバーへ接続するための設定を行います。

「POP3サーバー」に、POP3サーバーのIPアドレスを、

「メールアカウント」に、メールアカウント（ISPと契約している電子メールアドレスが「mail@xx.co.jp」の場合”mail”）を、「パスワード」と「パスワード再入力」に、POP3サーバーへ接続するためのパスワードを、半角英数字で入力してください。パスワードなしの場合は、空欄にしてください。

電子メール共有機能の設定

☑ 電子メール共有機能を使用する

POP3サーバー　111 111 111 111

メールアカウント　mail

パスワード　********　パスワード再入力　********

ユーザー登録

ユーザー名　□ このユーザーは未登録宛先メールも受信

パスワード　パスワード再入力

ユーザー名	未登録宛先メール

OK　キャンセル

備考：「POP3サーバー」のIPアドレスはISPにお問い合わせいただくか、又はツール（PINGコマンド等）でご確認ください。

例）POP3サーバーアドレスが「xxx.co.jp」の場合、Windowsのコマンドプロンプトで以下の様に入力してください。

PING　xxx.co.jp ・

応答があればIPアドレスが表示されます。

また、「POP3サーバー」のIPアドレスは変更されることがありますので、ご注意ください。

＜次ページへ続く＞

④メールアカウントを共有するユーザーを、登録します。
「ユーザー名」に ユーザー名を、「パスワード」と「パスワード再入力」に
パスワードを、半角英数字で適宜入力してください。
登録されていないユーザー宛（メールアカウント宛を含む）へのメールも着信させたい
場合は、「このユーザーは未登録宛先メールも受信」にチェックを入れてください。

電子メール共有機能の設定
電子メール共有機能を使用する
POP3サーバー　111 111 111 111
メールアカウント　mail
パスワード　パスワード再入力
ユーザー登録
ユーザー名　user1　このユーザーは未登録宛先メールも受信
パスワード　パスワード再入力
ユーザー名　未登録宛先メール
追加
編集
削除
OK　キャンセル

備考：本ページの画面例に入力されている情報は、参考例です。
使用する環境に合わせて設定を行ってください。

⑤「追加」ボタンをクリックしてください。ユーザー情報がリストに登録されます。

≪登録内容の変更方法≫

①リスト内の変更したいユーザーをクリックしてください。選択された登録情報は、ハイライト表示されます。

②「編集」ボタンをクリックしてください。選択されていた登録情報が、各設定項目入力欄に表示されますので、適宜変更を行ってください。

③内容の変更が終わりましたら、「追加」ボタンをクリックしてください。
変更後の情報が登録されます。

≪登録内容の削除方法≫

リスト内の削除したいユーザーをクリックしてください。選択された登録情報は、ハイライト表示されます。「削除」ボタンをクリックしてください。リストから削除されます。

登録・編集・削除が終わりましたら、「OK」ボタンをクリックしてください。

	電子メール共有機能を使用する場合、インターネット接続のアドレス変換は「*IPマスカレード*」をご使用ください。 アドレス変換に「*NAT*」を使用すると、その性質上、メール送信後の受信、メール受信後の送信がタイミングによっては失敗することがあります。

［7.5.1　ET-MPSの設定　　以上］

７．５．２　電子メール共有機能を使用するメーラーの設定

電子メール共有機能を使用する場合の、メーラーの設定について説明します。

使用するメーラーの各設定項目を、下記のように設定してください。

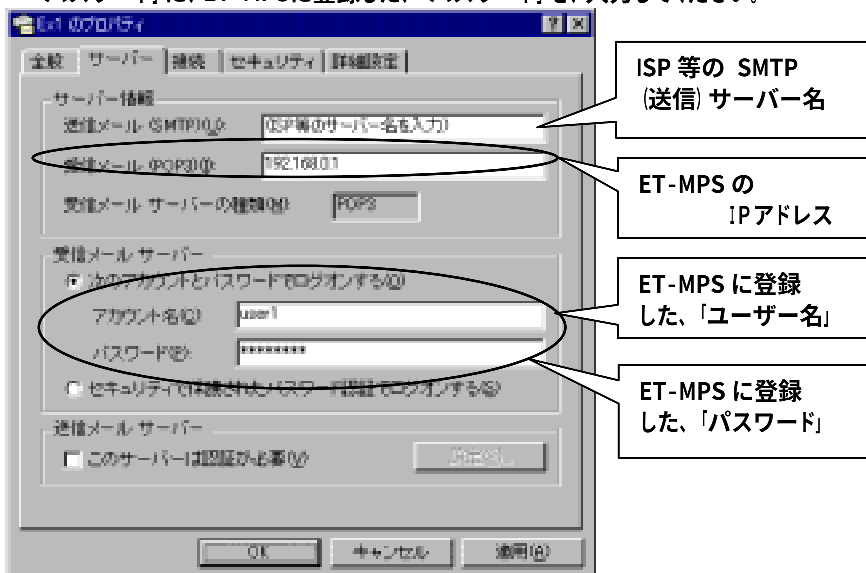
・POP3（受信メール）サーバー　　　：ET-MPSの IPアドレスを入力
・アカウント　　　　　　　　　　　：前項の④（P166）で登録した、「ユーザー名」を入力
・パスワード　　　　　　　　　　　：前項の④（P166）で登録した、「パスワード」を入力

その他の設定については、本機能を使用しない場合と同じです。

＜「Outlook Express 4.72.3110.5」での設定例＞

①起動画面で、「ツール」メニューの中の「アカウント」をクリックしてください。
　設定するアカウントを選択して、「プロパティ」ボタンをクリックしてください。

②「サーバー」のタブをクリックしてください。下記画面が表示されますので、
　「受信メール（POP3）」に、ET-MPSの IPアドレスを、
　「アカウント名」に、ET-MPSに登録した、「ユーザー名」を、
　「パスワード」に、ET-MPSに登録した、「パスワード」を、入力してください。



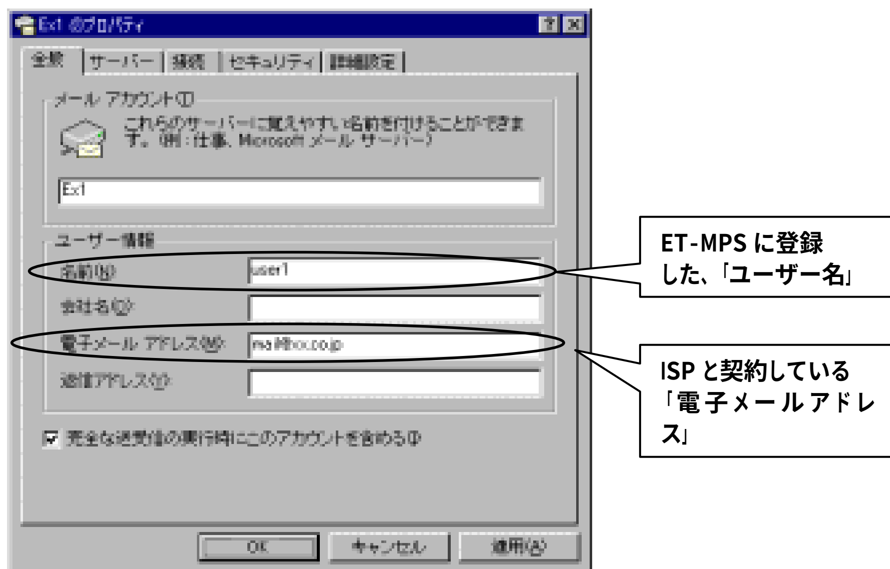
備考：上記画面例に入力されている情報は、参考例です。
　　　使用する環境に合わせて設定を行ってください。

＜次ページへ続く＞

③「全般」のタブをクリックしてください。下記画面が表示されます。
本項目では、メール送信時に相手に送る差出人情報の設定を行います。
こちらから送信したメールに対して、相手が返信する時等に、本情報が使用されます。

相手先が使用するメーラーによっては、こちらから送ったメールを正しく返信できない場合があります。詳しくは、「7.5.3 登録ユーザー宛に送信する側のメーラーの設定」(P171) を参照してください。

「名前」に、ET-MPSに登録した、「ユーザー名」を、
「電子メール アドレス」に、 "ISPと契約している「電子メールアドレス」" を入力して、
「OK」ボタンをクリックしてください。



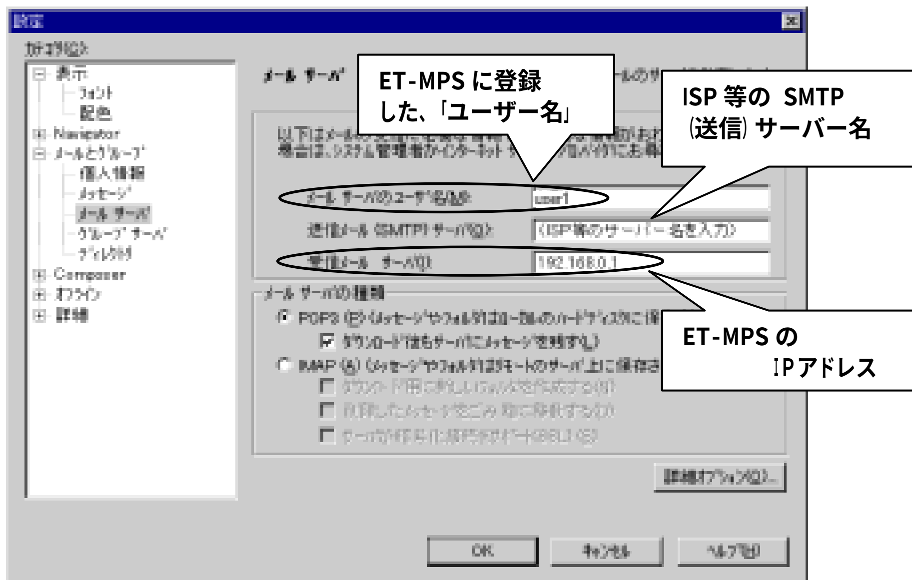
備考：上記画面例に入力されている情報は、参考例です。 使用する環境に合わせて設定を行ってください。

④「インターネット アカウント」を閉じてください。

＜「Netscape Communicator 4.06」での設定例＞

①「Messenger」を起動して、「編集」メニューの中の「設定」をクリックしてください。

②「メールとグループ」をダブルクリックし、「メールサーバー」をクリックしてください。
下記画面が表示されますので、
「メール サーバーのユーザー名」に、ET-MPSに登録した「ユーザー名」を、
「受信メールサーバー」に、ET-MPSのIPアドレスを入力してください。



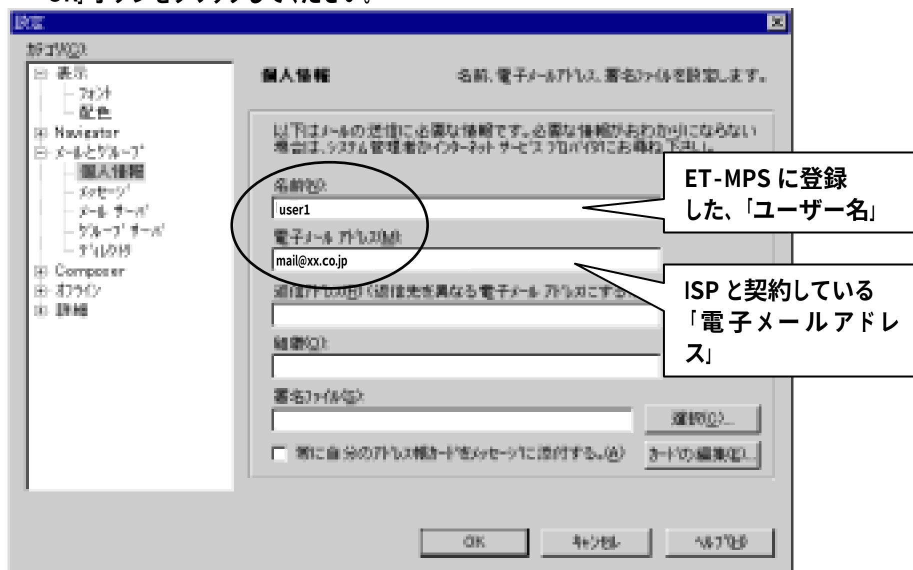
備考：上記画面例に入力されている情報は、参考例です。
　　　使用する環境に合わせて設定を行ってください。

＜次ページへ続く＞

③「個人情報」をクリックしてください。下記画面が表示されます。
本項目では、メール送信時に相手に送る差出人情報の設定を行います。
こちらから送信したメールに対して、相手が返信する時等に、本情報が使用されます。

> **相手先が使用するメーラーによっては、こちらから送ったメールを正しく返信できない場合があります。詳しくは、「7.5.3 登録ユーザー宛に送信する側のメーラーの設定」(次ページ) を参照してください。**

「名前」に、ET-MPSに登録した、「ユーザー名」を、
「電子メール アドレス」に、"ISPと契約している「電子メールアドレス」" を入力して、
「OK」ボタンをクリックしてください。



> 備考：上記画面例に入力されている情報は、参考例です。
> 　　　使用する環境に合わせて設定を行ってください。

＜受信の際の注意事項＞

◆メーラーの設定を、「サーバーにメールを残す設定」にした場合、151通目以降のメールを通知することができませんので、注意してください。

[7.5.2　電子メール共有機能を使用するメーラーの設定　　以上]

７．５．３　登録ユーザー宛に送信する側のメーラーの設定

電子メール共有機能を使用しているユーザー宛に、メールを送信するための、メーラーの設定について説明します。相手（送信する側）に、本説明に基づき、メーラーの設定を行ってくれるよう依頼してください。

電子メール共有機能を使用しているユーザー宛に、メールを送信するためには、
下記2つの条件のどちらか、または両方が可能なメーラーに限り、使用可能です。

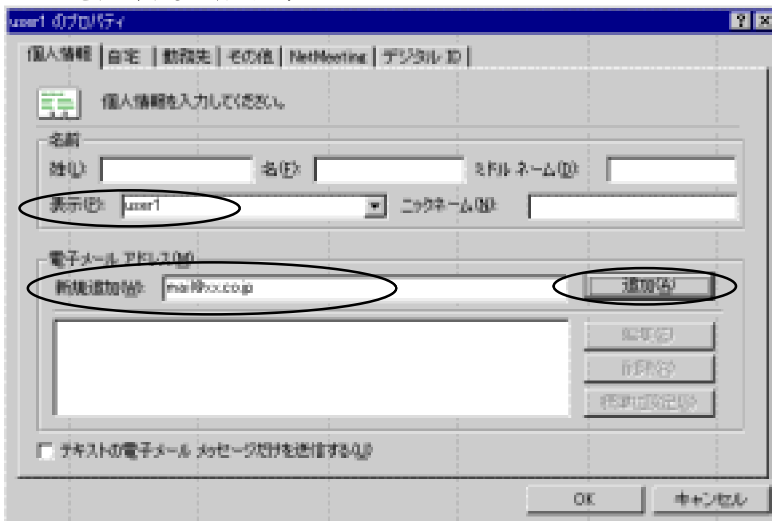
◆「宛先　(To)」に、 ”登録ユーザー名”<メールアカウント> が入力できるメーラー。

　例）“USER1”<mail@xx.co.jp>

◆「アドレス帳」登録により、「宛先　(To)」に、 ”登録ユーザー名”<メールアカウント> を生成することができるメーラー。

　下記に、「Outlook Express 4.72.3110.5」での設定例を説明します。

①起動画面で、「ツール」メニューの中の「アドレス帳」をクリックしてください。
「新規の連絡先」ボタンをクリックしてください。下記画面が表示されますので、
「表示」に、ET-MPSに登録した、「ユーザー名」を、
「新規追加」に、”ISPと契約している「電子メールアドレス」” を入力し、「追加」ボタンをクリックしてください。



②「OK」ボタンをクリックしてください。「アドレス帳」を閉じてください。

備考1：メール送信時の「宛先」には、「ＭＲＬ」と表示されますが、実際には「“USER1”<mail@xx.co.jp>」宛にメールを送信します。 備考2：上記画面例に入力されている情報は、参考例です。使用する環境に合わせて設定を行ってください。

＜次ページへ続く＞

＜送信の際の注意事項＞

◆電子メール共有機能を使用しているユーザーは、「写し（Cc）」で送信されたメールを受信することができません。必ず「宛先　（To）」で、送信してください。

◆送信相手が複数の場合、電子メール共有機能を使用しているユーザーを、その中に含めることはできません。必ず、電子メール共有機能ユーザー一人宛に、送信してください。

◆Netscape Communicator に付属の「Messenger」は、「宛先」にも「アドレス帳」にも、”登録ユーザー名”<メールアカウント> を設定できません。
（前ページに記載した使用条件の方法では設定できません。）

第8章　設定の終了

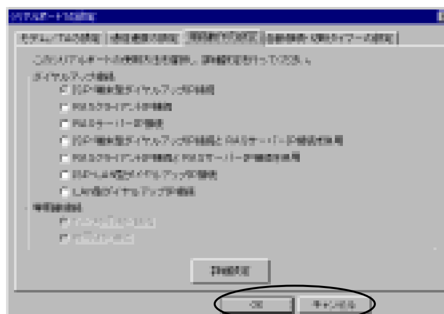
８．１　設定内容の保存

本項目では、設定を有効にするために、ET-MPSに設定内容を保存する方法について説明します。

①必要な設定、もしくは設定変更が完了しましたら「*シリアルポート1の設定*」又は「*シリアルポート2の設定*」画面で「*OK*」ボタンをクリックしてください。
設定を無効にしたい場合は「*キャンセル*」ボタンをクリックしてください。



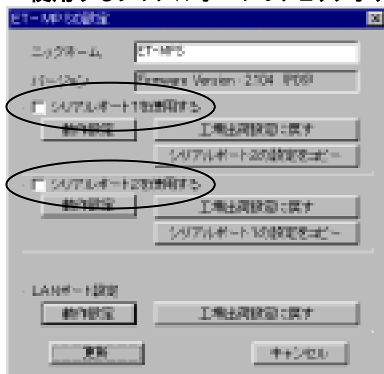






・「*OK*」ボタンをクリックすると、一時的に設定内容を保存（更新）します。
・「*キャンセル*」ボタンをクリックすると、設定前の状態に戻ります。

②使用するシリアルポートを選択します。
使用するシリアルポートのチェックボックスをチェックしてください。



◆「*シリアルポート1（又はシリアルポート2）を使用する*」にチェックがある場合
→そのシリアルポートが使用可能になります。

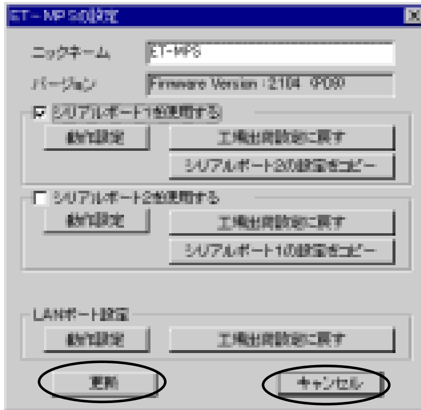
備考：シリアルポートを使用する場合、必ずチェックしてください。

◆「*シリアルポート1（又はシリアルポート2）を使用する*」にチェックがない場合
→そのシリアルポートが使用不可になります。

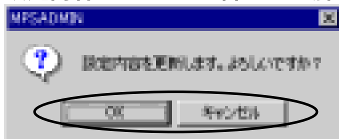
備考：シリアルポートを使用しない場合や、設定は完了していても使用しない場合等は、チェックをしないでください。

＜次ページへ続く＞

③設定した内容を有効にする、又は更新する場合、「*更新*」ボタンをクリックしてください。
更新せずに設定ツールを終了する場合、「キャンセル」ボタンをクリックしてください。



④下記画面で「*OK*」ボタンをクリックすると、全ての設定内容がET-MPSに書き込まれます。「*キャンセル*」ボタンをクリックすると、前の設定画面に戻ります。
設定内容をET-MPSへ書きこむ場合は「*OK*」ボタンをクリックしてください。



確 認	「*OK*」ボタンをクリックするとET-MPSは、内部的に再起動を行います。 （この時パソコンは再起動されません。また、パソコンを再起動する必要もありません） この時、回線が接続されている場合、回線を切断しますので注意してください。
	専用線接続の場合は、設定内容の保存　→　ET-MPSを再起動後、すぐに回線への再接続を行います。

⑤設定ツールを終了します。「*終了*」ボタンをクリックしてください。



設定が終わりましたら「第9章　回線の接続/切断」（P179）へ進んでください。

［8.1　設定内容の保存　　以上］

8．2　設定を工場出荷設定に戻す

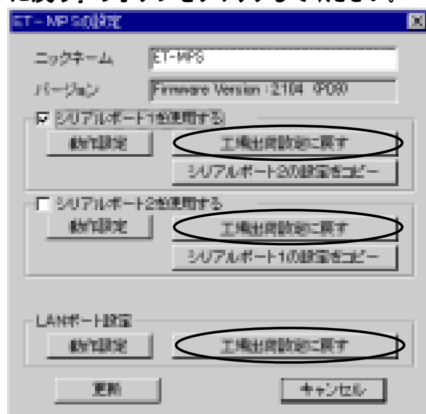
本項目では、各設定を工場出荷値に戻し、再度設定をやり直したい場合の方法を説明します。

①「3.3.1　設定ツールの起動」（P49）の手順で設定ツールを起動してください。

②シリアルポート1の設定内容を工場出荷値にする場合は、「*シリアルポート1を使用する*」の「*工場出荷設定に戻す*」のボタンをクリックしてください。

シリアルポート2の設定内容を工場出荷値にする場合は、「*シリアルポート2を使用する*」の「*工場出荷設定に戻す*」のボタンをクリックしてください。

LANポートの設定内容を工場出荷値にする場合は「*LANポート設定*」の「*工場出荷設定に戻す*」のボタンをクリックしてください。



確　認	「*LAN ポート設定*」の「*工場出荷設定に戻す*」ボタンをクリックすると、LAN ポートの全ての設定（DHCP　サーバー、パスワード、ファイアウォール、スタティックルーティング、SYSLOG、電子メール共有）が工場出荷値に戻りますので、注意してください。

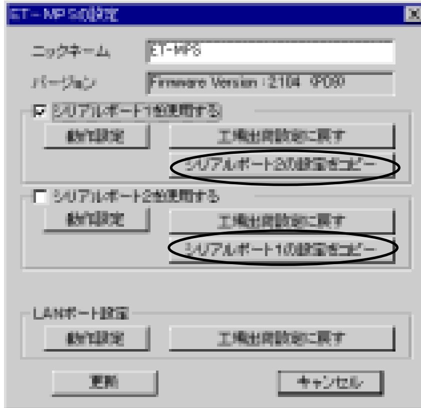
備考：全ての設定を工場出荷設定に戻したい場合は、3つのボタンをそれぞれクリックしてください。

8．3　シリアルポート間の設定コピー

本項目では、シリアルポート間で設定をコピーする方法について説明します。

シリアルポート2の設定をシリアルポート1へコピーする場合、「*シリアルポート1を使用する*」の「*シリアルポート2の設定をコピー*」ボタンをクリックしてください。

シリアルポート1の設定をシリアルポート2へコピーする場合、「*シリアルポート2を使用する*」の「*シリアルポート1の設定をコピー*」ボタンをクリックしてください。



確　認	設定は全て上書きされますので注意してください。
	「シリアルポート x を使用する」にチェックが入っていた場合、「シリアルポート x を使用する」チェックが外れます。 例えば、シリアルポート 1 を使用していて（「*シリアルポート 1 を使用する*」のチェックボックスにチェックが入っている）、「*シリアルポート 2 の設定をコピー*」ボタンをクリックした場合、シリアルポート 1 にシリアルポート 2 の設定がコピーされ、「*シリアルポート 1 を使用する*」のチェックが外れます。

＜MEMO＞

第9章　回線の接続/切断

9．1　各アプリケーションの設定

本項目では、各アプリケーションの設定について説明します。

●専用線IP接続の場合

インターネットへ接続して使用するアプリケーションは、LANを使用してインターネットに接続するように設定してください。(ダイヤルアップ接続は不可)

●ダイヤルアップIP接続の場合

使用するアプリケーションの設定を次項目以降で説明するように設定してください。

確 認	定期的にインターネットへデータを送るアプリケーションをご使用の場合、ユーザーが意図しないときに、ダイヤルアップ IP 接続を行ってしまいます。その都度、電話料金がかかりますので、くれぐれも注意してください。
	モデムを使用して自動でダイヤルアップ接続する場合、ISP との接続に時間がかかるため、WWW ブラウザやメールソフトウェア及び FTP クライアントソフトウェア等を起動したときにアプリケーション側でタイムアウトを起こすことがあります。その場合は、アプリケーションを再起動･再読み込みしてください。

9．1．1　WWWブラウザの設定

WWWブラウザの設定は、下記のように設定してください。

◆LANを使用してインターネットに接続する。(ダイヤルアップ接続は不可)

◆プロキシサーバーは使用しない。

以降、Internet　Explorerの例を説明します。

①「*マイコンピュータ*」→「*コントロールパネル*」→「*インターネット*」の順番にダブルクリックしてください。

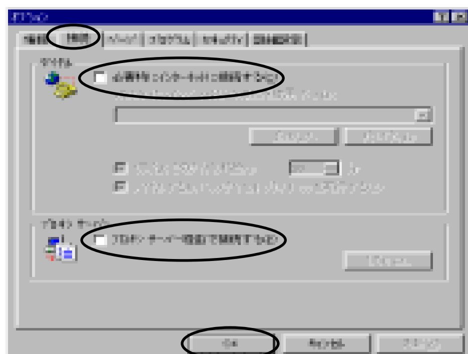
②「*接続*」のタブをクリックしてください。下記の画面が表示されます。

<Internet Explorer 3.02 の場合>

◆「*必要時にインターネットに接続する*」

◆「*プロキシサーバー経由で接続する*」

以上 2 ヶ所のチェックを外してください。

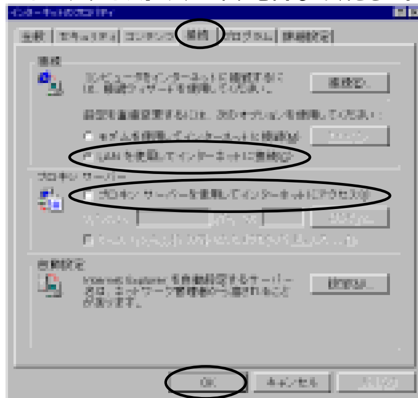


設定が終わりましたら「*OK*」ボタンをクリックしてください。次ページへ進んでください。

<Internet Explorer 4.01 の場合>

◆「*LAN を使用してインターネットに接続*」を選択してください。

◆「*プロキシサーバーを使用してインターネットへアクセス*」のチェックを外してください。



９．１．２　メールソフトウェアの設定

メールソフトウェアの設定は、下記のように設定してください。

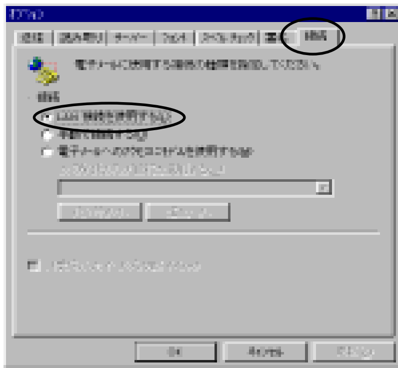
◆LANを使用してインターネットに接続する。（ダイヤルアップ接続は不可）

◆受信設定で、定期的に新着メールの確認を行わないようにする。

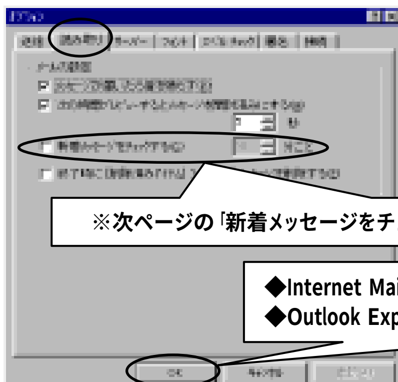
以降、Internet Mail 及び Outlook Express の例を説明します。

< Internet Mail の場合>

①Internet Mail 起動後、「*メール*」メニューから「*オプション*」をクリックし、「*接続*」のタブをクリックすると下記の画面が表示されます。「*LAN接続を使用する*」を選択してください。



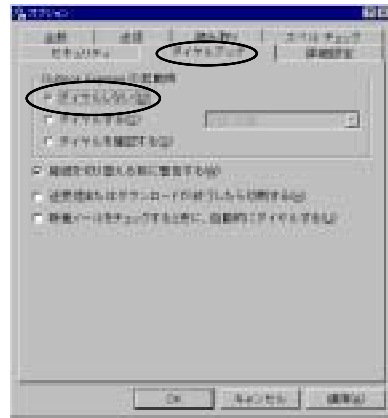
②「*読み取り*」のタブをクリックすると下記画面が表示されますので、「*新着メッセージをチェックする*」のチェックを外して「*OK*」ボタンをクリックしてください。



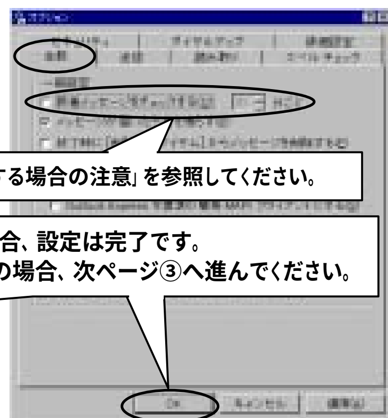
設定が終わりましたら「*OK*」ボタンをクリックしてください。次ページへ進んでください。

< Outlook Express の場合>

①Outlook Express 起動後、「*ツール*」メニューから「*オプション*」をクリックし、「*ダイヤルアップ*」のタブを選択すると下記のような画面が表示されます。「*ダイヤルしない*」を選択してください。



②「*全般*」のタブをクリックすると下記画面が表示されますので、「*新着メッセージをチェックする*」のチェックを外して「*OK*」ボタンをクリックしてください。



※次ページの「新着メッセージをチェックする場合の注意」を参照してください。

◆Internet Mail の場合、設定は完了です。

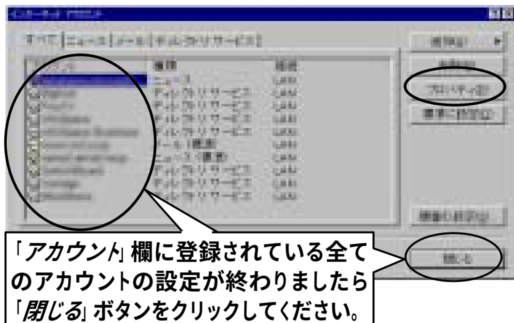
◆Outlook Express の場合、次ページ③へ進んでください。

<Outlook Express の続き>

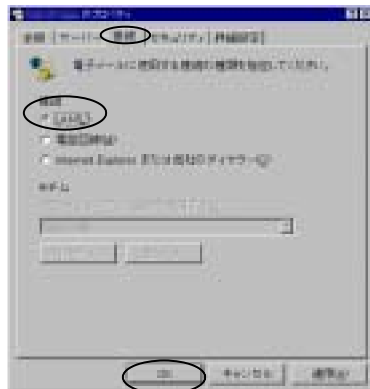
③「*ツール*」メニューから「*アカウント*」をクリックすると下記画面が表示されます。
「*アカウント*」欄から使用しているメールのアカウント名を選択して「*プロパティ*」ボタンをクリックしてください。



④「*接続*」のタブをクリックし、「*接続*」欄で「*LAN*」を選択して「*OK*」ボタンをクリックしてください。



「*アカウント*」欄に登録されている全てのアカウントの設定が終わりましたら「*閉じる*」ボタンをクリックしてください。



●新着メッセージをチェックする場合の注意

例えば、30分ごとに新着メッセージをチェックするよう設定した場合、ET-MPSは30分ごとにISPへダイヤルアップ接続します。接続後は無通信タイマーの設定時間が経過するまで、回線接続の状態が続きます。

新着メッセージを定期的にチェックする場合は、下記の項目に注意して設定してください。

◆メールソフトウェアでの、新着メッセージの確認時間サイクルを、長い時間サイクルに設定してください。（例えば、Internet Mail や Outlook Expressの場合、前ページの※印の場所で設定します。）

◆ET-MPSでの、「無通信タイマー」の設定時間を短い時間に設定してください。
（詳しくは「4.3.2　自動切断タイマーの設定」（P95）を参照してください。）

回線の接続方法については、それぞれ使用する接続機能に応じて下記へ進んでください。

■ISP・端末型ダイヤルアップIP接続を使用する場合
→「9.2.1　ISP・端末型ダイヤルアップIP接続での接続方法」（次ページ）へ進んでください。

■RASクライアントIP接続を使用する場合
→「9.2.2　RASクライアントIP接続での接続方法」（P185）へ進んでください。

■RASサーバーIP接続を使用する場合
→「9.2.3　RASサーバーIP接続での接続方法」（P186）へ進んでください。

■ISP・LAN型ダイヤルアップIP接続を使用する場合
■LAN型ダイヤルアップIP接続を使用する場合
→「9.2.4　ISP・LAN型/LAN型ダイヤルアップIP接続での接続方法」（P186）へ進んでください。

■ISP・専用線IP接続を使用する場合
→「9.2.5　ISP・専用線IP接続での接続方法」（P186）へ進んでください。

■ローカル専用線接続を使用する場合
→「9.2.6　専用線IP接続での接続方法」（P186）へ進んでください。

［9.1　各アプリケーションの設定　　以上］

９．２　回線を接続する

本項目では、各接続機能での接続方法を説明します。接続を行う前に、各機器の接続、及び設定が完了していることを確認してください。

９．２．１　ISP･端末型ダイヤルアップIP接続での接続方法

●自動接続

ET-MPSに接続されているパソコンで、インターネットを利用するアプリケーション（WWWブラウザ、メールソフトウェア等）を起動すると、自動的にISPへの接続を行います。

このとき、Windows98/95やWindowsNT4.0のダイヤルアップネットワーク画面は表示されません。

もし、ダイヤルアップネットワークの画面が表示された場合、180～182ページを参照してインターネットを利用するアプリケーション（WWWブラウザ、メールソフトウェア等）の設定を再度確認してください。

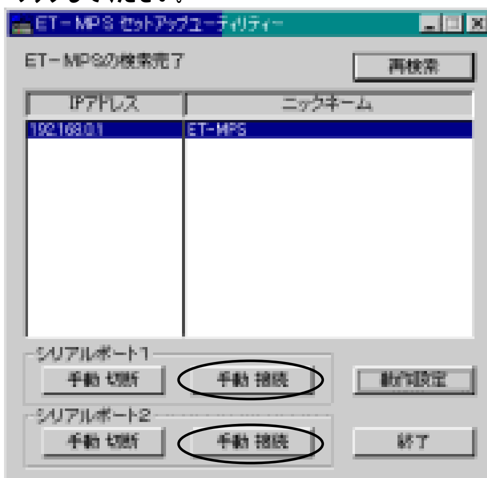
※「4.3.1　自動接続モードの設定」（P94）で自動接続機能を有効にした場合のみ機能します。

備考：「ping」と「NetBIOS」の発行では、ファイアウォールの工場出荷時設定のため、自動でダイヤルアップはしません。

●手動接続

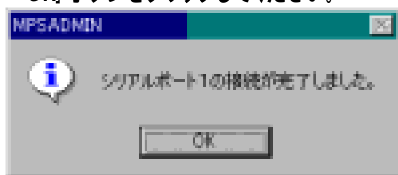
設定ツールがインストールされているパソコンからは、手動接続ができます。

「3.3.1　設定ツールの起動」（P49）の手順で設定ツールを起動し、リスト内に表示されたET-MPSの中から、接続したいET-MPSを選択してください。選択されたET-MPSがハイライト表示されます。
接続したいシリアルポート（シリアルポート1、又はシリアルポート2）の「*手動接続*」ボタンをクリックしてください。

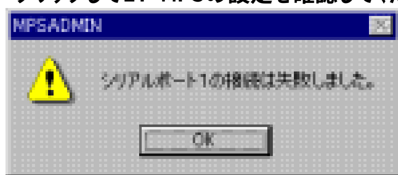


＜次ページへ続く＞

手動接続が完了すると下記画面が表示されます。
「*OK*」ボタンをクリックしてください。



このとき、下記画面が表示された場合は「*OK*」ボタンをクリックした後、「*動作設定*」ボタンをクリックしてET-MPSの設定を確認してください。

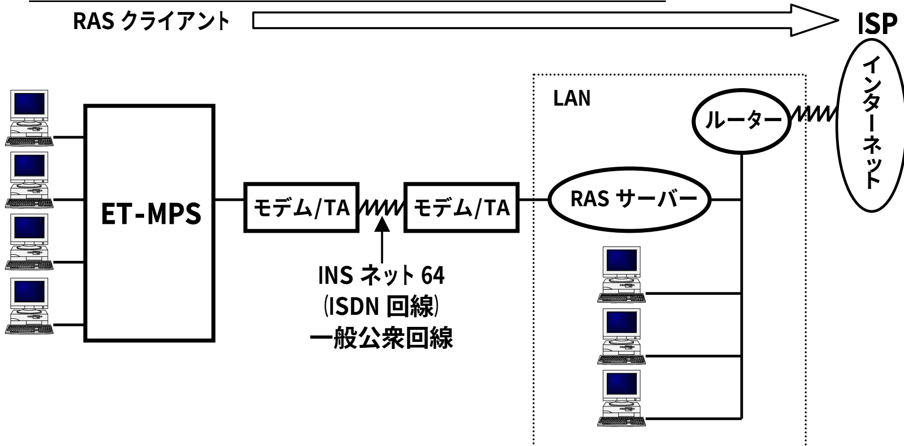


手動接続に失敗した原因として下記が考えられます。
◆アカウント（ユーザー名、パスワード）が間違っている。（半角大文字・小文字等）
◆アクセスポイント（電話番号）が間違っている。
◆モデム/TA の設定が間違っている。
◆ケーブル（LAN及びシリアルケーブル）が抜けている。
◆モデム/TA に異常が発生した。
　→モデム/TA の電源を一度 OFF にした後、再度 ON にしてください。
◆ET-MPS に異常が発生した。
　→ET-MPS の電源を一度 OFF にした後、再度 ON にしてください。

回線の切断方法については「9.3.1　一般公衆回線・INSネット64接続での切断方法」（P187）へ進んでください。

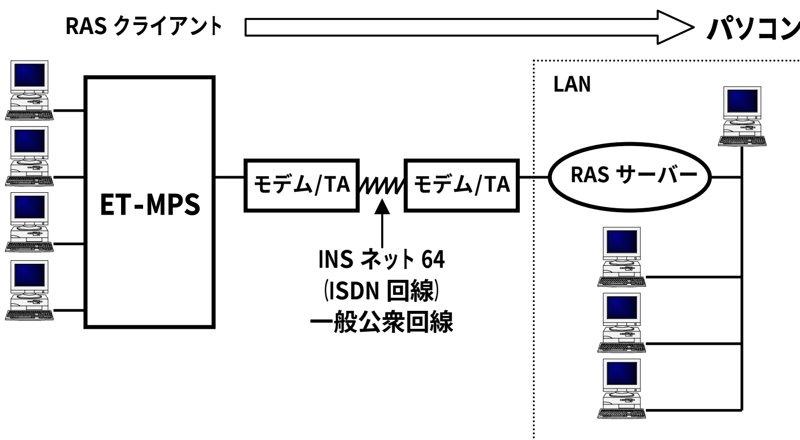
9．2．2　RASクライアントIP接続での接続方法

●RASサーバー経由でISPへ接続する場合（下図は構成例です。）



接続方法は前項「9.2.1　ISP・端末型ダイヤルアップIP接続での接続方法」と同様です。
自動接続が有効な場合は、ET-MPSに接続されているパソコンで、インターネットを利用するアプリケーション（WWWブラウザ、メールソフトウェア等）を起動すると、自動的にRASサーバーへの接続を行います。
手動による接続も前項「9.2.1　ISP・端末型ダイヤルアップIP接続での接続方法」と同様です。

●パソコンへRAS接続する場合（下図は構成例です。）



接続される側のパソコンには、WWWサーバーやFTPサーバー等がセットアップされており、かつクライアント側のパソコンにも、そのサーバーと通信するためのアプリケーションが必要です。アプリケーション側で接続サーバーを指定して接続を行います。
回線の切断方法については「9.3.1　一般公衆回線・INSネット64接続での切断方法」（P187）へ進んでください。

９．２．３　RASサーバーIP接続での接続方法

ET-MPSの電源投入時、又は設定ツールでの「RASサーバーIP接続」の設定が有効になった時点から、自動でRASクライアントからの着信待ちになります。RASクライアントからの接続要求により、自動で回線接続を行います。

回線の切断方法については「9.3.1　一般公衆回線・INSネット64接続での切断方法」（P187）へ進んでください。

９．２．４　ISP・LAN型/LAN型ダイヤルアップIP接続での接続方法

●発信時

接続方法は「9.2.1　ISP・端末型ダイヤルアップIP接続での接続方法」（183ページ）と同様です。自動接続が有効な場合は、ET-MPSに接続されているパソコンで、インターネットを利用するアプリケーション（WWWブラウザ、メールソフトウェア等）を起動すると、自動的にISP等への接続を行います。

手動による接続も「9.2.1　ISP・端末型ダイヤルアップIP接続での接続方法」と同様です。

●着信時

ET-MPSの電源投入時、又は設定ツールでの「ISP・LAN型ダイヤルアップIP接続」又は「LAN型ダイヤルアップIP接続」の設定が有効になった時点から、自動でISP等からの着信待ちになります。ISPからの接続要求があると、自動で回線への接続を行います。

回線の切断方法については「9.3.1　一般公衆回線・INSネット64接続での切断方法」（P187）へ進んでください。

９．２．５　ISP・専用線IP接続での接続方法

●TAとET-MPSの電源が投入されている場合

設定ツールでの「専用線接続」の設定が有効になった時に、自動で回線接続を行います。

●TAとET-MPSの電源が切れていた場合

TA　→ET-MPSの順番で電源をONにしてください。ET-MPSの電源がONにされた時に、自動で回線接続を行います。

回線の切断方法については「9.3.2　専用線接続での切断方法」（P189）へ進んでください。

９．２．６　専用線IP接続での接続方法

前項「9.2.5　ISP・専用線IP接続での接続方法」と同様です。上記項目を参照してください。

回線の切断方法については「9.3.2　専用線接続での切断方法」（P189）へ進んでください。

［9.2　回線を接続する　　以上］

9．3　回線を切断する

ET-MPSからの回線切断方法を下記の2種類に分けて説明します。

◆ISP･端末型及びLAN型ダイヤルアップIP接続時の回線切断方法
◆RASクライアント･サーバーIP接続時の回線切断方法
→「9.3.1　一般公衆回線･INSネット64接続での回線切断」（次項）を参照してください。

◆ISP･専用線IP接続時の回線切断方法
◆専用線IP接続時の回線切断方法
→「9.3.2　専用線接続での回線切断」（P189）を参照してください。

9．3．1　一般公衆回線･INSネット64接続での切断方法

●回線の自動切断

「4.3.2　自動切断タイマーの設定」（P95）で設定した切断タイマーにより切断します。
（設定方法や実際の動作内容等、詳しくは上記項目を参照してください。）
切断方法は下記の2通りがあります。

◆「無通信　自動切断」機能による切断
◆「無切断時間指定」機能による切断

●回線の手動（強制）切断

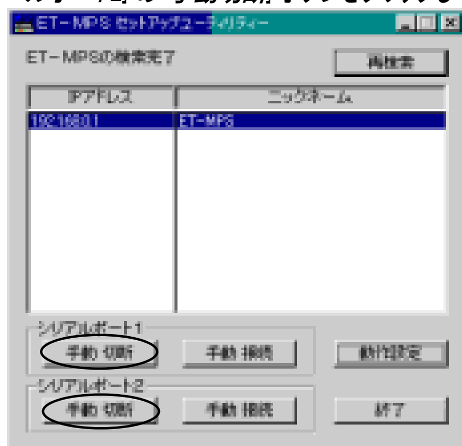
設定ツールがインストールされているのパソコンからは、手動で強制切断ができます。
下記に方法を説明します。

①「3.3.1　設定ツールの起動」（P49）の手順で設定ツールを起動し、リスト内に表示されたET-MPSの中から回線を切断したいET-MPSを選択してください。選択されたET-MPSがハイライト表示されます。

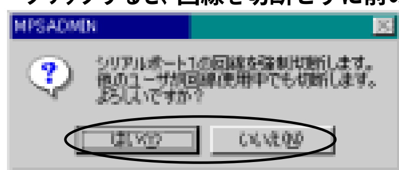


<次ページへ続く>

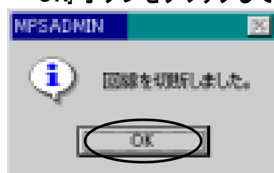
②選択したET-MPSのシリアルポート1の回線を切断する場合は、「*シリアルポート1*」の「*手動切断*」のボタンをクリックし、シリアルポート2の回線を切断する場合は、「*シリアルポート2*」の「*手動切断*」ボタンをクリックしてください。



③下記画面で「*はい*」ボタンをクリックすると、回線の切断を行います。「*いいえ*」ボタンをクリックすると、回線を切断せずに前の設定画面に戻ります。



④「*はい*」ボタンをクリックし、回線の切断が完了すると、下記の画面が表示されます。「*OK*」ボタンをクリックしてください。次ページ⑤の画面に移ります。



このとき、下記の画面が表示された場合はシリアルポート1、又はシリアルポート2に接続されているモデム又はTAの電源をOFFにしてください。
「*OK*」ボタンをクリックし、次ページ⑤へ進み、設定ツールを終了させた後、ET-MPSの電源を一度OFFにしてください。

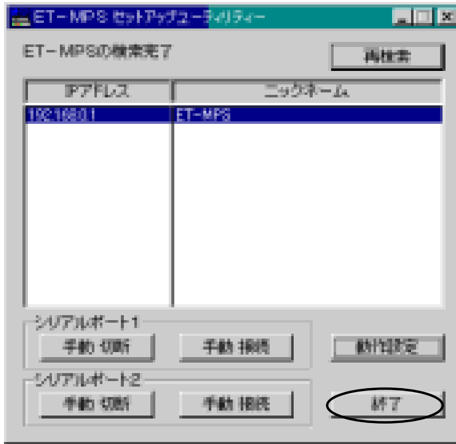


切断できなかった場合、下記の原因が考えられますので、確認してください。

◆モデム/TA に異常が発生した。
◆ET-MPS に異常が発生した。
◆ケーブル（LAN 及びシリアルケーブル）が抜けている。

＜次ページへ続く＞

⑤「*終了*」ボタンをクリックしてください。設定ツールを終了します。



※設定の変更等を行う場合は「*動作設定*」ボタンをクリックしてください。

備考①：	ISPへのダイヤルアップIP接続の場合、ISPによっては、ISP側から無通信タイマー等により回線切断を行うサービスがあります。これによる回線切断も可能です。
備考②：	RASクライアントIP接続の場合、RASサーバー側からの回線切断（手動、無通信タイマー等）でも切断可能です。
備考③：	RASサーバーIP接続の場合、RASクライアント側からの回線切断（手動、無通信タイマー等）でも切断可能です。

9．3．2　専用線接続での切断方法

基本的には、回線を切断することはできません。
TAのメンテナンスや交換等で回線を切断したい場合は、TAの電源を切ってください。
再度接続する時は「9.2.5　ISP･専用線IP接続での回線接続」（P186）を参照してください。

＜MEMO＞

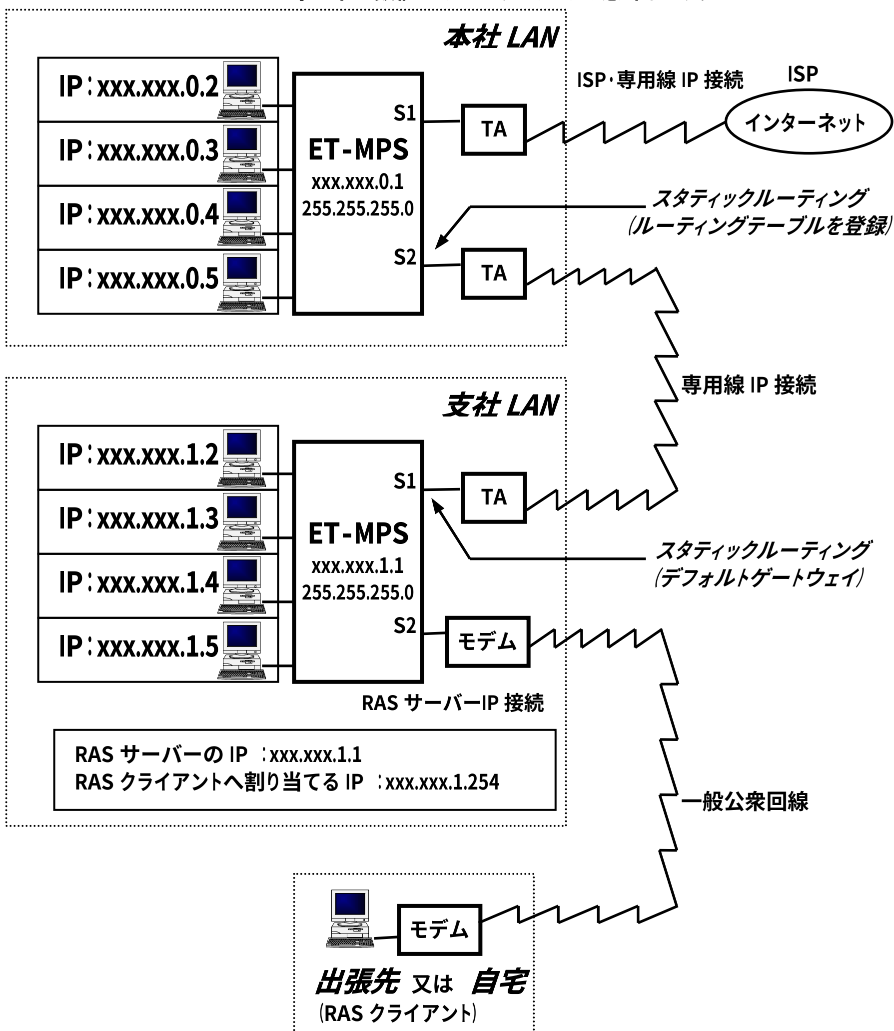
第１０章　応用

10．1　ISP⇔本社⇔支社を専用線接続する例

下図のような接続構成にした場合、「支社」からも「支社に接続したRASクライアント」からも、本社が専用線で接続しているISPへ接続することが可能です。「本社」、「支社」、「自宅、又は出張先」の3ヶ所で1つのISP専用線を共有することが可能になります。
この場合のIPアドレスの設定及び、スタティックルーティングの設定を下記に説明します。

●接続構成図

※「IP」は IP アドレスを意味します。
※「IP」の下の数値はサブネットマスクを意味します。



＜次ページへ続く＞

●本社のIPアドレス及びルーティング設定

◆ET-MPS自身のIPアドレスの設定
IPアドレス　：xxx.xxx.0.1
サブネットマスク　：255.255.255.0

◆S1（シリアルポート1）
・接続動作　：ISP・専用線IP接続

◆S2（シリアルポート2）
・接続動作　：専用線IP接続
・スタティックルーティング（ルーティングテーブル）の設定（下記アドレスを登録）
IPアドレス　：xxx.xxx.1.0
サブネットマスク　：255.255.255.0

◆各パソコン
IPアドレス　：xxx.xxx.0.2～xxx.xxx.0.254（重複不可）
サブネットマスク　：255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ　：xxx.xxx.0.1

●支社のIPアドレス及びルーティング設定

◆ET-MPS自身のIPアドレスの設定
IPアドレス　：xxx.xxx.1.1
サブネットマスク　：255.255.255.0

◆S1（シリアルポート1）
・接続動作　：専用線IP接続
・スタティックルーティングの設定（下記をチェック）
「このシリアルポートをデフォルトゲートウェイに設定」

◆S2（シリアルポート2）
・接続動作　：RASサーバーIP接続
サーバーIPアドレス　：xxx.xxx.1.1（LANポートのアドレスを設定）
クライアントIPアドレス　：xxx.xxx.1.254

◆各パソコン
IPアドレス　：xxx.xxx.1.2～xxx.xxx.1.253（重複不可）
サブネットマスク　：255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ　：xxx.xxx.1.1

●出張先又は自宅（RASクライアント）のIPアドレス設定（Windows98/95の場合）

◆「*ダイヤルアップネットワーク*」の「*プロパティ*」で、「*サーバーの種類*」の中の「*TCP/IP設定*」で「*サーバーが割り当てたIPアドレス*」を選択します。

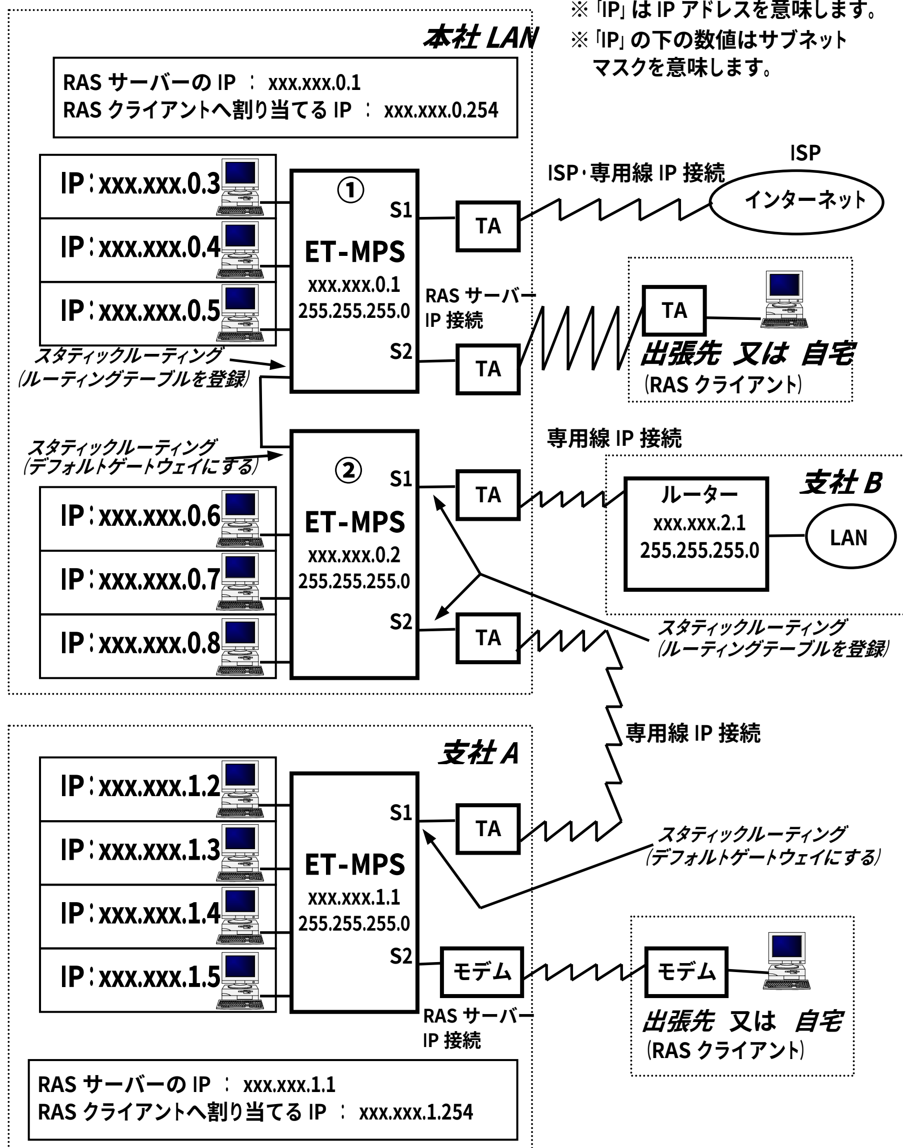
◆「*コントロールパネル*」→「*ネットワーク*」→「*TCP/IP -> ダイヤルアップアダプタ*」の「*プロパティ*」の中の「*IPアドレス*」で「*IPアドレスを自動に取得*」を選択します。

［10.1　ISP⇔本社⇔支社を専用線接続する例　以上］

10．2　LAN内にET-MPSを複数台設置する例

LAN内にET-MPSを複数台設置し、スタティックルーティングを組み合わせることにより、接続環境の拡張が行えます。各支社との接続及びISP専用線の共有が可能です。
下記を参考にIPアドレスの設定及び、スタティックルーティングの設定を行ってください。

●接続構成図



＜次ページへ続く＞

●本社のIPアドレス及びルーティング設定

<<本社ET-MPS①のIPアドレス及びルーティング設定>>

◆ET-MPS自身のIPアドレスの設定

IPアドレス　：xxx.xxx.0.1
サブネットマスク　：255.255.255.0

◆LANのスタティックルーティング（ルーティングテーブルの設定（下記アドレスを登録）

登録 1
- IPアドレス　：xxx.xxx.1.0
- サブネットマスク　：255.255.255.0
- ゲートウェイアドレス　：xxx.xxx.0.2

登録 2
- IPアドレス　：xxx.xxx.2.0
- サブネットマスク　：255.255.255.0
- ゲートウェイアドレス　：xxx.xxx.0.2

◆S1（シリアルポート1）

・接続動作　：RASサーバーIP接続
　サーバーIPアドレス　：xxx.xxx.0.1
　クライアントIPアドレス　：xxx.xxx.0.254

◆S2（シリアルポート2）

・接続動作　：専用線IP接続

<<本社ET-MPS②のIPアドレス及びルーティング設定>>

◆ET-MPS自身のIPアドレスの設定

IPアドレス　：xxx.xxx.0.2
サブネットマスク　：255.255.255.0

◆LANのスタティックルーティングの設定値（下記をチェック＆入力）

・「LAN上のデフォルトゲートウェイを使用する」をチェック
・デフォルトゲートウェイ　：xxx.xxx.0.1」を入力

◆S1（シリアルポート1）

・接続動作　：専用線IP接続
・スタティックルーティング（ルーティングテーブル）の設定（下記アドレスを登録）
　IPアドレス　：xxx.xxx.2.0
　サブネットマスク　：255.255.255.0

◆S2（シリアルポート2）

・接続動作　：専用線IP接続
・スタティックルーティング（ルーティングテーブル）の設定（下記アドレスを登録）
　IPアドレス　：xxx.xxx.1.0
　サブネットマスク　：255.255.255.0

<<本社LAN内の各パソコンのIPアドレス>>

IPアドレス　：xxx.xxx.0.3～xxx.xxx.0.253（重複不可）
サブネットマスク　：255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ　：xxx.xxx.0.1

＜次ページへ続く＞

●支社AのIPアドレス及びルーティング設定

◆ET-MPS自身のIPアドレスの設定

IPアドレス	：	xxx.xxx.1.1
サブネットマスク	：	255.255.255.0

◆S1（シリアルポート1）

・接続動作 ： 専用線IP接続

・スタティックルーティングの設定値（下記をチェック）

「このシリアルポートをデフォルトゲートウェイに設定」

◆S2（シリアルポート2）

・接続動作	：	RASサーバーIP接続
サーバーIPアドレス	：	xxx.xxx.1.1
クライアントIPアドレス	：	xxx.xxx.1.254

◆各パソコン

IPアドレス	：	xxx.xxx.1.2～xxx.xxx.0.253（重複不可）
サブネットマスク	：	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	：	xxx.xxx.1.1

●主張先又は自宅（RASクライアント）のIPアドレス設定（Windows98/95の場合）

◆「*ダイヤルアップネットワーク*」の「*プロパティ*」で、「*サーバーの種類*」の中の「*TCP/IP設定*」で「*サーバーが割り当てたIPアドレス*」を選択します。

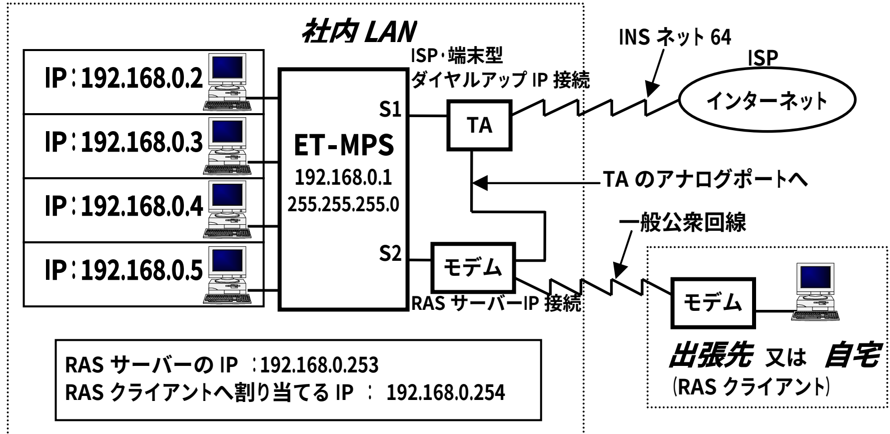
◆「*コントロールパネル*」→「*ネットワーク*」→「*TCP/IP -> ダイヤルアップアダプタ*」の「*プロパティ*」の中の「*IPアドレス*」で「*IPアドレスを自動に取得*」を選択します。

10．3　INSネット64を使った応用例

TAのアナログポートにモデムを接続して使う場合の例です。
RASサーバーIP接続をモデムと組み合わせることにより、一般公衆回線を利用してTA経由で出張先又は自宅からインターネットへ接続することが可能になります。
下記を参考に設定を行ってください。

●接続構成図

※「IP」は IP アドレスを意味します。「IP」の下の数値はサブネットマスクを意味します。



●社内LANのIPアドレス及びルーティング設定

◆ET-MPS自身のIPアドレスの設定

IPアドレス	：	192.168.0.1
サブネットマスク	：	255.255.255.0

◆S1（シリアルポート1）

・接続機能	：	ISP・端末型ダイヤルアップIP接続

◆S2（シリアルポート2）

・接続機能	：	「*RASサーバー*」
サーバーIPアドレス	：	192.168.0.253
クライアントIPアドレス	：	192.168.0.254

◆各パソコン

IPアドレス	：	192.168.0.2～192.168.0.253（重複不可）
サブネットマスク	：	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	：	192.168.0.1

●出張先又は自宅（RASクライアント）のIPアドレス設定
（Windows98/95の場合）

◆「*ダイヤルアップネットワーク*」の「*プロパティ*」で、「*サーバーの種類*」の中の「*TCP/IP設定*」で「*サーバーが割り当てたIPアドレス*」を選択します。

◆「*コントロールパネル*」→「*ネットワーク*」→「*TCP/IP -> ダイヤルアップアダプタ*」の「*プロパティ*」の中の「*IPアドレス*」で「*IPアドレスを自動に取得*」を選択します。

[10.3　INSネット64を使った応用例　　以上]

<MEMO>

第１１章　資料

11．1　製品仕様

基本仕様

分　類	項　目	仕　　　様
シリアル インターフェース	ポート数	2 ポート
	インターフェース	V.24/V.28 (RS-232C) ー 通信速度 28.8Kbps 以上は V.28 勧告外
	コネクタ形状	シリアルポート 1　Dsub 9 ピン　オス シリアルポート 2　Dsub 25 ピン　オス
	通信速度	1.2 / 2.4 / 4.8 / 7.2 / 9.6 / 14.4 / 19.2 / 28.8 / 38.4 / 57.6 / 115.2 / 230.4 / 460.8 （ K bps ）
	フロー制御方式	ハードウェアフロー制御 （ RTS/CTS ）
LAN インターフェース	ポート数	4 ポート （ HUB 機能 カスケードポート無し ）
	インターフェース	IEEE802.3/ISO8802-3 CSMA/CD 10BASE-T
	コネクタ形状	8 ピンモジュラ （ RJ-45 ）
	通信速度	10M bps
ヒューマン インターフェース	スイッチ	電源スイッチ
	LED	POWER, SIO 送受信 x 2 ポート 10BASE-T リンクステータス x 4 ポート
物理仕様	外形寸法	199 (W) x 124 (D) x 33 (H) mm
	重量	約 400 g （ 本体のみ ）
消費電力		最大　約 10W
環境条件	温度	0 ～ 40 ℃
	湿度	25 ～ 85 % (結露なきこと)

ファームウェア基本仕様

分　類	項　目	仕　　　　様
シリアル インターフェース	接続機器	AT コマンドインターフェース機器 : アナログモデム　/　TA
	AT コマンド インターフェース 機器接続形態	ダイヤルアップ IP クライアント　最大 1 ポート
		IP サーバー　最大 2 ポート
	監視機能	CD 信号モニタ
LAN インターフェース	実装プロトコル	UDP:RFC768
		IP:RFC791, ARP:RFC826
		ICMP:RFC792
	ネットワーク 管理機能	ICMP : RFC792
	アドレス解決	DHCP : RFC1541 サーバー機能
	アドレス設定	IP アドレスとサブネットマスクは、LAN 上の PC の専用 S/W から設定

IP／PPP接続･通信仕様

分　類	項　目	仕　　　　様
シリアル通信仕様	呼接続機能	AT コマンド (米国ヘイズ社モデムコマンド)
	適応回線	PSTN　/　ISDN(BRI)　-- モデム/ TA 依存
	適応 BRI 回線 (TA 接続時)	INS ネット 64 / OCN エコノミー64Kbps･HSD / 128Kbps･HSD / デジタルアクセス 64 / デジタルアクセス 128 / ODN(日本テレコム)
	通信ﾌﾟﾛﾄｺﾙ	PPP : RFC1331
	認証ﾌﾟﾛﾄｺﾙ	IPCP : RFC1332　PAP
ルーティング機能	ルーティング プロトコル	IP : RFC791 ― ユニキャストフレームのみ

ダイヤルアップIPクライアント機能

分　類	項　目	仕　　　様	
アドレス変換機能	変換方式	NAT　(最大 256 セッション)	
		IP ﾏｽｶﾚｰﾄﾞ (最大 256 セッション)	
ISP ダイヤルアップ IP 接続機能	接続先登録	PPP 接続	ISP 登録 ：1 ヶ所、マルチダイヤル ：3 ヶ所
	接続機能	自動接続 ー 自セグメント宛以外のフレーム受信時に自動接続	
	切断機能	CD 信号 OFF による切断	
		切断コマンドによる手動切断	
		時間指定による自動切断	
		無通信タイマによる自動切断 (送受信タイマ / 送信タイマ / 受信タイマ)	
RAS ダイヤルアップ IP 接続機能	接続先登録	PPP 接続	RAS サーバー登録 ： 1 ヶ所
	接続機能	自動接続 ー 自セグメント宛以外のフレーム受信時に自動接続	
	切断機能	CD 信号 OFF による切断	
		切断コマンドによる手動切断	
		時間指定による自動切断	
		無通信タイマによる自動切断 (送受信タイマ / 送信タイマ / 受信タイマ)	
ISP･LAN 型 IP 接続機能･着呼	接続先登録	PPP 接続	ISP 登録 ：1 ヶ所
	接続機能	自動接続 ー 自セグメント宛のフレーム受信時に自動接続	
	切断機能	CD 信号 OFF による切断	
		切断コマンドによる手動切断	
		時間指定による自動切断	
		無通信タイマによる自動切断 (送受信タイマ / 送信タイマ / 受信タイマ)	
ISP･LAN 型 IP 接続機能･発呼	接続先登録	PPP 接続	ISP 登録 ：1 ヶ所、マルチダイヤル ：3 ヶ所
	接続機能	自動接続 ー 自セグメント宛以外のフレーム受信時に自動接続	
	切断機能	CD 信号 OFF による切断	
		切断コマンドによる手動切断	
		時間指定による自動切断	
		無通信タイマによる自動切断 (送受信タイマ / 送信タイマ / 受信タイマ)	
ISP･専用線型 IP 接続機能	接続機能	常時接続 ー 自セグメント宛以外のフレーム受信時に接続開始	
	切断機能	なし (専用線接続の場合、電源 OFF で切断)	

ダイヤルアップIPサーバー機能

分　類	項　目	仕　　　　　　　様
RAS ダイヤルアップ IP 接続機能	ユーザー 登録数	最大 8 ユーザー
	接続機能	リモートアクセスユーザーからの接続要求による 自動接続
	切断機能	CD 信号 OFF による切断
		切断コマンドによる手動切断
		時間指定による自動切断
		無通信タイマによる自動切断 (送受信タイマ/ 送信タイマ/ 受信タイマ)
	認証方式	PAP
	補助機能	コールバック機能

11．2　用語の説明

ATコマンド

米国ヘイズ社によって開発されたモデムや TA を制御･操作するためのコマンドです。

DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol)

自動的にネットワークの設定を行うプロトコル (通信手順) のことです。DHCP サーバーはネットワーク内のクライアントに対して自動動的にネットワークの設定を行います。

DNS (Domain Name System)

TCP/IP ネットワークで使われ、コンピュータについた名前と実際の IP アドレスを関連付けるシステムです。

DNSサーバー

ネットワークのグループについた名前を問い合わせると、その IP アドレスを教えてくれるサーバーのことです。DNS サーバーを使用することにより、WWW ブラウザ等のアドレス入力欄でアドレスを文字で入力することができます。
(IP アドレスの数値を直接入力する必要が無くなります)

Ethernet

Xerox 社、DEC 社、Intel 社の 3 社が仕様を開発した LAN の通信方式で、10BASE-T、10BASE5 等があります。

HUB

10BASE-T ケーブル (RJ-45 規格) を複数本集めて、通信を行うための LAN 機器 (集配線装置) です。

infファイル

TA やモデムを Windows が制御するための設定情報ファイルです。

IPアドレス

TCP/IP プロトコル (インターネットで使用されている規約) を使用して構築されるネットワークで、接続されている全ての機器を区別するために付けられるアドレス (番地) のことです。

- プライベート IP アドレス：インターネットと接続しない環境でのみ使用可能なアドレスです。
- グローバル IP アドレス：インターネットで使用可能な IP アドレスです。全世界で一括管理されており、他と重複しません。

IPマスカレード

ISP 又は RAS サーバーから提供された一つのグローバル IP アドレスを複数のプライベート IP アドレスへ変換し、同時に複数台のコンピュータでインターネットへ接続できるようにする機能です。NAT とは異なり、同時にインターネットへ接続できるコンピュータの台数は、ISP や RAS サーバーから提供されたグローバル IP アドレスの数には依存しません。
ただし、IP マスカレードでは正しく動作しないアプリケーションもありますので、その場合は NAT を使用します。

ISP (Internet Service Provider)

インターネット・サービス・プロバイダの略称です（単にプロバイダと呼ばれることが多い）。企業や個人に対しインターネットへ接続する通信サービスを提供する回線業者のことです。

LAN (Local Area Network)

ローカル・エリア・ネットワークの略称です。小規模なコンピュータネットワークのことです。
LAN に対して WAN(Wide Area Network)があり、WAN は LAN 同士を結ぶ大規模なネットワーク（インターネット等）のことです。

LAN型ダイヤルアップIP接続

ISP の接続サービスのひとつで、LAN とインターネットを接続する際に、LAN から ISP へ、ISP から LAN へと双方向からのダイヤルアップ IP 接続を可能にする方法です。

NAT (Network Address Translator)

LANで使用しているプライベートIPアドレスをインターネットで使用できるグローバルIPアドレスへ変換することにより、プライベートIPアドレスしか持たないLANのコンピュータからインターネットへ接続できるようにする機能です。
NAT の場合、プライベート IP アドレスとグローバル IP アドレスは 1 対 1 で対応していなければなりません。同時にインターネットへ接続できるコンピュータの台数は、ISP や RAS サーバーから提供されたグローバル IP アドレスの数に依存します。

OCNエコノミー (Open Computer Network)

NTT 社が提供するインターネット専用線接続サービスの一つです。

ODNエコノミー (Open Data Network)

日本テレコム社が提供するインターネット専用線接続サービスの一つです。

RAS (Remote Access Service)

公衆電話回線等を利用して、遠隔地からコンピュータネットワークを使用することです。

TCP/IP (Transmission Control Protocol / Internet Protocol)

インターネットで使用されている通信手順です。米国で開発され、現在では数多くのコンピュータネットワークで採用されています。

10BASE-T

ツイストペアケーブル (10BASE-T ケーブル) を使用した Ethernet の通信方式の一つで、最大伝送速度は 10Mbps です。

クライアント

ネットワーク内で、サービスを受ける側のことです。

ゲートウェイ

通信手順の異なるネットワーク同士を接続するための機器やシステムです。
ゲートウェイに該当する機器の IP アドレス (ゲートウェイアドレス) をゲートウェイと呼ぶこともあります。

コールバック

こちらからかけた電話を相手が受信後一旦回線を切り、相手からこちらにかけ直す機能です。従って、RAS サーバーへの接続要求認証時の通話料金だけで、その後の通話料金はサーバー側の課金になります。

サーバー

ネットワーク内で、他のパソコン (クライアント) からの要求を受け、サービスを提供する側のコンピュータのことです。

サブネットマスク

LAN で使用可能なアドレスの範囲を決めるために、IP アドレスと組み合わせる値です。

シリアルインタフェース

モデムや TA 等、シリアル転送 (データを 1bit ずつ送る) を行う周辺機器を接続するインタフェースです。代表的なものとして、RS-232 があります。

スタティックルーティング

ルーティングするための情報をあらかじめルーターに設定しておき、常に決まったルートを通って目的のノード (ネットワークに接続されているコンピュータ等) へパケット (ネットワーク内を流れるデータ) を送る方法です。静的ルーティングとも呼びます。

専用線

一般公衆回線とは異なり、通信時間や接続距離とは無関係に固定料金で通信できる、常時接続されたままの専用通信回線のことです。(通信相手は 1 対 1 で固定です)

専用線接続

インターネットへ接続する際、専用線を使用して接続を行う方法です。

ダイヤルアップIP接続

インターネットへ接続する際に、モデムや TA 等で ISP へ電話をかけて接続する方法です。

端末型ダイヤルアップIP接続

1 台のパソコンからインターネットへ接続する際に、ISP へダイヤルアップ IP 接続を行う方法です。

ディジタルアクセス64/128

NTT 社が提供する廉価版ディジタル専用線サービスです。30km 以下の近距離がサービス対象となります。通信速度はそれぞれ 64Kbps、128Kbps です。

テレホーダイ

夜間 (11:00PM～8:00AM) に限り、なおかつあらかじめ登録された電話番号先に限り、通話 (通信) 時間に関係無く一定料金で通話できるようにする NTT 社のサービスです。

パケット

ネットワーク内を流れるデータです。

ファームウェア

ET-MPS 内部で動作し、ET-MPS のコントロールを行うプログラムです。

フラッシュROM

専用の機器を使用しなくても消去／書込が可能なメモリです。現在、パソコン等の BIOS (基本プログラム) やハードディスクの制御プログラム等を格納するメモリとして広く使用されています。

リンク

各機器間を接続することです。

ルーター

複数の LAN 等、ネットワークを相互に接続するための機器です。

ルーティング

ネットワークのパケットを、正しく目的ノード（ネットワークに接続されている機器）へ届くように制御することです。

セッション

TCP/IP プロトコルによるデータ処理の単位です。

第１２章　付録

１２．１　トラブルシューティング (Q&A)

PLANTコールセンターへのお問い合わせ

サポートソフトのバージョンアップ

修理について

12．1　トラブルシューティング（Q&A）

Q. 設定ツールを起動しても ET-MPS が見つからない。

A-1. ET-MPS の電源が ON になっていますか？

A-2. ET-MPS とパソコンが 10BASE-T ケーブル（ストレートケーブル）で正しく接続されいてますか？
また、ET-MPS から HUB を経由しているパソコンの場合、ET-MPS と HUB が HUB のカスケードポート又はクロスケーブルで正しく接続されていますか？

A-3. ET-MPS を接続していないパソコンで設定ツールを起動した場合、パソコンにイーサネットボードが正しくセットアップされていますか？
→イーサネットボードのマニュアルを参照してください。

A-4. パソコンに TCP/IP プロトコルがセットアップされていますか？
パソコンの TCP/IP 設定と ET-MPS 本体の IP アドレス設定があっていますか？
ET-MPS の DHCP サーバーを使用しない場合、各パソコンに割り当てた IP アドレスが他のパソコンと重複していませんか？
ET-MPS 本体の IP アドレスを変更していない（192.168.0.1）場合、パソコンの IP アドレスは「192.168.0.2～192.168.0.254」の間に正しく割り当てていますか？

◆Windows98/95 の TCP/IP 設定については「2.6.3　TCP/IP プロトコルの設定」（P29）を参照してください。

◆WindowsNT4.0 の TCP/IP 設定については「2.7.3　TCP/IP プロトコルの設定」（P37）を参照してください。

◆ET-MPS 本体の IP アドレス設定については「3.3.4　ET-MPS 本体の LAN 設定－IP アドレスの設定」（P55）を参照してください。

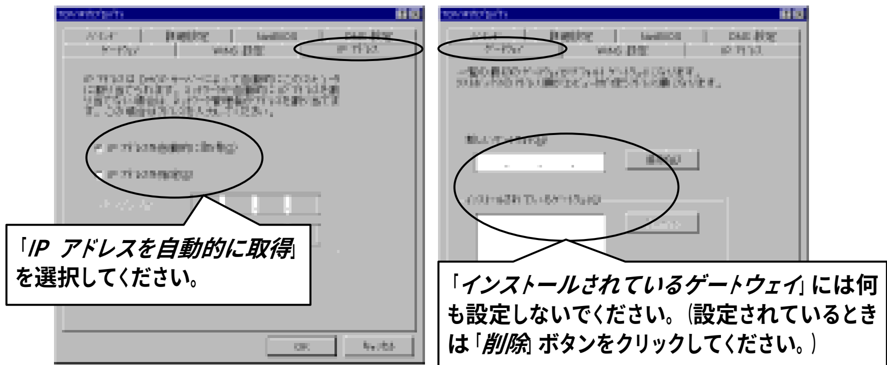
A-5. Windows98/95 を使用している場合、下記の手順で「*ダイヤルアップアダプタ*」の設定を確認してください。

①「*マイコンピュータ*」→「*コントロールパネル*」→「*ネットワーク*」の順番にダブルクリックしてください。

②「*ネットワーク*」画面で「*TCP/IP->ダイヤルアップアダプタ*」を選択して「*プロパティ*」ボタンをクリックしてください。

③「*TCP/IPのプロパティ*」画面が表示されますので、それぞれ「*IPアドレス*」と「*ゲートウェイ*」のタブをクリックして、下記のような設定になっているか確認してください。
（次ページ以外の画面については特に設定を変更する必要ありません。）

＜次ページへ続く＞



Q. WindowsNT の RAS クライアント (ダイヤルアップネットワーク) から ET-MPS の RAS サーバーへ接続できない。

A. WindowsNT の RAS クライアント (ダイヤルアップネットワーク) 側の認証設定が「*クリアテキストを含む任意の認証....*」に設定されていますか？
「5.4.2　クライアント側の設定」(P118) を参照してください。
(WindowsNT4.0 の場合の設定例があります。)

Q. ET-MPS の RAS クライアントから WindowsNT の RAS サーバーへ接続できない。

A. WindowsNT の RAS サーバー側の認証設定が「*クリアテキストを含む任意の認証....*」に設定されていますか？
「5.4.1　サーバー側の設定」(P116) を参照してください。
(WindowsNT4.0 の場合の設定例があります。)

Q. インターネットへ接続できない。モデムや TA がダイヤルしない。

A-1. ISP の DNS サーバーのアドレスが正しく設定されていますか？

A-2. ゲートウェイアドレスが正しく設定されていますか？

上記2項目 (パソコンのTCP/IP設定) については下記ページを参照してください。

- ◆Windows98/95 の TCP/IP 設定については「2.6.3　TCP/IP プロトコルの設定」(P29) を参照してください。
- ◆Windows NT4.0 の TCP/IP 設定については「2.7.3　TCP/IP プロトコルの設定」(P37) を参照してください。
- ◆ET-MPS の DHCP サーバーの設定については「3.3.5　DHCP サーバーの設定」(P58) を参照してください。

＜次ページへ続く＞

A-3. ET-MPSとモデム/TAがそれぞれの製品に添付されている専用シリアルケーブルで正しく接続されていますか？
「2.5.1　シリアルケーブル（モデム/TA）の接続」（P21）を参照してください。

A-4. モデムを使用している場合、電話回線種別の設定は合っていますか？
「3.3.8　シリアルポートに接続するモデム/TA の設定」（P69）を参照してください。

A-5. 通信速度の設定は合っていますか？
「3.3.9　通信速度の設定」（P76）を参照してください。

A-6. モデム/TA の CD 信号動作設定が「CD 信号が常に ON」のような設定になっていませんか？
「2.4.2　モデム/TA 設定の注意」（P20）を参照してください。

Q. WWW ブラウザやメールソフトウェアを起動するとダイヤルアップ接続の画面が表示される。

A. WWW ブラウザやメールソフトウェアの設定が「LAN を使用してインターネットへ接続する」ように設定されていますか？
「9.1　各アプリケーションの設定」（P180）を参考にしてください。
（Internet Explorer、Internet Mail、Outlook Express の設定例があります。）

Q. ネットワーク対戦ゲームが動作しないときがある。ホームページによってはサウンドやビデオが正しく再生されないときがある。

A. アドレス変換方式で「*IP　マスカレード*」を選択している場合、一部正しく動作しないアプリケーションがあります。この場合は「*NAT*」を選択するか IP マスカレードの詳細設定を行った後にお試しください。
設定方法については下記を参照してください。

◆「*ISP・端末型ダイヤルアップ IP 接続*」の場合、「4.1.2　IP　アドレス変換の設定」（P83）を参照してください。

◆「*RAS クライアント IP 接続*」の場合、「5.1.4　IP アドレス変換の設定」（P104）を参照してください。

◆IP マスカレードの詳細設定については「7.4　IP マスカレードの詳細設定」（P154）を参照してください。

Q. 設定ツールで無通信自動切断を 60 分に設定しても、60 分経たないうちに回線が切断される。無切断時間を指定しているにも関わらず、回線が切断される。

A. ISP 側の無通信タイマーにより、ISP 側が回線を切断している場合があります。
（ET-MPS が回線を切断する前に、ISP が回線を切断してしまう場合があります。）
詳しくはご利用の ISP へ確認してください。

＜次ページへ続く＞

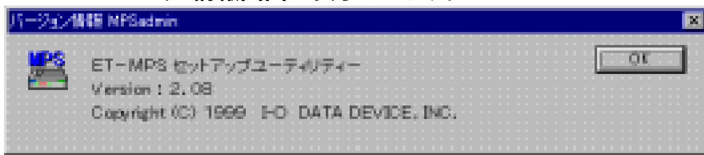
Q.設定ツールで無通信自動切断を3分に設定しているが、3分以上経っても回線が切断されない。

A-1.定期的にインターネットへデータを送るアプリケーションが起動していると、回線が切断されません。(例えば、メールソフトウェアが定期的に新着メールをチェックしている場合等。)
そのようなアプリケーションは終了させてください。
(Internet Explorer 4.0 以降のアクティブデスクトップも OFF にしてください。)
なお、メールソフトウェアの設定については「9.1.2　メールソフトウェアの設定」(P181) を参考にしてください。
(Internet Mail、Outlook Express の設定例があります。)

A-2.インターネットのホームページによっては、ページ内容の更新のため定期的にデータの送受信が発生することがあります。
(例えば、ホームページのバナー広告等。)
無通信自動切断を確実に行いたい場合、WWW ブラウザを終了させてください。

Q.設定ツールのバージョンが分からない。

A.設定ツールを起動してタイトルバーのところにマウスカーソルを持っていき、マウスの右ボタンをクリックしてください。
メニューが表示されますので「*バージョン情報*」をクリックしてください。
設定ツールのバージョン情報画面が表示されます。



PLANTコールセンターへのお問い合わせ

弊社PLANTコールセンターへのお問い合わせはユーザー登録された方に限ります。

■お知らせいただく事項

1. お客様の住所･氏名･郵便番号･連絡先の電話番号及びFAX番号
2. ご使用の弊社製品名と、サポートソフトウェアディスクのシリアルNo.
   (フロッピーディスクに貼ったVerシールに印刷されています。)
3. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番。
4. ご使用のOS(NOS)とアプリケーションの名称、バージョン及びメーカー名。
5. 現在の状態(どのようなときに、どうなり、今はどうなっているか。画面の状態やエラーメッセージなどの内容)。

■オンライン (パソコン通信)

ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ　http://www.iodata.co.jp/
「PLANTコールセンターお問い合わせ」内のフォームを使用してE-mailをお送りください。

NIFTY SERVE　ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀｽﾃｰｼｮﾝ(SIODATA)サポート会議室

■郵便

住所　〒920-8512 石川県金沢市桜田町24街区1
株式会社アイ・オー・データ機器
PLANTコールセンター「ET-MPS」係　宛

■電話

電話番号　東京　03-5256-2010

受付時間　9:30～12:00　13:00～17:00
月～金曜日（祝祭日を除く）

■FAX

FAX番号　東京　03-3254-9055

宛先　株式会社アイ・オー・データ機器
PLANTコールセンター「ET-MPS」係　宛

本製品に関するお問い合わせはPLANTコールセンターのみで行っています。

予めご了承ください。

サポートソフトのバージョンアップ

入手方法は以下の通りです。なお、当サービスはユーザー登録された方のみが対象です。

■オンライン（パソコン通信）

ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ	http://www.iodata.co.jp/ → 「ｻﾎﾟｰﾄ･ﾗｲﾌﾞﾗﾘ」
NIFTY SERVE	ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀｽﾃｰｼｮﾝ(SIODATA)のﾗｲﾌﾞﾗﾘ11(LIB 11)

■バージョンアップ窓口からの郵送

下記の窓口までお問い合わせください。（送料及び手数料はお客様負担）

住所　〒920-8512 石川県金沢市桜田町24街区1
株式会社アイ・オー・データ機器
「ET-MPS」 バージョンアップ係　宛

電話番号　076-263-7070

受付時間　9:30～12:00 13:00～17:00 月～金曜日(祝祭日を除く)

ご注意

●パソコン通信によるダウンロードはお客様の責任のもとで行ってください。
●添付ソフトウェアの中には、当サービス対象外のソフトウェアもあります。
●このサービスへのご質問は、弊社PLANTコールセンターやバージョンアップ窓口ではお受けできません。

修理について

弊社製品の修理については、以下の事項をご確認のうえ、販売店もしくは弊社PLANTコールセンターへご依頼ください。

- 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。
  また、修理品のデータに関しましては保証いたしかねます。

- 修理品にはご使用の環境や現在の状態（『PLANTコールセンターへのお問い合わせ』の「お知らせいただく事項」）をお書き添えください。

- 保証期間中は無償で修理いたします。ただし、次の場合は有償となります。
  ◇保証書がない場合
  ◇保証書の所定事項が未記入の場合
  ◇電源ONで挿入、抜去、逆挿入など誤った操作方法や、お買い上げ後の輸送、落下、取り付け場所の移設による破損、故障の場合
  ◇落雷などの事故による破損の場合
  ◇本製品を改造した場合

- 保証期間後は有償で修理いたします。
  製品によっては主要部品がﾕﾆｯﾄ化（一体化）されている場合があります。これらの製品で故障が主要部品におよんでいた場合、各ﾕﾆｯﾄの交換を実費で行います。

- 修理品送付先

住所	〒920-8513　石川県金沢市桜田町15街区7　ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ第2ビル 株式会社アイ・オー・データ機器 「ET-MPS」　修理係　宛

※修理品を送付される場合は、輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱･梱包材を使用してください。また、紛失等のトラブルを避けるため、宅配便または書留郵便小包でのご送付をお願いいたします。

- 修理品納期問い合わせ窓口

電話番号	金沢　076-260-3663
受付時間	9:30～12:00　13:00～17:00 月～金曜日（祝祭日を除く）

※申し込まれた修理品の納期をお知りになりたい場合は、こちらまでお問い合わせください。

ET-MPS 取扱説明書
1999.Jan.13 29583-01
発 行　株式会社アイ･オー･データ機器
〒920-8512 石川県金沢市桜田町24街区1

ここにお貼りください。

VERシール